

南スーダン共和国

南スーダン文化・青年・スポーツ省

南スーダン国
スポーツを通じた平和構築のための
情報収集・確認調査 報告書

平成 29 年 3 月

(2017 年)

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

株式会社 JIN

アフ
JR
17-024

目 次

1. 調査の概要.....	1
2. 情勢変化などに伴う業務内容の変化.....	1
3. 調査スケジュール・方法.....	2
4. 調査結果（要約）.....	4
5. 調査結果（詳細）.....	6
6. 今後の協力方針（案）.....	16
7. 各調査の詳細.....	17

別添 1 : MoCYS の 2015/16 年度予算書

別添 2 : MoCYS 関係者準備会合報告書（2016 年 9 月）

別添 3 : 州関係者準備会合討議議事録（2016 年 11 月）

別添 4 : MoCYS 関係者との第 2 回 National Unity Day 評価会報告書（2017 年 3 月）

別添 5 : 第 1 回現地調査議事録

別添 6 : 第 2 回現地調査議事録

別添 7 : 州関係者準備会合後の MoCYS 関係者アクションポイント

別添 8 : 第 2 回 National Unity Day プログラム

別添 9 : 第 7 回現地調査 技術交換プログラム議事録

略語集

C/P	Counterpart／カウンターパート
DP	Development Partner／開発パートナー
FIFA	Fédération Internationale de Football Association／国際サッカー連盟
FUFA	Federation of Uganda Football Associations／ウガンダサッカー協会
IDPs	Internally Displaced Persons／国内避難民
IGAD	Inter Governmental Authority on Development／政府間開発機構
JFA	Japan Football Association／日本サッカー協会
JICA	Japan International Cooperation Agency／国際協力機構
JISS	Japan Institute of Sports Sciences／国立スポーツ科学センター
MoCYS	Ministry of Culture, Youth and Sports／文化・青年・スポーツ省
MoE	Ministry of Education／教育省
NTC	National Training Center／ナショナルトレーニングセンター
POC	Protection of Civilians／民間人の保護
SSP	South Sudan Pound／南スーダンポンド
TTI	Teacher Training Institute／教員養成機関
UAF	Uganda Athletic Federation／ウガンダ陸上連盟
UN	United Nations／国際連合
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization／国連教育科学文化機関
UNICEF	United Nations Children's Fund／国連児童基金
UNMISS	United Nations Mission in South Sudan／国連南スーダン派遣団
USAID	United States Agency for International Development／米国国際開発庁
USD	United States Dollar／米国ドル
WPDI	Whitaker Peace & Development Initiative／ウィテカー平和開発イニシアチブ

1. 調査の概要

南スーダンでは、2013年12月に首都ジュバで発生した大統領警護隊同士の衝突が、政府与党内の派閥抗争の激化により発展し、民族間紛争の様相を呈し国内各地で大規模な暴力行為が深刻化した。アフリカの地域機構である政府間開発機構（IGAD）の仲介による和平交渉が進められたが、主に北部地域において政府軍と反政府軍の武力衝突が断続的に発生し、和平プロセスは膠着状況にあった。このような状況を受けて2015年4～5月に実施した、「南スーダン平和構築アセスメント及び情報収集・確認調査」では、国民は平和で安定した社会を強く求めており、民族融和の必要性が高まっていることが確認された。

南スーダンにおける民族融和に関し、同国では長年の紛争の影響を受けながらも、独立前の1990年代からスポーツイベント（Unity Day）の開催等により、民族の融和に貢献してきた歴史を有していることから、スポーツを通じた取組みは、民族融和・平和構築に向け一定の効果があると想定されている。

こうした状況を踏まえ、本調査では、今後の協力の可能性や内容を検討することを目的として、南スーダンにおけるスポーツを通じた平和構築に関する概況（スポーツ行政の現状・課題、民族融和にかかる取り組み等）及び南スーダンにおけるスポーツの普及状況等について情報収集・分析を行った。また、JICAの協力可能性やそのアイデアにつき提言をするとともに、今後の協力方針（案）の検討に必要な情報の収集・分析を実施した。

なお、2016年7月に発生した騒擾により、南スーダンの治安が著しく悪化したため、それ以降はJICA関係者が南スーダンへの入国が出来ない状況となった。このため、第4回現地業務からは、隣国のウガンダから遠隔での情報収集ならびに文化・青年・スポーツ省（MoCYS）のスポーツ事業実施を支援した。今後も南スーダン国内で、JICA関係者が業務できない可能性があることを鑑み、調査の後半では近隣国からの遠隔支援による協力可能性についても検討した。

2. 情勢変化などに伴う業務内容の変化

当初、本調査は2015年7月から開始され、2016年3月に終了する予定で実施された。その際には、以下の調査内容が設定されていた。

- スポーツを通じた平和構築支援を念頭に、政府機関の活動状況、国際機関、他ドナー等の活動計画・内容、等について情報収集を行う。
- 収集した情報をもとに、現地におけるニーズを調査・分析し、協力方針（案）を検討するとともに、今後の協力実施に向けた状況確認を行う。

以上の調査を実施するため、現地での情報収集、スポーツ関係者の本邦招へい、MoCYS主導による第1回全国スポーツ大会（National Unity Day）の実施支援を行った。

第1回 National Unity Dayの実施後、更なる情報収集の必要性が確認されたため、2016年9月まで調査期間を延長し、以下の業務を行った。

- 南スーダン政府主催による第1回 National Unity Dayの開催結果を踏まえ、そこから得られた本分野に関する教訓を分析する。

- 南スーダンにおける平和構築にかかるスポーツの活用について検討するワークショップ（中央政府を対象）に関し、その準備、開催及びとりまとめについて、MoCYSによる実施を支援する。

以上の調査を実施するため、2016年6月から7月にかけて、南スーダンを訪問し、MoCYS関係者からの聞き取り、ワークショップ実施にかかる準備の支援を行った。しかしながら、その直後、ジュバでの大統領警護隊と副大統領警護隊の衝突に端を發した騒擾が発生し、南スーダン全土の治安が著しく悪化したため、それ以降 JICA 関係者は南スーダンへの入国が出来ない状況となった。

このような状況から、調査内容を以下のとおり再設定し、調査期間を2017年3月まで延長した。

- 第2回National Unity Dayの準備・開催の支援（準備を含む）を行うとともに、それらの支援を通じて、以下の事項に関する情報を収集・確認する。
 - ✓ 2016年7月の騒擾発生以降における、MoCYSの組織体制、財政、行政能力及びスポーツ振興事業の現状と今後の見通し
 - ✓ 全国スポーツ大会等のスポーツ振興事業の、平和構築への有効性に対する2016年7月の騒擾の影響
 - ✓ 全国スポーツ大会における、参加者の公平感を確保するために必要なルールやトラブル発生の予防に必要な事項等の整理（2016年7月の騒擾の影響を考慮する）
- 第2回National Unity Dayの開催結果について、第三国へ招聘した南スーダンスポーツ関係者とともに振り返りを実施する。
- これまでの業務で収集・確認及び分析を行った情報を見直して整理するとともに、第3回以降のNational Unity Dayに向けた改善点を整理する。
- 他ドナー・NGOの南スーダンにおけるスポーツ分野・平和構築分野の主な支援活動に対する2016年7月騒擾の影響について、情報を収集・確認する。

上述のとおり、本調査は2回の調査内容の変更を経て実施された。

3. 調査スケジュール・方法

本調査では、7回の現地業務および南スーダン関係者の本邦招へい事業を実施した。第1回から3回までの現地業務では、南スーダン国内でのスポーツ関連機関ならびに現地のスポーツ活動の情報収集や第1回National Unity Dayの実施支援、第2回National Unity Dayの実施準備支援等を行った。また、本邦招へいでは、スポーツ関係者を日本に招へいし、日本のスポーツ行政やスポーツ連盟の活動などの視察を通じ、南スーダンにおけるスポーツ振興に有用な知見を習得した。

しかしながら、2016年7月に発生した騒擾による治安の悪化から、第4回現地業務以降は、隣国のウガンダで業務を実施した。第4回現地業務では、今後の取り組みの整理と、第2回National Unity Dayの準備態勢の立て直しを行い、それ以降の現地業務では州関係者準備会合の実施支援、第2回National Unity Day実施支援、技術交換事業ならびに第2回National Unity Day評価の実施支援を行った。

計7回に渡る現地業務と本邦招へい事業の支援概要については、下表のとおりである。業務前半は情報収集を中心に行ったが、後半からは全国レベルのスポーツ大会事

業の実施支援を通じた関係機関の事業実施能力のレベル、特に MoCYS のキャパシティを確認することが中心となった。

表 1：本調査での現地業務ならびに本邦招へいの概要

調査	調査目的	内容
第 1 回現地業務 (2015 年 8 月 2 日～9 日) 【南スーダン】	南スーダンでのスポーツ行政、スポーツ振興・普及に関する現状確認ならびに、今後の技術協力の内容検討	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関からの聞き取り調査による、南スーダンにおける、スポーツを通じた平和構築活動の可能性の確認 想定される JICA 技術協力の内容にかかる MoCYS との議論 スポーツイベントの実施準備支援
本邦招へい (2015 年 11 月 11 日～17 日)	日本のスポーツ行政(中央・地方)、スポーツ連盟の活動など、スポーツ振興全般にかかる現状確認	<ul style="list-style-type: none"> 日本のスポーツ行政(中央ならびに地方レベル)にかかる知見の習得 各スポーツ協会の活動についての情報収集 地方自治体によるスポーツ振興にかかる取り組み スポーツ施設ならびにスポーツイベントの視察
第 2 回現地業務 (2016 年 1 月 8 日～30 日) 【南スーダン】	第 1 回 National Unity Day の実施ならびにスポーツを通じた平和構築のあり方の検討	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 National Unity Day の準備・実施支援 MoCYS の事業実施キャパシティ分析 スポーツ振興・普及に関連する組織へのインタビュー JICA 技術協力プロジェクトの内容にかかる議論
第 3 回現地業務 (2016 年 6 月 25 日～7 月 8 日) 【南スーダン】	第 2 回 National Unity Day の実施準備支援	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 National Unity Day 実施における課題の抽出・整理 第 2 回 National Unity Day の実施にかかるスケジュール・タスク・準備会合等の整理
第 4 回現地業務 (2016 年 9 月 22 日～10 月 5 日) 【ウガンダ】	遠隔支援による第 2 回 National Unity Day の実施準備	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 回 National Unity Day の実施準備のための MoCYS 関係者との準備会合の実施 州関係者準備会合の準備
第 5 回現地業務 (2016 年 11 月 20 日～12 月 3 日) 【ウガンダ】	遠隔支援による第 2 回 National Unity Day の実施準備	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 回 National Unity Day の実施準備のための州関係者準備会合の実施 第 2 回 National Unity Day にかかる MoCYS 関係者との打合せ
第 6 回現地業務 (2017 年 1 月 16 日～2 月 7 日) 【ウガンダ】	遠隔支援による第 2 回 National Unity Day の実施	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 回 National Unity Day の実施支援 技術交換事業のためのウガンダスポーツ関連機関との協議
第 7 回現地業務 (2017 年 2 月 22 日～3 月 10 日) 【ウガンダ】	遠隔支援による第 2 回 National Unity Day の評価・今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> 南スーダンスポーツ関係機関の関係者を招へいしての技術交換事業の実施 第 2 回 National Unity Day の評価の実施

4. 調査結果（要約）

(1) 文化・青年・スポーツ省（MoCYS）の状況

MoCYS の予算は 2015/16 年度の予算ベースで 23,136,996 南スーダンポンド（SSP）であり、スポーツ開発に 4,910,469 SSP が、青年のエンパワメントに 5,233,930 SSP が計上されている。しかしながら、2012 年より続く緊縮財政のため、2015/16 年度の開発予算はほとんど執行されていない状況と想定される。

また、2016 年 7 月の騒擾後は、石油販売からの歳入の減少や、防衛費への偏った歳出により、国家経済は破たん寸前となっている。2016 年の時点で財務省は、向こう何年間には公務員給与以外の政府予算は一切ないと明言しており、現在は開発予算が全く確保できていない状態となっている。

また、南スーダンポンドの価値は著しく低下しているにもかかわらず、公務員は以前と同じ南スーダンポンド建ての給与体系で、昇給もなく、月給は実質数ドルの価値しかない状況である。また、給与の遅配は常習化しており、一般的に公務員のモチベーションは低く、公共サービスの提供に大きな支障が生じている。このような状況は MoCYS にも同様に起こっており、MoCYS 職員の多くが、低水準の給与では暮らしていけないと窮状を訴えている。

(2) 国際機関・他ドナーのスポーツ支援の状況

スポーツ振興関連活動に支援を行っている国際機関・ドナーは非常に少なく、調査の結果、国連教育科学文化機関（UNESCO）と米国国際開発庁（USAID）が具体的な活動を実施していることが確認された。

まず、国連教育科学文化機関（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization: UNESCO）については、同機関の支援により、2014 年 4 月 6 日に South Sudan International Day of Sport for Development and Peace というプログラムが MoCYS と共同で実施され、スポーツ大会や平和に関するスピーチなどが行われた。毎年、継続的に実施する予定であったが、予算不足のため、それ以降は実施できていない。

次に、米国国際開発庁（United States Agency for International Development: USAID）については、2016 年 4 月に平和と許し、和解の促進を目的して、ジュバ市での伝統的レスリングトーナメントの開催を支援した。このトーナメントでは、ジョングレイ州や東レイクス州、イマトン州、テレケカ州より多民族のレスラーが参加し、伝統的な衣装をまとい、レスリングを行った。また、音楽家なども招へいし、文化的な要素を強調したイベントとなった。

ただし、2016 年 7 月の騒擾後、MoCYS に対する国際機関や他ドナーによる支援は行われていない。また、MoCYS 以外のチャンネルを通じたスポーツ分野への支援状況については、騒擾後は隣国からの情報収集のみとなり、その全体概要は十分把握できていないが、ウェブサイトを通じた情報収集では、UNMISS や UNDP などにより、スポーツ分野への支援が、各地で散発的に行われていることが確認されている。

(3) National Unity Day の実施支援

本調査では、MoCYS 主導での National Unity Day の実施準備・実施・評価・改善プロセスを通じて、①MoCYS の事業実施能力、②National Unity Day 実施・スポーツ振興による平和構築支援への有効性、③スポーツ大会における公平性の確保やトラブル発生予防・発生時の対処への確認を行った。約 1 年半に渡り、第 1 回・2 回 National Unity Day の実施プロセスを支援・モニターし、上記事項を確認した。

1) MoCYSの事業実施能力

計2回のNational Unity Day開催を通じて、MoCYSの事業実施能力は飛躍的に向上したことが確認された。特にJICA関係者が南スーダンに入国できず、ウガンダからの遠隔支援となった第2回大会の実施プロセスでは、MoCYS関係者が自身で判断し、行動に移す必要性が高まったことから、MoCYS職員の当事者意識が一層醸成された。財務的な支援や必要最小限の技術的な支援で、十分大会運営ができるまで、キャパシティが強化されつつある。

2) National Unity Day実施・スポーツ振興による平和構築支援への有効性の確認

スポーツは人を引き寄せる魅力があり、そこで発せられるメッセージは、多くの人に伝えることが可能である。また、National Unity Dayにおいて、選手たちがフェアプレーの精神を持って競技する様子を見る観衆にとって、その選手たちから発せられる平和・和解・統合などのメッセージは、容易に理解されるものと考えられる。実際に、第2回National Unity Dayでは、サッカーの試合前に、両チームのキャプテンが、観衆に向かい平和のメッセージを伝えたが、その内容は観衆に明確に伝わり、National Unity Dayの意味を十分に理解していたと、MoCYS関係者は認識している。

ただし、スポーツの強力な魅力は、観衆の異常な興奮を誘い、衝突へと発展する可能性も秘めている。第2回National Unity Dayでは、観衆の一部が喧嘩を始めたため、それを制止しようとしたNational Security職員が空に向けて威嚇射撃を行った。観衆ならびに選手に怪我は無かったものの、警備体制を見直し、警備員の増員や適切な競技場の選定など、治安確保のためには、多くの改善の余地がある。

National Unity Day実施やスポーツ振興が、平和構築に寄与することは多くの人が認めるものの、選手・観衆に対するメッセージの出し方や、係争が起こった時の解決法、部族の枠を超えた交流を図るための配慮、治安の確保など、細かな部分まで注意を払い、強いメッセージが観衆間や選手間の衝突を誘発しないようにすることが重要である。これらの点に細心の注意を払うことで、スポーツ振興は間接的に平和構築に有効に寄与すると考えられる。

3) スポーツの平和構築への有効性に対する、騒擾の影響

通常時のスポーツ振興は、青少年の健全な育成などの目的で行われることが多いが、現在の南スーダンのように、内戦に近い状況となった場合、スポーツ大会の開催には平和の促進という目的で実施されるものが増えると予想される。既述のとおり、2016年7月の騒擾後に開催されたスポーツイベントには、融和促進や平和構築をテーマとして掲げるものが増えており、スポーツという平和促進の「ツール」の重要性は高まってきているように感じられる。

治安悪化により、人々の生活上の制限が多くなる中、スポーツの実施や観戦は、国民にとっては限られた娯楽の一つであり、暗い気持ちを緩和してくれる一服の清涼剤である。多くの人が平和を望む中で、その娯楽性の高いスポーツに平和のメッセージを入れ込むことは、平和や結束を啓発する際の最も有効なツールの一つと考えられる。国の状況が悪化すればするほど、スポーツを通じたメッセージの発信は、重要になってくると思われる。

他方、非常に有効なツールであるがゆえ、一部の権力者に利用される危険性をはらんでいる。南スーダンのように、対立部族の関係が明白な場合、スポーツイベント自体が一方の部族を優位にするような状況にさせないよう、十分注意を払う必要がある。

4) スポーツ大会における公平性の確保やトラブル発生予防・発生時の対処の確認

第2回 National Unity Day では、事前に係争処理のフレームワークにつき MoCYS 関係者で話し合い、係争処理の方法を整理した。競技に関連した係争は、陸上委員会とサッカー委員会を設置し、技術面での係争処理を行う一方、一般的な係争については、大会の運営委員会がその処理を行うこととした。第2回 National Unity Day では、大きな係争が発生せず、この係争処理プロセスが十分に機能するかどうか試されておらず、第3回 National Unity Day 以降での確認が必要となっている。

5. 調査結果（詳細）

(1) 文化・青年・スポーツ省（MoCYS）の状況

1) 2016年6月以前の状況

以下の図は、2016年1月現在の、MoCYSの組織図である。第1回・2回 National Unity Day のようなスポーツイベントは、スポーツ局が中心となって実施されるべきものであるが、同局のキャパシティが十分でなかったため、National Unity Day のための特別なタスクチームが結成され、このタスクチームが実施に当たった。タスクチームの長は次官（Undersecretary）で、実質の事業監督はスポーツ局の局長（Director General）が務め、チーム長として文化局のスタッフが配置された。チーム長以下、8人のタスクチームメンバーで、National Unity Day の実施を担った。

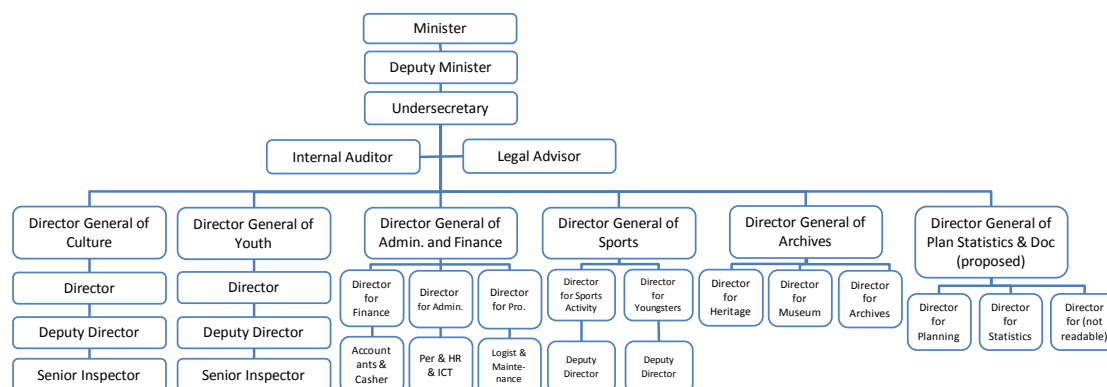


図1：文化・青年・スポーツ省の組織図（2016年1月現在）

MoCYSの予算は2015/16年度の予算ベースで23,136,996南スーダンポンド（SSP）であったが、実際の執行額を確認できる資料は入手できていない¹。2015/16年度の予算ベースでは、スポーツ開発に4,910,469 SSPが、青年のエンパワメントに5,233,930 SSPが申請されている（別添1参照）。しかしながら、2012年より続く緊縮財政のため、2016年6月以前でも、開発予算はほとんど執行されない状況であった。

2) 2016年7月以降の状況

2016年7月の騒擾により、南スーダン国内の治安は著しく悪化したため、多くの支援は人道援助に充てられており、スポーツ関連分野に対する国際機関や主要ドナーの

¹ 2016年7月の騒擾により、2015/16年度予算の執行を取りまとめた資料は作成されていないと思われる。

支援はほとんど実施されていない。また、石油販売からの歳入の減少や、防衛費への偏った歳出により、国家経済は破たん寸前となっている。2016年の時点で財務省は、向こう何年間は公務員給与以外の政府予算は一切ないと明言した。すなわち、現在は開発予算が全く確保できていない状態となっている。

2011年7月の独立時は、外貨交換レート²は1 USD = 4 SSPだったが、2017年4月の時点では、1 USD = 135 SSPまで急変し、南スーダンポンドの価値は著しく低下している。為替が大きく変動しているにもかかわらず、公務員は以前と同じ給与体系で、昇給もなく、南スーダンポンド建てでの給与支払いが続いているため、実質、月給は数ドルの価値しかない状況となっている。また、給与の遅配は常習化しており、一般的に公務員のモチベーションは低く、公共サービスの提供に大きな支障が生じている。このような状況はMoCYSにも同様に起こっており、MoCYS職員の多くが、低水準の給与では暮らしていけないと窮状を訴えている。

また、南スーダンの他省庁同様に、MoCYSも開発予算が全くない状況にあるため、スポーツ振興事業を行うためには、開発パートナーからの支援や民間セクターの協力が不可欠となっている。

3) National Unity Day について

上述の状況の中でも、次官、担当局長、タスクチームのメンバーは、National Unity Day 実施に強い意欲を示している。国がこのような状態だからこそ、平和の祭典である National Unity Day を継続実施することが重要であるとの認識である。

2017年3月に実施した、第2回 National Unity Day の評価会では、MoCYS関係者は第3回 National Unity Day の実施を強く望んでおり、MoCYS主体でその準備を開始する意思が確認された。次官は、National Unity Day が MoCYS の中で最大かつ非常に実施意義の高いイベントと認識しており、JICA に対しても支援の継続を強く要望している。

これまでの第1回・2回 National Unity Day の実施経緯の詳細については、後の「National Unity Day 実施支援」の項で記述する。

(2) 教育省の状況

教育省 (Ministry of Education: MoE) への聞き取りは、2015年8月と2016年1月に実施した。

MoE では、2015年8月当時、小学校・高校の全国統一カリキュラムを策定しており、主カリキュラムと附属カリキュラムの二つの内容整理を行っていた。附属カリキュラムの中には、平和構築と生活のスキル (Peace Building & Life Skill) を指導する内容が含まれており、体育教育もその中の一つとなっている。附属カリキュラムには体育の他に、音楽、ダンス、ディベート、環境教育、クラブ活動などが含まれ、生徒の選択制となる予定である。

カリキュラム策定には、UNICEF が全面的に協力しており、UNICEF により備上されたコンサルタントが、教育省職員と一緒に、主・附属カリキュラムの二つの内容整理を行った。2016年1月時点では、両カリキュラムは最終化されていたものの、カリキュラムの印刷費用は MoE の負担となっていたことから、作業がストップしている状況であった。附属カリキュラムの作成に当たっては、平和構築と生活のスキルに関する内容を整理するため、MoE と MoCYS が協働して、地方部において平和アセスメントを実施した。

² 南スーダン政府が設定した公的レートではなく、小売店等での換金レート。

MoE は、一度、National Inter-School Competition (インターハイ) を実施した実績があり、2013/14 年に Wau で開催した。2015/16 年度は 8 月～9 月に実施を予定していたが、予算不足のため開催することが出来なかった。また 2014/15 年も Yambio で行う予定であったが、予算不足と同時に、道路や治安状況の悪化から、陸路で行くことが困難となり、中止となった。

インターハイなど、学校教育に関連したスポーツイベントの開催は MoE が主導し、MoCYS は技術的なアドバイス・支援、地方のスポーツ協会との橋渡しを行うことが主要業務となるが、両省庁間でうまく連携できていないのが実情である。

(3) 国際機関・他ドナーのスポーツ支援の状況

スポーツ振興関連活動に支援を行っている国際機関・ドナーは非常に少なく、調査の結果、国連教育科学文化機関 (UNESCO) と米国国際開発庁 (USAID) が具体的な活動を実施していることが確認された。

1) 国連教育科学文化機関 (UNESCO)

国連教育科学文化機関 (United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization: UNESCO) の支援により、2014 年 4 月 6 日に South Sudan International Day of Sport for Development and Peace というプログラムが実施され、スポーツ大会や平和に関するスピーチなどが行われた。毎年、継続的に実施する予定であったが、予算不足のため、それ以降は実施できていない。同イベントの実施に当たっては、約 1 か月前から準備を開始し、MoCYS と協議しながら内容を整理した。MoCYS、UN 関係機関、市民社会がワーキンググループを設置し、実施準備を行った。ただし、UNESCO 担当者からは、MoCYS には十分なキャパシティがなく、ロジスティクス面のアレンジもほとんど全て UNESCO 側で行ったとの指摘があった。イベントでは、女子バスケット、子供サッカー、シニアバスケット、ジュバ孤児サッカーの 4 つスポーツイベントが実施された。競技の選定に当たっては、利用可能な競技施設が重視された。また、イベント時には UNESCO からバナーや参加者に対する T シャツの提供があった。

MoCYS 主催の第 1 回 National Unity Day では、JICA と共に UNESCO も MoCYS に協力し、開会式・閉会式・平和ゲーム時には、伝統的なダンスや歌などの文化面での支援を行った。

なお、UNESCO の支援スキームの一つに、Whitaker Peace & Development Initiative (WPDI) があり、米国映画俳優のフォレスト・ウィテカー氏からの支援によって、諸々の活動が実施されている。南スーダンでは、WPDI を通じて、Peace through Sports の活動を行った。2013 年以前はジョングレイ州で活動を実施していたが、騒擾による治安悪化により、2015 年当時は、東エクアトリア州のニムレとジュバの UN House が対象サイトとなった。このプログラムでは、2 つの UNMISS の Protection of Civilians (POC) サイトにいる国内避難民 (Internally Displaced Persons: IDPs) を対象に実施した。POC サイトにいる IDPs に対し、避難キャンプ外の人達とサッカーをし、交流をする機会を提供した。またニムレのケースでは、女子サッカーを支援した。

2) 米国国際開発庁 (USAID)

米国国際開発庁 (United States Agency for International Development: USAID) は 2016 年 4 月に平和と許し、和解の促進を目的して、ジュバ市での伝統的レスリングトーナメントの開催を支援した。このトーナメントでは、ジョングレイ州や東レイクス州、イマトン州、テレケカ州より多民族のレスラーが参加し、伝統的な衣装をまとい、レ

スリングを行った。また、音楽家なども招へいし、文化的な要素を強調したイベントとなった。

MoCYS 関係者の話では、大変多くの観衆が集まり、その観衆に対しイベント中は平和と和解の促進のメッセージが常に伝えられたとのことである。

(4) 国際機関・他ドナー・NGO の騒擾後のスポーツ支援の動向

2016 年 7 月の騒擾後、MoCYS に対する国際機関や他ドナーによる支援は行われていない。また、MoCYS 以外のチャンネルを通じたスポーツ分野への支援状況については、騒擾後は隣国からの情報収集のみとなり、その全体概要は十分把握できていない。ただし、南スーダン関連のウェブサイトを通じた情報収集では、スポーツ分野への支援が散発的に各地で行われていることが確認されている。以下は、ウェブサイトから収集した情報である。

- 韓国の UNMISS の支援によるジョングレイ州ボルでの平和を目的としたサッカー大会の開催
- UNDP の支援事業である Peace and Community Cohesion project (PaCC) の一環として、アウェイルでの伝統的レスリングの大会を実施

支援の内容からも分かるように、スポーツイベントの開催目的は、平和と結束を求めたもので、UN 関係機関もスポーツイベントを融和促進と平和構築のツールとして活用しようとしていることが伺える。現状では、平和の重要性を伝えるための機会やツールが十分でないため、スポーツ大会の開催を通じて、人々の関心を高め、そこに平和のメッセージを織り交ぜながら、草の根レベルの啓発活動を行っている状況である。

(5) National Unity Day の実施支援

本調査では、MoCYS 主導での National Unity Day の実施準備・実施・評価・改善プロセスを通じて、①MoCYS の事業実施能力の確認、②National Unity Day 実施・スポーツ振興による平和構築支援への有効性の確認、③スポーツ大会における公平性の確保やトラブル発生予防・発生時の対処の確認ーが重要な調査事項であった。第 1 回・2 回 National Unity Day の実施プロセスを約 1 年半に渡り支援・モニターし、上記事項を確認した。そのプロセスは、下表のとおりである。

表 2：第 1 回・2 回 National Unity Day の実施支援プロセス

年 月	活 動	
2015 年	8 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 1 回 National Unity Day の実施構想につき協議 ● 第 1 回 National Unity Day の実施準備開始
	10 月	● 第 1 回 National Unity Day 州関係者準備会合の実施
	12 月	● ローカルコンサルタントの備上 (交通・食事・宿舎・会場設営等のアレンジ)
2016 年	1 月	● 第 1 回 National Unity Day の実施
	7 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 2 回 National Unity Day の内容整理の開始 ● ジェバ市での騒擾により、南スーダンの治安が著しく悪化 ● JICA 関係者国外退避
	9 月	● ウガンダでの MoCYS 関係者との第 1 回 National Unity Day 評価会ならびに第 2 回 National Unity Day の実施のための準備会合の実施

年 月	活 動
2017年	<ul style="list-style-type: none"> ● 州関係者準備会合の実施準備開始
	11月 <ul style="list-style-type: none"> ● ウガンダでの第2回 National Unity Day の実施準備のための州関係者準備会合の実施 ● ウガンダでの第2回 National Unity Day にかかる MoCYS 関係者との打合せ ● ローカルコンサルタントの備上（交通・食事・宿舎・会場設営等のアレンジ）
	1・2月 <ul style="list-style-type: none"> ● 第2回 National Unity Day の実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● ウガンダでの MoCYS 関係者との第2回 National Unity Day 評価会の実施 ● 第3回 National Unity Day 実施に向けての活動スケジュール整理

1) MoCYSの事業実施能力

計2回のNational Unity Day開催を通じて、MoCYSの事業実施能力は飛躍的に向上したことが確認された。特にJICA関係者が南スーダンに入国できず、ウガンダからの遠隔支援となった第2回大会の実施プロセスでは、MoCYS関係者が自身で判断し、行動に移す必要性が高まったことから、MoCYS職員の当事者意識が一層醸成された。財務的な支援や必要最小限の技術的な支援で、十分大会運営ができるまで、キャパシティが強化されつつある。

課題としては、タスクチームのリーダーが非常に優秀で、第2回大会の成功の大部分は、彼の働きによるところが大きいことで、もし彼のようなリーダーがいなくなってしまう場合、以前のように円滑な大会運営を行っていかれるかどうかは疑問である。一人の高いキャパシティに依存する体制から、タスクチーム各人のキャパシティの底上げによる、全体的なキャパシティの強化を通じて、大会実施・運営能力の更なる向上が必要である。

また、National Unity Dayの実施については、第1回大会に比べ、第2回大会では飛躍的に事前のアレンジが良くなった。その理由としては、第1回大会の評価会を開催し、課題などをきちんと整理した上で、その改善策を明確にし、実際に第2回大会の実施運営に反映させたことが挙げられる。また、National Unity Day準備プロセスを明確にして、MoCYS関係者との準備会合、州関係者準備会合と、関係者の合意形成プロセスをしっかりと踏んだことで、競技ルールや係争の仲裁方法などが事前に明確になったことも、事前のアレンジが円滑に進んだ理由の一つとして挙げられる。MoCYS関係者準備会合の決定事項は報告書としてまとめられ（別添2）、州関係者準備会合の決定事項は、討議議事録として取りまとめられた（別添3）。

更に、National Unity Day実施においては、大会中のロジスティックスを担うローカルコンサルタントを備上したが、第2回National Unity Dayからは、その選定にもJICA関係者のみならずMoCYS関係者も参加した。透明性の高い選定プロセスを担保したことや指揮命令系統を枚角化したこと、ローカルコンサルタントとの定期会議を持つようにアレンジしたことなどが、MoCYS関係者とローカルコンサルタント会社との関係性を良好にする要因となった。

以下は、第1回National Unity Dayで確認された課題と、第2回National Unity Dayの改善策である。

表3：第2回 National Unity Day での改善策

第1回National Unity Dayでの課題	第2回National Unity Dayでの改善策
競技ルールが事前に共有されていなかった 大会中に競技ルールの突然の変更があった	<ul style="list-style-type: none"> 州関係者準備会合の際に、競技ルール案を参加者全員で確認し、内容を最終化した。 最終化された競技ルールは討議議事録の中に明記され、各州の代表者ならびにMoCYS代表者全員で議事録の署名を行った。また参加には、各州へ帰った後に、関係者へ議事録内容を共有することを要請した。
スポーツ競技団体との連携がうまくいかなかった	<ul style="list-style-type: none"> 陸上連盟ならびにサッカー協会の関係者を州関係者準備会合に招いた。 しかしながら、上記対応でも連携強化が不十分であったため、第2回 National Unity Dayの終了後に実施した、ウガンダスポーツ関係機関との技術交換プログラムに招待し、更なる関係強化を図った。
参加選手の年齢に疑義が生じた	<ul style="list-style-type: none"> 大会開始前に、競技参加者全員に公的な出生証明証と顔写真を提出してもらい、その内容をMoCYSが事前チェックした。 内容確認された書類と顔写真をもとに、参加者一人一人にIDカードを作成した。 試合ごとに、選手とIDカードを突合し、本人確認を徹底した。
事前登録した選手が、大会途中で主催者の承認なしで変更された	<ul style="list-style-type: none"> 試合ごとに、選手とIDカードを突合し、本人確認を徹底した。 宿舎での選手確認を徹底した。
選手の出身地の定義が不明確であった	<ul style="list-style-type: none"> 州関係者準備会合で、出身地の定義を明確にした。 南スーダンの現状を鑑み、ジュバ市やジュバのPOCサイトにいる選手の扱いを個別対応とし、事前の相談に応じる柔軟性を確保した。
係争処理の方法が明確でなかった	<ul style="list-style-type: none"> 州関係者準備会合で、係争処理のプロセスを明確にし、参加者全員で合意した。
ローカルコンサルタントとの連携がうまくいかなかった	<ul style="list-style-type: none"> ローカルコンサルタントの選定プロセスにMoCYS関係者も参加した。 指示命令系統を明確にするとともに、JICA、MoCYS、ローカルコンサルタントの3者会合を定期的に行った。

同様に第2回National Unity Dayの開催後もMoCYS関係者と評価会を行い、第3回National Unity Dayに向けての改善点や今後の活動スケジュールにつき協議した。その結果は報告書として取りまとめられた（別添4）。第3回National Unity Dayに向けての主な改善点は以下のとおりである。

- 第2回National Unity Dayのサッカーの試合で、一部の観客が喧嘩を始め、それを制止するために、National Securityの職員が、空に向けて数発の威嚇射撃を行った事件が起こった。第2回の観衆は第1回のものより、非常に大きな数となったため、当初、想定していた警備員（警察官及びNational Security職員）の数では十分対応できなかった。第3回大会では、大会中の治安強化を図る必要があり、警備員の大幅な増員を行うことを検討する。
- 2016年7月の騒擾の影響により、第2回National Unity Dayの準備の開始が非常に遅れた。このため、第3回の準備は早くから始め、時間的な余裕が持てるようにする。現在想定しているスケジュールは下表のとおり。

表4：第3回 National Unity Day 実施準備スケジュール案

日程		活動
2017年	6月上旬	● MoCYS 関係者準備会合（カンパラ）
	7月下旬	● 32州によるフォーラム（ジュバ）
	8月から9月上旬	● 州関係者準備会合（ジュバ）
	9月下旬	● ローカルコンサルタントの選定
2018年	1月下旬から2月上旬	● 第3回 National Unity Day の開催

- 現在の競技種目は男女陸上と男子サッカーのみで、女性選手の参加が少なく、ジェンダーバランスが悪い。このため、女子バレーの種目追加を検討する（予算や競技人口、宿泊施設に宿泊できる人数制限などを考慮する）。
- 第1回・2回 National Unity Day では、旧10州と2つの administrative areas より参加者を募ったが、全ての州をカバーできたわけではなかった。このため、招待されなかった州の不満も聞かれた。このような状況を改善し、National Unity Day の実施を通じて、更なる国民の結束を促進するため、32州の関係者を集めた事前調整会議を開催することを検討する。
- 第3回 National Unity Day の実施期間中に、一般市民向けのイベントを半日開催し、平和と統合の重要性にかかると一般市民の理解促進を図る。
- 治安の悪化から、陸路移動でジュバに来ることが難しい状況であったため、選手・関係者の地元からジュバまでの移動は全て航空機を使用し、その費用は JICA が支援した。今回の対応は特別であり、第3回 National Unity Day では移動費用をどのように捻出するか前広に整理する。
- MoCYS の予算がほぼ無く、財務面では JICA 支援に頼り切っている状況のため、他のドナーや民間セクターにも働きかけ、多様なソースからの予算確保に努める。

2) National Unity Day 実施・スポーツ振興による平和構築支援への有効性の確認

National Unity Day 実施・スポーツ振興が平和構築に寄与するかどうかという質問に対して、MoCYS 関係者の全員がポジティブな意見を述べた。また、関係機関からの聞き取り時にも、極めてポジティブな意見が聞かれた。

スポーツは人を引き寄せる魅力があり、そこで発せられるメッセージは、多くの人に伝えることが可能である。また、National Unity Day で選手たちがフェアプレーの精神を持って競技する様子を見る観衆にとっては、その選手たちから発せられる平和・和解・統合などのメッセージは、容易に理解できるものと考えられる。実際に、第2回 National Unity Day では、サッカーの試合前に、両チームのキャプテンが、観衆に向かい平和のメッセージを伝えたが、その内容は観衆に明確に伝わり、多くの観衆は National Unity Day の意味を十分に理解していたと、MoCYS 関係者は認識している。

ただし、スポーツの強力な魅力は、観衆の異常な興奮を誘い、衝突へと発展する可能性も秘めている。既述のとおり、第2回 National Unity Day では、観衆の一部が喧嘩を始めたため、それを制止しようとした National Security 職員が空に向けて威嚇射撃を行った。観衆ならびに選手に怪我は無かったものの、警備体制を見直し、警備員の増員や適切な競技場の選定など、治安確保のためには、多くの改善の余地がある。

また、National Unity Day 実施やスポーツ振興が、平和構築に寄与することは多くの人が認めるものの、選手・観衆に対するメッセージの出し方や、係争が起こった時の解決法、部族の枠を超えた交流を図るための配慮、治安の確保など、細かな部分まで注意を払い、強いメッセージ性が観衆間や選手間の衝突を誘発しないようにすること

が重要である。これらの点に細心の注意を払うことで、スポーツ振興は間接的に平和構築に有効に寄与すると考えられる。

ここからは調査者が計2回のNational Unity Dayの実施を通じて、強く感じたことを記述したい。スポーツは非常に効果的な啓発ツールであり、National Unity Dayでは競技スポーツやリクリエーションスポーツの実施を通じて、平和や結束が重要というメッセージの伝達を、競技者ならびに観衆に行ってきた。その効果は絶大で、1回のNational Unity Dayの実施だけで、実際に競技場まで足を運んだ観衆が延べ数万人、テレビやラジオ、新聞による情報伝達については、正確な数値は確認できないものの、競技場にきた観衆以上の数の国民が情報にアクセスしたと推定されている。これだけ多くの人々が、特定の情報にアクセスするというのは、南スーダンでは稀な事例である。したがって、あるメッセージを不特定多数の人々に伝えるという意味では、スポーツは非常に大きな力を発揮することが明確になった。農業普及や保健プロジェクトなどでも啓発活動は実施されているが、スポーツほど強烈に人を惹きつけ、瞬時にメッセージを伝達するツールは他には無いと言っても過言ではない。

他方、この強烈なメッセージ伝達ツールは、間違った形で使われてしまうと、特定グループに都合の良い情報を一方的に流す、プロパガンダツールとして使用される懸念がある。南スーダンでは、2つの大きな勢力が権力争いをしていることもあり、National Unity Dayが、ある一方のグループの正当性を主張するためのプロパガンダツールとして活用されることを非常に懸念した。しかしながら、開催前から中立性・公平性について細心の注意を払ったこと、出場した選手たちが部族の垣根を越えて、心の底から平和を願うメッセージを発すると同時に、フェアプレーを重んじたことから、懸念された一方のグループを利するような状況には全く発展しなかった。今後、スポーツというツールを利用する場合には、その強烈な効果をうまくコントロールするように常に注意を払う必要がある。スポーツは、うまく活用すれば強力な薬になるが、下手をすれば毒にもなりかねないからである。

また、National Unity Dayを通じた啓発は一過性に終わる可能性があり、そのメッセージの内容を具現化していくためには、草の根のスポーツ振興を通じた、地道な粘り強い活動の継続が必要と考えられる。特に、スポーツを行う青少年への啓発については、スポーツ指導者であるコーチや学校の教師、試合進行を司る審判への啓発活動が非常に重要となる。青少年へ影響を与えるこれらのステークホルダーへの平和や結束、フェアプレー、スポーツマンシップなどの重要性を啓発すること、そしてそれを青少年が実践できるような環境作りを行っていくことが、National Unity Dayで発したメッセージを具現化していく際に必要と考えられる。

3) スポーツの平和構築への有効性に対する、騒擾の影響

通常時のスポーツ振興は、青少年の健全な育成などの目的で行われることが多いが、現在の南スーダンのように、内戦に近い状況となった場合、スポーツ大会の開催には平和の促進という目的で実施されるものが増えると想定される。既述のとおり、2016年7月の騒擾後に開催されたスポーツイベントには、融和促進や平和構築をテーマとして掲げるものが増えており、スポーツという平和促進の「ツール」の重要性は高まってきているように感じられる。

治安悪化により、人々の生活上の制限が多くなる中、スポーツの実施や観戦は、国民にとっては限られた娯楽の一つであり、暗い気持ちを緩和してくれる一服の清涼剤である。多くの人々が平和を望む中で、その娯楽性の高いスポーツに平和のメッセージを入れ込むことは、平和や結束を啓発する際の最も有効なツールの一つと考えられる。

国の状況が悪化すればするほど、スポーツを通じたメッセージの発信は、重要になってくると考えられる。

他方、既述のとおり、非常に有効なツールであるがゆえ、一部の権力者に利用される危険性をはらんでいる。南スーダンのように、対立部族の関係が明白な場合、スポーツイベント自体が一方の部族を優位にさせるような機会として使われないよう、十分注意を払う必要がある。

4) スポーツ大会における公平性の確保やトラブル発生予防・発生時の対処の確認

第2回 National Unity Day では、事前に係争処理のフレームワークにつき MoCYS 関係者で話し合い、以下のとおり、係争処理の方法案を整理した。

表5：第2回 National Unity Day における係争処理のプロセス

係争処理プロセス	陸上	サッカー
技術面	<ul style="list-style-type: none"> 競技結果のアナウンスがあった30分以内に、競技場にいる審判に対し、口頭による抗議を行う。 もし、審判の判定に不服がある場合には、競技結果のアナウンスがあった30分以内に、審判長に対し、文書による抗議を行う。 もし、審判長の判定に不服がある場合には、抗議内容は陸上委員会に伝えられ、委員会メンバーである3人の陪審員により最終判断が下される。 	<ul style="list-style-type: none"> 試合中のプレーにかかる審判の判断については、一切の抗議を受け付けない。 試合結果にかかる抗議については、サッカー委員会に伝える。 抗議を受け、サッカー委員会は仮判定を行い、運営委員会に伝える。 最終判定は、運営委員会により行われる。
一般事項	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な係争については、運営委員会により解決される。運営委員会の決定は最終判断となる。 	

この係争処理プロセスは、州関係者準備会合で協議され、州関係者はこの方法に合意したため、大会期間中はこの係争処理プロセスを適用した。第2回 National Unity Day では陸上競技で1件、判定にクレームがついたが、このプロセスに入る前に解決されたため、このプロセスが機能するかどうか、まだ試されていない。重要なことは、関係者が事前に話し合い、合意したプロセスで係争処理されるということであるため、第3回 National Unity Day でも同様な手続きを踏んで、係争処理プロセスを確定させる予定となっている。

【第1回 National Unity Dayの様子】



開会式では選手一同が参加し、行進を行った



大会中に実施された平和構築ゲーム。音楽が流れると部族を超えてみんな一緒に踊り始めた



平和構築ゲームでは、民族混合のチームで綱引きを行い、選手間の交流を促進した



男子陸上 200Mの様子。裸足で走る選手もいた（写真右）



女子陸上 400M。中距離走になると裸足で走る選手が多く見られた



中央と左側の選手はワウの選手。本大会の女子陸上競技では、ワウが総合優勝を果たした



ワウの男子サッカーチーム



男子サッカー決勝はワウとベンティウの対戦となった。ベンティウのチームが優勝した瞬間



多くの観客に囲まれながら、ベンティウチームへの優勝トロフィー授与式が行われた

6. 今後の協力方針（案）

2016年6月から7月にかけて、スポーツを通じた平和構築支援にかかる詳細策定調査団が南スーダンに派遣され、今後の協力方針（案）が整理された。しかしながら、その直後に発生した騒擾により、状況が大きく変化したため、今後の南スーダンの状況を確認しつつ、再度、協力方針（案）を整理する必要性が生じている。

当初、技術協力プロジェクトの実施を想定していたが、その際は、①MoCYSの能力強化、②National Unity Dayの公平な実施のためのコーチや審判の能力強化、③草の根レベルのコーチや審判ならびにジュバ市でのスポーツインフラ整備の3つのコンポーネントが考えられていた。しかしながら、治安悪化のため、現在は南スーダンに渡航することができない状況が続いており、遠隔からの支援による技術協力活動を整理する必要がある。今後想定されるシナリオについては、治安が回復するまでの遠隔支援フェーズと、治安回復後、南スーダンに渡航できるようになった後の現地での実施フェーズの二つに分けて整理する必要がある。

まず、遠隔支援を実施する場合、技術協力の効率性が大きく低下するケースが多いことから、遠隔支援が比較的容易な活動に絞り込んだ形で実施することが望ましい。①のMoCYSの能力強化については、National Unity Dayの実施により、調査期間中でも着実に能力強化が図られてきている。第2回National Unity Dayでは遠隔支援の方法も整理されたことから、最低限、National Unity Dayを継続実施していくことで、MoCYSの能力強化にかかる支援ができると考えられる。また、現在改訂中のスポーツポリシーなど、政策文書の内容整理・最終化の支援も可能である。

次に、②のNational Unity Dayの公平な実施のためのコーチや審判の能力強化については、コーチや審判を南スーダンの近隣国に招へいし、当該国のスポーツ関係機関が実施するコーチや審判の技術研修に参加してもらうとともに、スポーツを通じた平和構築の考え方についても研修し、能力強化を図ることは可能と思われる。本調査の第7回現地業務では、南スーダンスポーツ関係者とともにウガンダのスポーツ関係機関を訪問し、情報収集を行ったが、ウガンダサッカー連盟（Federation of Uganda Football Associations: FUFA）は、コーチ・審判への研修を実施しており、また、ウガンダ陸上連盟（Uganda Athletic Federation: UAF）も自国での研修実施ならびにケニアの陸上連盟の協力を得て、ケニアでの研修も行っているとのことであった。このように、既存の研修コースに参加してもらうことで、遠隔支援を円滑に進めることは可能と思われる。

最後に③の草の根レベルのコーチや審判ならびにジュバ市でのスポーツインフラ整備については、まず、遠隔からのインフラ整備は非常に困難となるため、遠隔支援の範囲では取り扱わない方が良いと思われる。また、草の根レベルのコーチ・審判に対する研修については、②と同様の方法で対応が可能であるが、草の根レベルでは対象人数が多くなることから、まずは②にプライオリティを置き、遠隔支援で活用可能な人的資源と予算を勘案した上で、草の根レベルの適切な対象者数や活動規模を整理することが重要である。

上述のように、今後の協力は、まずは遠隔支援から開始し、その期間中に更なる情報収集を進め、南スーダンの治安回復後、南スーダン国内で活動可能になった際の協力フレームを整理する必要がある。

7. 各調査の詳細

既述のとおり、本調査は2015年7月から2017年3月に渡って実施され、計7回の現地業務（うち南スーダン3回、ウガンダ4回）ならびに南スーダンスポーツ関係者の本邦招へいを実施した。各調査の詳細について、調査ごとに以下に取りまとめた。

(1) 第1回現地業務（スポーツ行政・スポーツ振興の現状確認）

第1回現地業務では、南スーダンでのスポーツ行政やスポーツ振興にかかる現状確認を行うために、文化青年スポーツ省や各スポーツ連盟、その他関係機関での聞き取り調査を実施した。調査の実施日程は下表のとおりである。

表6：第1回現地業務の調査日程

月 日	活動・訪問先など
2015年 8月 2日（日）	● 成田発→
3日（月）	● ジュバ着 ● JICA南スーダン事務所との打合せ ● MoCYSとの打合せ
4日（火）	● MoCYSとの打合せ ● 南スーダンサッカー協会・オリンピック委員会へのインタビュー
5日（水）	● UNESCO・教育省・Catholic Relief Serviceへのインタビュー
6日（木）	● 南スーダン陸上競技連盟・南スーダンテレビ・バスケットボール協会・ハンドボール協会へのインタビュー
7日（金）	● MoCYSとの打合せ ● 南スーダンサッカー協会へのインタビュー
8日（土）～ 9日（日）	● ジュバ発→成田着

現地業務を通じて、以下の点が確認された。

- MoCYSでは、これまで教育省が実施した全国規模のスポーツイベントの実施支援をした経験がある。この経験をベースに、全国スポーツ大会を実施することは可能と考えられる。
- スポーツ協会の中で比較的活動が活発な組織は、サッカー協会および陸上競技連盟であった。他のスポーツ協会は細々と活動を継続している。組織的には、どのスポーツ協会も脆弱である。
- 南スーダンオリンピック委員会は8月に正式に国際オリンピック委員会のメンバーとなり、リオデジャネイロ・オリンピックの参加を目指している³。陸上については、オリンピック参加枠が確保されていることから、リオデジャネイロ・オリンピックが、南スーダンにとって初のオリンピック参加となる可能性が高い。

³ 南スーダンはリオ・オリンピックで、オリンピック初出場を果たした。参加種目は参加枠を活用した陸上競技であった。南アフリカでの予選会やオリンピック出場に際し、JICAも支援した。

- スポーツを通じた平和構築のコンセプトについては、文化青年スポーツ省や教育省、国際機関、教会系関係者から、総じて前向きなコメントを得た。スポーツ振興の中で平和のメッセージを入れ込むことにより、平和構築に貢献できるとの意見が多数を占めた。ただし、スポーツイベント等を開催する場合は、特定部族への配慮などが必要であることも指摘された。
- MoCYS との協議を通じて、2016 年 1 月に全国規模のスポーツ大会を実施することが確認された。また、対象競技はサッカーと陸上競技の 2 競技とすることが決定した。

本調査期間に聞き取り調査を行った組織の詳細・聞き取り調査の内容について、議事録に取りまとめた（別添 5）。

(2) 本邦招へい

南スーダンのスポーツ関係者（MoCYS、オリンピック委員会、5 つのスポーツ協会）を招へいして、2015 年 11 月 11 日から 17 日までの計 7 日間、日本の関係機関を訪問し、関係者との意見交換や施設の視察、今後のアクションプランの作成などを行った。招へい日程は以下の通り。

表 7：本邦招へいの日程

月日	活動・訪問先など
2015 年 11 月 11 日（水）	<ul style="list-style-type: none"> • JICA 本部でのオリエンテーション • JICA 加藤理事表敬 • 味の素ナショナルトレーニングセンター訪問（施設見学）
12 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> • 各スポーツ協会訪問（サッカー協会、陸上連盟、ハンドボール協会、バレーボール協会、バスケットボール協会） • 大阪に移動
13 日（金）	<ul style="list-style-type: none"> • 吹田市立藤代台小学校での体育授業見学 • 大阪大学訪問（日本のスポーツ行政、スポーツを通じた平和構築） • 吹田市による高齢者向け健康体操講座の見学 • 吹田市長表敬
14 日（土）	<ul style="list-style-type: none"> • 吹田市役所訪問（自治体によるスポーツ行政） • 少年サッカー教室・サッカースタジアム・市民プール・少年バスケットボール教室見学 • 浜松に移動
15 日（日）	<ul style="list-style-type: none"> • 東京に移動 • 各種スポーツ見学（プロサッカー（J3）、実業団バスケットボール、実業団ハンドボール、埼玉マラソン）
16 日（月）	<ul style="list-style-type: none"> • 招へい事業の振り返り • アクションプランの作成（各組織） • 参加者全体での今後の取り組み整理
17 日（火）	<ul style="list-style-type: none"> • 東京都内視察 • 成田に移動、帰国

招へいプログラムの内容は、①各スポーツ協会やナショナルトレーニングセンターでの競技スポーツ振興に関する知見の習得や、②地方自治体である吹田市による生涯スポーツやリ克雷シヨンスポーツの振興に関する取り組みの確認、③大阪大学でのスポーツを通じた平和構築に関するプレゼンテーションならびに討議、④招へいプログラムで得た知見の意見交換とアクションプランの作成など、多岐に渡るものであった。特に、競技スポーツの振興のみならず、草の根レベルへのスポーツの普及・振興にかかる取り組みが確認できたことは、スポーツを通じた平和構築を目指す南スーダンスポーツ関係者にとって、非常に貴重な経験となった。

1) 主要訪問先の概要

a) ナショナルトレーニングセンター (NTC)

ナショナルトレーニングセンターは、ナショナルチームなどのトップレベル競技者が競技力向上を図るための国営トレーニング施設で、2008年に創設された。また隣接する国立スポーツ科学センター (JISS) ではスポーツを科学的に分析し、トップレベルの選手たちに対し、スポーツ医学・科学・情報サポートなどのサービスを提供している。

b) 日本サッカー協会 (JFA)

日本サッカー協会では、サッカー協会の組織運営の状況、女子サッカー強化、マーケティング、指導者育成などにつきプレゼンテーションが行われた。南スーダンスポーツ関係者は、マーケティングや女子サッカー強化に興味を持ったようである。

JFAは広告代理店の電通を仲介役として、多くのスポンサーとの契約を結んでおり、JFA独自の営業活動は行っていないことや、JFAと電通の契約によりJFAには定額の協賛金が入る仕組みになっており、JFAに大きなリスクがないという契約条件などに、南スーダン関係者は興味を示していた。またスポンサー契約も1契約8年間という長期契約であり、数年先の財源が確保できているため、中長期戦略・計画を策定する際の大きな安定要因となっている。

c) 大阪大学

まずは古市職員(元文部科学省役人)から日本のスポーツ行政ならびにスポーツフオートゥモーロー (Sports for Tomorrow) の取り組みに関するプレゼンテーションがあった。また、岡田准教授からは、ボスニアでのスポーツを通じた平和構築にかかる研究内容の発表があり、その後、参加者と大学生が議論を行った。南スーダン関係者は、平和の構築を推進するツールとしてのスポーツを強く認識することができたようであった。

d) 吹田市 高齢者向けの健康体操講座

吹田市は、高齢者の健康増進を目的とした体操講座を開催している。高齢者の健康を増進することで、歳を取っても健康的な生活を送れるよう支援するとともに、それによる副次効果として医療費の節減を目指している。

南スーダンでは競技スポーツが一般的であるため、20代中盤になると、ほとんどの人がスポーツを止めてしまう。吹田市の取り組みを見て、南スーダン関係者は、生涯スポーツという新しい領域を具体的に認識できたようであった。

e) 吹田市長の表敬

吹田市ではスポーツ振興を積極的に推進しているが、スポーツ振興の目的のみでは予算の確保は難しい状況となっている。そこで、現在取られている政策は、スポーツを通じた健康増進というアプローチで、事業目的を市民の健康維持とすることで、中央政府からの予算確保を有利に進めている。また、市民、特に高齢者の健康を維持することで、大きな歳出となっている医療費の削減にも寄与するため、スポーツ振興は吹田市にとっては重要な事業の一つとなっている。

f) 吹田市によるスポーツ行政

吹田市では市民を 3 つのターゲット層に分類し、スポーツ振興を行っている。ターゲットの 1 つは、トップクラスを目指すプロスポーツを中心とした競技スポーツで、2 つ目はセミプロレベルの競技スポーツからレクリエーションスポーツまでを広くカバーする地域スポーツ、3 つ目は何もスポーツをしない市民層で、それぞれのターゲットに応じた振興策を実施している。

プロレベルの振興策は主にスポーツ協会との連携により実施されており、市の直接的関与は比較的少ないように感じられた。市はターゲットの 2 と 3 の層に対する支援に力を入れていて、特に 2 については、競技性をさほど重視しない楽しくできるニュースポーツ（ソフトバレーなど）の導入や、高齢者の体操教室を開くなど、レクリエーションスポーツや生涯スポーツの振興を積極的に行っている。これにより、3 番目のターゲットである何もスポーツを行っていない人々が、スポーツを行いやすい環境を創出している。また、3 のターゲット層には、市の広報誌などでスポーツイベントの情報などの共有を行い、スポーツへの参加を促進している。

g) 吹田市 少年サッカー教室

吹田市体育協会が運営する吹田市総合運動場を訪問し、少年サッカー教室の活動を視察した。吹田市のサッカー協会副会長の中村氏がコーチを行っており、少年サッカー振興に寄与している。中村氏は以前、児童施設で働いていたことから、スポーツを通じて子供のトラウマを癒してきた経験を持つ。子供の気持ちを大切にしながら、サッカー指導を行っている。

h) 吹田市 サッカースタジアム

ガンバ大阪のメインスタジアムとして建設され、総工費は約 140 億円で、そのうち約 105 億円は企業や個人からの寄付金によるものである。施設は吹田市に寄贈され、指定管理者として、株式会社ガンバ大阪が運営を行う予定となっている。2015 年 9 月に完成したばかりで、今後はガンバ大阪のホームスタジアムとして使用される。これだけの寄付金で建設される公共施設は稀で、地域の人々とスポーツ振興が結びついた、大変ユニークな事例となっている。

i) 吹田市 少年・少女バスケットボール教室

吹田市が運営する目黒市民体育館で実施されている、少年バスケットボール教室を訪問した。少年・少女バスケットボール教室のコーチは 2 名いて、両名ともボランティアで指導しているということであった。週 1 回 2 時間の練習であるが、それでもコーチとして教室を継続していくのは大変とのことである。用具や施設は、吹田市のものを利用している。

2) 招へいプログラムのレビューならびにアクションプランの作成

各訪問先での情報収集を終え、招へいプログラムの最終日には、これまでのレビューと今後のアクションプランの作成を行った。招へいプログラムのレビューでは下表のような意見が出され、日本で実施されている多様なスポーツ振興の方策、南スーダンでのスポーツ振興にかかる課題、必要とされる今後の方策などが確認された。

表 8：本邦招へいプログラムのレビュー

組織開発・人的資源開発	
【日本の状況】 <ul style="list-style-type: none"> 真剣に仕事に取り組む職員がいるからこそ、事業が成功している 職員の行動や態度が重要 スポーツ協会が地方自治体と一緒にあって、スポーツ関連の情報共有を推進している コーチにはライセンスが必要である JFA などには長期目標が設定されている 活動計画のモニタリング・改定システムがある 	【課題・今後の対応など】 <ul style="list-style-type: none"> 協会やメディアによる地方政府（州や郡）に対する情報共有を促進 スポーツ協会と地方政府の連携を強化 オリンピックに向けて十分なスポーツ協会の設立が必要 政府と協会・連盟の能力強化が必要 地方政府のスポーツ振興の促進 中央省庁と地方政府、学校などとの連携によるスポーツ振興 各関係者のデマケーションの明確化
予算の確保	
【日本の状況】 <ul style="list-style-type: none"> 協賛企業とは長期契約を行っていて、安定して収入が入る（サッカーの場合） 日本では寄付金によりスポーツ施設が建設された（ガンバ大阪スタジアムの例など） 吹田市ではスポーツ振興を前面に出さず、健康増進とスポーツを連携させることにより、予算獲得額が増えた 	【課題・今後の対応など】 <ul style="list-style-type: none"> ビジネス関係者のスポーツに対する投資が少ない スポーツ協会・連盟は政府から提供される予算よりも多くの活動費が必要 多くのスポンサーはイベント単位での協賛しか行わない 国際スポーツ連盟などからの支援が重要 他のドナーや民間企業との話し合いが必要 スポーツの予算を増やすために平和構築のためのツールとしてのスポーツを強調
スポーツ施設・用具	
【日本の状況】 <ul style="list-style-type: none"> 日本のスポーツ施設は大変充実している 地方自治体が施設管理を行っている（使用料は有料だが、それだけで経費は賅っていない） 	【課題・今後の対応など】 <ul style="list-style-type: none"> 南スーダンでは国立のトレーニングセンターがない 草の根レベルでの施設強化
その他	
【日本の状況】 <ul style="list-style-type: none"> 日本は平和で、日本人内での紛争がない スポーツによる健康増進が推奨されている 	【課題・今後の対応など】 <ul style="list-style-type: none"> 道路などのインフラが十分に整っておらず、全国大会の開催が困難 競技者の登録情報など、データの管理が重要 女性ならびに若者のスポーツ参加を促進 アンチドーピングの促進

また、アクションプラン作成では、各参加者が以下のようなアクションプラン（案）を作成した。

表 9：各参加者のアクションプラン概要

組織	アクションプラン内のアウトプットの内容
文化青年スポーツ省	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ管理員とマネージャーの育成 ● 開発パートナーや州文化青年スポーツ省との効果的な連携
オリンピック委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● スタッフの能力強化（組織内での研修） ● スタッフの能力強化（組織外での研修ならびに視察）
サッカー協会	<ul style="list-style-type: none"> ● ジュバスタジアムの改装 ● 国内リーグと南スーダンカップでプレー中の国内 16 チームの能力強化 ● サッカー協会の持続的な運営 ● 男女ナショナルチームとプロリーグの能力強化
陸上連盟	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者と審判の能力強化 ● 陸上連盟の能力強化 ● 陸上連盟のボードメンバーの能力強化 ● 陸上連盟のポリシーのレビュー
バスケットボール連盟	<ul style="list-style-type: none"> ● バスケットボール研修やレフリーのカリキュラム作成ならびにバスケットボール連盟の管理システムの創設と指導者の研修 ● プロモーションゲームを通じたバスケットボールの人気促進と南スーダン全国でのバスケットボールリーグの推進
バレーボール協会	<ul style="list-style-type: none"> ● 全州の協会の活動強化 ● 公式トーナメントの適時実施 ● 平和構築のためのツールとしてのバレーボールの活用 ● バレーボールの普及による青少年の活動促進
ハンドボール協会	<ul style="list-style-type: none"> ● 審判とコーチ、協会管理者の研修 ● 情報共有とイベント開催によるハンドボールの知名度向上

(3) 第 2 回現地業務（第 1 回 National Unity Day の実施支援）

第 2 回現地業務では、第 1 回 National Unity Day の準備・実施支援ならびに、MoCYS の事業実施能力の分析、スポーツ振興にかかる課題の整理、今後の JICA の技術協力プロジェクトの内容整理を行った。調査の実施日程は下表のとおりである。

表 10：第 2 回現地業務の調査日程

月日	活動・訪問先など
2016 年	
1 月 8 日（金）	● 成田発→
9 日（土）～	● ジュバ着
10 日（日）	● 南スーダン事務所との打合せ
11 日（月）～	● 第 1 回 National Unity Day 実施準備にかかる MoCYS への支援
14 日（木）	
15 日（金）～	● 第 1 回 National Unity Day 実施にかかる MoCYS への支援（サッカー・陸上競技・平和構築活動）
24 日（日）	● 第 1 回 National Unity Day 実施上の課題の整理
25 日（月）	● 南スーダン事務所との打合せ ● MoCYS との打合せ
26 日（火）	● ジュバ市 Youth Union・教育省・陸上競技連盟・中央エクアトリア州 Youth Union・Wonduruba Youth Union へのインタビュー
27 日（水）	● Sports for Hope (NGO) へのインタビュー
28 日（木）	● ジュバ郡 Youth Union・教会関係者・中高校関係者へのインタビュー

月日	活動・訪問先など
	<ul style="list-style-type: none"> 南スーダン事務所との打合せ
29日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ジュバ発
30日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 成田着

1) 第1回 National Unity Day の実施支援

2016年1月16日に第1回 National Unity Day の開会式が開催され、1月23日の閉会式までの計8日間、サッカーや陸上競技、平和構築ワークショップ、平和構築ゲームなどが実施された。大会には、8州と1地域（西エクアトリア州、北バハルアルガザル州、アビエイ地域は参加できず）から約500名の競技者・コーチ・州関係者が参加した。限られたリソースの中、MoCYS関係者は大会運営を効率的に行い、細かな課題はあったものの、全体としては大きな成功を収める大会となった。

開会式には、副大統領を始め、各省庁の大臣などが参加し、本イベントに対する関心の高さが確認された。また、JICAのみならず、UNESCOも本イベントに協力し、カルチャーダンスや歌による文化的側面での支援を行った。

大会中に確認された、今後改善が必要な点については、以下のとおり。

- 参加者がジュバに到着してから、コーチや州関係者から大会の実施方法やスケジュールの見直しについて強い意見が出された。関係者間での協議の結果、大会の実施方法やスケジュールが変更となった。このため、大会運営を行っているMoCYSならびにイベントを支援するJICAに大きな負担がかかった。大会運営の方法は、事前に州の文化・青年・スポーツ省の担当と会議を持ち、コンセンサスを得ていたが、他の関係者に十分共有されていなかった。
- 上記の状況により、サッカーはトーナメント戦から、予選はリーグ戦で決勝はトーナメント戦に突然運営ルールが変わってしまった。このため、勝敗決定に関する細かなルールが明示できておらず、リーグ戦で勝ち点と同じチームの勝敗決定のルールが不明確なままとなり、決勝トーナメントに参加するチームを確定する際に、大きな混乱を招いた。
- 各州からジュバまでの交通費については、各州自身が負担することになっていた。しかしながら、大会終了後、費用が捻出できないため、州に帰れない参加者が出てしまい、その対応に苦慮した。
- MoCYSのスポーツイベント実施タスクチームは、真摯に業務に取り組み、難易度の高い大イベントを最後までやり遂げた。各州関係者と調整に必要な携帯電話代やコピー用紙などについては、タスクチームからMoCYSに再三要求したものの、支給されることは無く、タスクチームのメンバーが自腹を切った形で対応した。

2) スポーツ振興にかかる課題の整理

スポーツ振興を行っていく際の担い手になると想定される関係組織に聞き取り調査を行い、今後のスポーツ振興ならびに平和構築支援を実施する際の課題や留意点を整理した。以下は、主要な課題や留意点である。

- 定期的実施されている草の根レベルのスポーツ活動は確認されず、スポーツ活動の多くは散発的に行われている。

- スポーツ活動の普及ラインを想定した場合、Youth Union や NGOs、学校、教会関係団体が有望と考えられる。ターゲットとしては、①18歳までの子供たちを学校で、②18歳以上を Youth Union/NGOs、③全体を教会団体がカバーするという形に整理できる。
- 女性のスポーツへの参加促進については、学校・教会でのスポーツ普及活動を行うことで、その可能性が高くなると予想される。平和教育の促進活動については、学校と教会関係団体が実施しやすいと思われる。
- スポーツ協会についても、コーチ・審判の指導やマネジメントスタッフの能力強化で、組織運営力の強化が可能である。協会の能力強化が実現し、草の根レベルのスポーツ大会などに対しコーチ・審判派遣などが行われるようになれば、草の根スポーツ普及にもつながり、相乗効果が期待できる。

3) 技術協力プロジェクトの内容整理

今後、JICA が実施予定の技術協力プロジェクトの内容（案）の整理を支援した。プロジェクトの主要コンポーネントは、①草の根レベルのスポーツ普及の促進（スポーツ協会の機能強化、学校教育の場でのスポーツ振興、民間団体（Youth Unions、NGOs、教会関係団体）の活動支援）、②スポーツを通じた平和教育の実践、③Unity Day の実施を通じた、全国的なスポーツ振興と MoCYS の事業実施能力強化—などである。詳細策定調査を経て、更に詳細な内容が整理される。

4) 関係機関からの聞き取り調査

今後の協力内容を整理するに当たり、スポーツ振興を支援する NGO や、スポーツ支援の対象となる若者の所属する青年連合に対し、聞き取り調査を実施した。聞き取り調査内容の詳細については、議事録に取りまとめた（別添 6）。

(4) 第 3 回現地業務（第 2 回 National Unity Day 実施プロセスの整理）

第 3 回現地業務は、2016 年 6 月 25 日～7 月 8 日にかけて実施され、第 2 回 National Unity Day を実施するためのプロセスならびに必要なタスク、各種準備会合の内容を整理した。現地業務の実施日程は下表のとおりである。

表 11：第 3 回現地業務の調査日程

月 日	活動・訪問先など
2016 年	
6 月 25 日（日）	<ul style="list-style-type: none"> • カンパラ発→ジュバ着
26 日（月）～	<ul style="list-style-type: none"> • 南スーダン事務所との打合せ
7 月 7 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> • 第 2 回 National Unity Day 実施にかかるプロセス、タスク、準備会議等の必要性につき検討 • 第 2 回 National Unity Day 実施関連の資料作成 • 報告書作成
8 日（金）	<ul style="list-style-type: none"> • ジュバ発→カンパラ着

現地業務で確認された重要事項は以下のとおりである。

- 1) 州関係者準備会合の実施について
 - a) 実施時期・参加者

MoCYS との協議の結果、実施時期については、9月13日～15日の3日間で決定した。参加者については、12の大きな都市（ジュバ、トリット、ヤンビオ、アウエイル、ワウ、クワジョック、アビエイ、ポー、ピポー、ベンティウ、マラカル）がある州のスポーツ総局長、スポーツ局長、サッカーと陸上のコーチ（各1名）の各州4名とし、計48人の参加を予定。今後、州が分割され、州の数が増えると言われている「28州問題」については、州を対象にしたのではなく、12都市を対象にしたという説明ぶりにする。ただし、トリットは旧東エクアトリア州地域で選手の選出を行いたいとの意向もあり、各都市によって、選手の選出方法が変わってくるのが予想される。選手選出法については、州関係者会議で十分議論する。

b) 州関係者準備会合プログラム

当現地業務では、州関係者準備会合プログラム案を作成した。1日目は、第1回 National Unity Day の反省とその後のスポーツ振興活動にかかる報告、2日目は第2回 National Unity Day の競技内容・ルール・参加者の選定方法などについての協議・ミニッツ作成、3日目は、2日目の議論の発表と、サッカーの組み合わせ抽選会、National Unity Day までの準備計画を作成する予定となっている。

c) 実施準備

各州への招待状とプログラム（案）については、既に大臣から発出の承認が得られており、7月中旬からその準備を開始する。なお、他の準備プロセスについては工程表に取りまとめた。

2) 第2回 National Unity Day の実施について

a) 実施時期・参加者

第2回 National Unity Day は、2017年1月28日から2月4日に実施を計画している。対象競技は男子サッカー、男女陸上で、参加者は選手及び関係者で総勢500～600名程度を想定。

b) 実施準備プロセス

実施準備工程表については素案を作成し、関係者と協議した。第4回現地業務時に、第2回 National Unity Day の大まかな枠組み（テーマ・日程など）を議論し、次回の渡航時に最終案を整理し、州関係者会議での協議を通じて最終化する。

3) プロジェクト受注コンサルタントとの業務分担の整理と引継ぎ

今後想定されているプロジェクトの公示プロセスを考慮すると⁴、受注コンサルタントがカバーする第2回 National Unity Day に必要な資機材の調達項目と、南スーダン事務所が調達する項目を整理しておく必要があった。そのため、調達項目の分担表（案）を作成した。

(5) ジュバ市内での騒擾と治安の悪化

2016年7月に起こったジュバ市内での大統領警護隊と副大統領警護隊による武力衝突は、南スーダン全土に飛び火し、南スーダンの治安状況が著しく悪化した。このため、JICA 関係者は南スーダンから緊急退避を行い、南スーダン支援は、隣国であるウガンダから実施されることになった。

⁴この時点では、2016年10月から、技術協力プロジェクトが開始される予定となっていた。

また、これまでの現地業務で整理した第2回 National Unity Day の実施スケジュールは大幅に変更する必要が生じ、第4回の現地業務において、全体工程を見直すこととなった。

(6) 第4回現地業務 (第2回 National Unity Day のための MoCYS 関係者準備会合の実施支援)

第4回現地業務は、2016年9月22日～10月5日にかけて実施され、ウガンダでの MoCYS 関係者との準備会合実施ならびに州関係者準備会合の実施準備支援を行った。これまで想定されていた事業計画は、治安状況の悪化による事業停滞のため、抜本的な見直しが求められ、MoCYS 関係者との綿密な協議を行った。

現地業務の実施日程は下表のとおりである。

表 12 : 第4回現地業務の調査日程

月 日	活動・訪問先など
2016年	
9月 22日(木)～ 26日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ウガンダでの他業務からの従事 南スーダン事務所との打合せ MoCYS 関係者とのプレ会合実施準備 MoCYS 関係者とのプレ会合のプレゼンテーション・資料作成
27日(火)～ 30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> MoCYS 関係者のウガンダへの招へい MoCYS 関係者との準備会合実施支援
10月 1日(土)～ 5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> MoCYS 関係者との準備会合のまとめ 南スーダン事務所との打合せ 第2回 National Unity Day 実施に向けた各種調整 ウガンダでの他業務への従事

MoCYS 関係者との準備会合では、州関係者準備会合で議論する第2回 National Unity Day の日程・大会規模・対象競技・競技ルール・係争処理の方法・治安確保の方策などを協議した。協議内容の概要は下表のとおりで、詳細については別添 2 を参照のこと。

表 13 : MoCYS 関係者との準備会合における協議内容

協議項目	協議内容・決定事項等
州準備会合の実施	<ul style="list-style-type: none"> 州準備会合は2016年11月21日～23日の日程で開催する。 対象都市は、ジュバ、ヤンビオ、トリット、ワウ、アウエイル、ルンベック、クワジョック、ボー、ベンティウ、マラカル、ピポー、アビエイの12都市。 招へいの対象は、各都市の州政府のスポーツ関係局長、スポーツ関係課長、陸上コーチ、サッカーコーチの4名。
第2回 National Unity Day の実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 第2回 National Unity Day は2017年の1月下旬から2月上旬の日程で開催する。 競技種目は男女陸上、男子サッカー。参加選手は陸上男女各10名、サッカーが1チーム21名。 対象都市は、ジュバ、ヤンビオ、トリット、ワウ、アウエイル、ルンベック、クワジョック、ボー、ベンティウ、マラカル、ピポー、アビエイの12都市。 参加者の規模は全体で500名程度。

協議項目	協議内容・決定事項等
選手の選考法・登録	<ul style="list-style-type: none"> 選手は、陸上・サッカー共に20歳以下とする。 地方部の治安状況を鑑み、選手選考は各都市（州）のスポーツ関係省庁に一任するが、都市周辺だけでなく、出来るだけ広い地域から選手を選考すること。 選手は出生証明書と写真をMoCYSに提出し、参加前の登録が必須。
競技の実施法	<ul style="list-style-type: none"> サッカーは国際ルール（FIFA）を準拠し、陸上については詳細を事前に決定する（協議の時点でサッカー・陸上ともに）
大会実施中の係争処理法	<ul style="list-style-type: none"> 組織委員会を設置し、その下に陸上・サッカーの技術委員会を設置する。係争はまず技術委員会で協議され、決定が下されるが、決定に不服な場合は、組織委員会が最終決定を行う。
治安対策	<ul style="list-style-type: none"> 各都市からジュバまでの陸路での移動については慎重に検討する必要がある。危険と判断される場合は、空路の活用を検討。 競技場に配置する警官の数を、第1回大会よりも増加させる。 宿舎から競技場・空港への移動には警護を付けることを想定。

(7) 第5回現地業務（第2回 National Unity Day のための州関係者会合の実施支援）

第5回現地業務は、2016年11月20日～12月3日にかけて実施され、ウガンダの遠隔から、第2回 National Unity Day の実施準備支援ならびに12都市の関係者をウガンダに招へいして、州準備会合を実施した。現地業務の実施日程は下表のとおりである。

表14：第5回現地業務の調査日程

月 日	活動・訪問先など
2016年	
11月 20日（日）～ 23日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ウガンダでの他業務からの従事 南スーダン事務所との打合せ 州関係者準備会合の実施準備 州関係者準備会合のプレゼンテーション・資料作成
24日（木）～ 25日（金）	<ul style="list-style-type: none"> 州関係者準備会合の実施支援（第1回 National Unity Day の評価、第2回 National Unity Day の日程・内容の整理、競技スポーツのルール整理、関係者の責任分担の明確化など）
26日（土）～ 27日（日）	<ul style="list-style-type: none"> MoCYS 関係者との州関係者準備会合の実施評価会 第2回 National Unity Day 実施に向けた各種調整
12月 28日（月）～ 3日（土）	<ul style="list-style-type: none"> 南スーダン事務所との打合せ 州関係者準備会合のまとめ 第2回 National Unity Day 実施に向けた各種調整 ウガンダでの他業務への従事

州関係者準備会合では、MoCYS 関係者準備会合で整理された内容が議論され、合意事項を議事録として取りまとめた。議論・決定された重要なポイントは以下のとおり。なお、詳細については、別添3を参照のこと。

- 各都市からの陸上移動は治安上難しく、空路でジュバまで来る必要がある。このため各都市の州政府は、その費用が捻出できるかどうか確認する。
- 対象競技は男女陸上と男子サッカーとし、参加者は20歳以下とする。また陸上の競技種目は、トラック競技が100M、200M、400M、800M、1,500M、100M

- リレー、400M リレーで、フィールド競技は砲丸、円板、槍投げ、幅跳びとする。
- サッカーの予選はリーグ戦とし、3 リーグ制とする。各リーグの 1 位ならびに、3 リーグ全体で次点となるチームが準決勝に進む。
 - 係争解決法を事前に確立する。具体的には組織委員会を設置し、その下に陸上・サッカーの技術委員会を設置する。陸上の結果に対する審議は、まず競技結果の周知後すぐに審判団で行われ、競技場で解決できない場合は、技術委員会内に設置した審議役が最終判断する。サッカーで審議が必要な場合は、まず技術委員会にて協議され、組織委員会が最終決定を行う。

また、MoCYS 関係者とは別途準備会合を行い、今後のアクションポイントを取りまとめた（別添 7 を参照）。

(8) 第 6 回現地業務（第 2 回 National Unity Day 実施支援）

第 6 回現地業務は、2017 年 1 月 16 日～2 月 7 日にかけて実施され、ウガンダの遠隔から、第 2 回 National Unity Day の実施支援ならびに 3 月上旬に予定されている技術交換事業の実施準備を行った。現地業務の実施日程は下表のとおりである。

表 15：第 6 回現地業務の調査日程

月 日	訪問先など
2017 年	
1 月 16 日（月）～ 17 日（火）	● 日本発→カンバラ着
18 日（水）～ 25 日（水）	● 南スーダン事務所との打合せ ● 第 2 回 National Unity Day 実施準備のための遠隔支援 ● 必要資料の作成・アップデート
26 日（木）～ 2 月 5 日（日）	● 第 2 回 National Unity Day 実施のための遠隔支援 ● 技術交換事業の実施準備
6 日（月）～ 7 日（火）	● 技術交換事業の実施準備 ● 報告書作成 ● ウガンダでの他業務への従事

2017 年 1 月 27 日から第 2 回 National Unity Day が開催され、2 月 5 日の閉会式まで計 10 日間の日程で実施された。期間中は男子サッカーや男女陸上競技、平和構築ワークショップ、平和構築ゲームなどが行われた（別添 8 の第 2 回 National Unity Day プログラム参照のこと）。イベントには、旧 10 州の都市と 2 地域から約 500 名の競技者・コーチ・州関係者が参加した。日本人 JICA 関係者のいない中、MoCYS 関係者が主体的に大会運営を行い、第 1 回大会よりも、非常に大きな成功を収める大会となった。

また、同現地業務期間中にウガンダのスポーツ関係機関を訪問し、3 月上旬に実施予定のウガンダへの招へいプログラム（技術交換事業）の実施準備を行った。第 6 回現地業務で確認された重要事項は、以下のとおりである。

1) 第2回 National Unity Day 実施中の治安確保

第2回 National Unity Day を実施するための州関係者準備会合を、2016年11月に実施した。その際には National Unity Day 参加のために各都市から陸路移動することは治安上非常に危険であるため、ジュバ市内を除く全ての参加者は、空路でジュバまで来ることが合意された。しかしながら、財政上の課題から、南スーダン側で航空賃の費用負担が出来なかったことから、JICA が全都市からの移動用チャーター機を借り上げた。このため、各都市からの参加者は、治安上のリスク無しに移動することが出来た。

また、空港から参加者が宿泊する Rombur Teacher Training Institute (Rombur TTI) までの移動ならびに Rombur TTI から各競技場までの移動にも、護衛を付けることとなった。このため、ジュバ市内の移動においても、治安面での問題は生じなかった。

しかしながら、大会中、サッカーの試合を行っていた際に観客同士が喧嘩を始めたため、警護に当たっていた National Security 職員が空に向けて威嚇射撃を行い、事態を収拾するといった事件が発生した。南スーダンでは群衆を落ち着かせるために威嚇射撃をすることはよくあるということだが、事態を重く見た JICA は、MoCYS 関係者と緊急に協議し、競技場の変更を行い、観客が多く集まりすぎないように措置を講じた。その結果、それ以降の試合では、観客によるトラブルは発生しなかった。

各競技場の警備員については、第1回 National Unity Day よりも多く配置していたが、第2回大会は第1回大会の実績と活発な広報活動の影響もあり、観客数が著しく増加したため、警備員数が不足気味となってしまった。

2) スポーツを通じた平和構築

大会に参加した選手たちは、初日に平和構築に関する啓発ワークショップに参加し、スポーツを通じた平和構築、フェアプレー、ジェンダーなどにつき講義を受けた。また、平和構築のための活動日を1日設定し、出身地域の混合チームを編成し、綱引きや、サックを使ったリレー競争、スプーンでのレモン運び競争などを行い、参加者間の交流を促進した。また宿舎でも、各地域の参加者が混じった形で、部屋割りをを行うなど、部族を超えた交流が持てるように配慮した。その結果、宿舎では夜も異なった地域からの参加者が一緒に話をしたり、踊ったりして、出身地を意識しない、部族を意識しない交流が促進された。参加者の一部は、帰り際の空港で友達と別れるのが辛いと泣いていたとのことである。このように、大会参加者の交流・結束を促進するという意味においては、第1回 National Unity Day よりも効果があったのではないかと推測される。

また、第2回 National Unity Day の実施期間中は、テレビやラジオなどで、平和のメッセージを流し続けた。さらに、サッカーの試合前には、両チームのキャプテンが観衆に対し平和メッセージを述べるなど、参加者のみならず、一般市民に対しても平和や結束の重要性を訴えた。このような活動の影響は計り難いものの、大会実施に携わった MoCYS 関係者は、選手も観客も National Unity Day の実施意義の理解が進んだと感じていた。

(9) 第7回現地業務（技術交換および第2回 National Unity Day 評価会の実施支援）

第7回現地業務では、南スーダンのスポーツ関係機関の関係者と、ウガンダのスポーツ機関関係者の技術交換を行うとともに、MoCYS 関係者と第2回 National Unity Day の評価会を実施した。現地業務の実施日程は下表のとおりである。

表 16：第 7 回現地業務の調査日程

月 日	訪問先など
2017 年	
2 月 22 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ウガンダでの他業務からの従事 (グル→カンパラ移動)
23 日 (木) ~ 28 日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> 南スーダン事務所との打合せ 技術交換事業最終確認のための関係機関訪問 技術交換ならびに評価会用資料の作成
3 月 1 日 (水) ~ 4 日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> 南スーダン関係者の受け入れ 技術交換事業の実施 (関係機関の訪問ならびに関係者との協議、現場活動の視察)
6 日 (月) ~ 7 日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> MoCYS 関係者との第 2 回 National Unity Day の評価 (技術面・ロジ面ならびに第 3 回 National Unity Day に向けた改善点の整理)
8 日 (水) ~ 10 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ウガンダ関係機関への報告 報告書作成

1) 技術交換事業

2017 年 3 月 1 日～4 日までの 4 日間、南スーダンのスポーツ関係機関の関係者がウガンダのスポーツ関係機関を訪問し、情報交換や議論を通じて、技術交換を行った。この活動の目的は、スポーツ振興方策やスポーツを通じた平和構築に資する活動につき、ウガンダのスポーツ関係機関と意見交換することにより、南スーダンでのスポーツを通じた平和構築の推進に必要な知見を得ることにあつた。

ウガンダの関係機関との話し合いでは、南スーダンと類似した課題が述べられることが多く、その対処法などの具体例は、南スーダン関係者に非常に有益であったようである。本調査の本邦招へい事業で日本にきた経験を持つ関係者 4 人が、本技術交換プログラムにも参加したが、日本よりも近隣諸国から学ぶ点が多いとのコメントも出たほどであった。

本プログラムへの南スーダンスポーツ関係機関からの参加者は、MoCYS 関係者ならびに各種スポーツ関係機関の代表 (陸上・サッカー・バレーボール)、NGO 関係者であった。

また、ウガンダでの訪問したスポーツ関係機関と、各機関での議論のポイントは以下のとおりである。なお詳細については、別添 9 の各訪問機関での議事録を参照のこと。

表 17：ウガンダスポーツ関係機関と訪問時の議論のポイント

訪問機関	議論のポイント
Ministry of Education and Sports	<ul style="list-style-type: none"> Ministry of Education and Sports の事業実施状況 スポーツ関連ポリシーの改訂 各種スポーツ関係機関との関係・協力活動 全国スポーツ大会の実施状況・地方政府との関係
National Council for Sports	<ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ関係機関との関係・協力活動 スポーツ振興方策
Uganda Olympic Committee	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック参加への取り組み 各種スポーツ関係機関との関係・協力活動 ナショナルチームの支援
Federation of Uganda Football Associations	<ul style="list-style-type: none"> 5 年間の戦略計画の内容 職員の能力向上 ナショナルチームの支援・草の根活動の推進

訪問機関	議論のポイント
	<ul style="list-style-type: none"> ● コーチ・審判の育成（ ● 予算確保の方策
Uganda Athletic Federation	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際競技（クロスカンントリー）の実施 ● 職員の能力向上 ● ナショナルチームの支援・草の根活動の推進 ● コーチ・審判の育成 ● 予算確保の方策（トップ選手へのスポーツ企業支援金の一部を活用）
Uganda Volleyball Federation	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員の能力向上 ● ナショナルチームの支援・草の根活動の推進 ● コーチ・審判の育成 ● 予算確保の方策（国際バレーボール連盟の支援活用・民間事業者からの支援金の確保）
Young African Refugees for Integral Development [NGO]	<ul style="list-style-type: none"> ● 草の根スポーツの振興 ● 社会的弱者の支援（難民・スラムの子供など） ● 活動予算確保の方策 ● 政府機関・スポーツ関係機関・他ドナー等との関わり
Youth Sport Uganda [NGO]	
Life Eternal [NGO]	

2) 第2回 National Unity Day の評価会

技術交換の実施後、MoCYS 関係者のみがカンパラに残り、3月6日・7日の2日間、第2回 National Unity Day の評価会を実施し、以下の事項につき議論した。

- 運営・技術面でのアレンジ（準備プロセス、選手の選考・登録・年齢確認方法、競技ルール、係争解決法、審判の質、競技施設の状況、スポーツギア、医療バックアップ体制、治安確保、平和構築ワークショップ・活動の内容など）
- ロジ面でのアレンジ（宿泊施設、食事、飲み物、移動手段、ローカルコンサルタントの活用、業者への支払い方法など）
- 今後の取り組み（第3回 National Unity Day の実施方策）

今後の取り組みについての議論では、①ジェンダーバランスを考慮して女子バレーの種目を追加したいこと、②更なる国民の結束を促進するため、32州の関係者を集めた事前調整会議を開催したいこと、③平和構築ワークショップを1日間（現在は半日間）行いたいこと、④一般市民向けのイベントを半日開催したいこと、⑤今後の活動スケジュールをカレンダーに取りまとめること、⑥他のドナーにも働きかけ、予算確保に努めることなど、多くの前向きな提案が出された。

今後の第3回 National Unity Day 実施準備については、MoCYS と JICA が密に連絡を取って進めていくことが合意された。また評価会の詳細は、報告書として取りまとめられた（別添4）。

別添 1 : MoCYS の 2015/16 年度予算書

Sector: Social & Humanitarian Affairs

Culture, Youth & Sport

Hon.Nadia Arop Dudi
Hon. Minister

Agum Rin Mabeny
Accounting Officer

Overview

Mission Statement

The mission of the ministry is to realize the transformation of south Sudan into a culturally harmonious and vibrant society where ethnic and cultural diversity of its people is a source of strength, unity and pride; to be a pioneer of development and empowerment of the youth through the provision of education, and life -long skills, and to achieve excellence in sports and make South Sudan into one of the leading sporting nations of the world.

Agency Summary:	2014/15	2014/15	2015/16
	Enacted Budget	Jul-Dec Outturn	Dft Budget
Culture, Youth & Sport	30,250,472	4,441,190	23,136,996
Consolidated Fund	30,250,472	4,441,190	23,136,996
21 - Wages and Salaries	9,680,873	2,846,848	7,136,996
22 - Use of Goods and Services	20,569,599	1,594,340	16,000,000

Programme and Directorate Summary:	2014/15	2014/15	2015/16
	Enacted Budget	Jul-Dec Outturn	Dft Budget
Preserve and Protect Heritage	3,337,256	219,922	2,366,559
Archives & Antiquities	3,337,256	219,922	2,366,559
Promote Culture	3,728,920	308,602	3,594,266
Culture	3,728,920	308,602	3,594,266
Sports Development	8,628,305	919,451	4,910,469
Sports	8,628,305	919,451	4,910,469
Support Services	7,534,056	2,485,641	7,031,772
General Administration and Finance (Culture)	7,534,056	2,485,641	7,031,772
Youth Empowerment	7,021,935	507,574	5,233,930
Youth	7,021,935	507,574	5,233,930
Totals	30,250,472	4,441,190	23,136,996

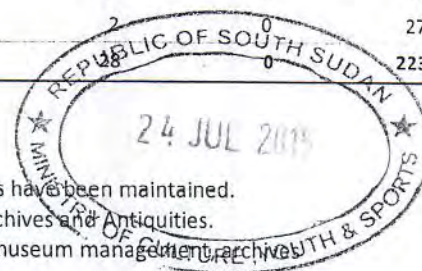
Source of Funds:	2014/15	2014/15	2015/16
	Enacted Budget	Jul-Dec Outturn	Dft Budget
Consolidated Fund	30,250,472	4,441,190	23,136,996
Annual Allocations	30,250,472	4,441,190	23,136,996
Current Year Allocations	30,250,472	4,441,190	23,136,996

Staffing Summary:	Approved Posts	Filled Posts	Vacant Posts	Provisional Staff	New Staff	Total Staff
	Preserve and Protect Heritage	42	20	22	1	0
Archives & Antiquities	42	20	22	1	0	21
Promote Culture	60	37	23	1	0	38
Culture	60	37	23	1	0	38
Sports Development	60	33	27	3	0	36
Sports	60	33	27	3	0	36
Support Services	125	80	45	21	0	101
General Administration and Finance (Culture)	125	80	45	21	0	101
Youth Empowerment	60	25	35	2	0	27
Youth	60	25	35	2	0	27
Totals	347	195	152	28	0	223

Budget Highlights

Budget proposal for the Ministry of Culture, Youth and Sports

- all current employees at Ministry of Culture, Youth and Sports are retained and basic salaries have been maintained.
- Some directorates within the Ministry will increase the number of staff like directorate of Archives and Antiquities.
- Operating budget will increase by 20%, purchase more equipment and conduct training on museum management, and youth leadership



Sector: Social & Humanitarian Affairs

Culture, Youth & Sport

- Capital budget will increase by 40% as for construction of National Museum, National Theatre, Sports Facilities and Youth centres.
- The ministry to complete its new premises behind Jebel Kujur.
- The Ministry to draft legislation.



Sector: Social & Humanitarian Affairs

Culture, Youth & Sport

Overview**Total Spending Agency Budget by Item**

Code	Category	2014/15 Enacted Budget	2014/15 Jul-Dec Outturn	2015/16 Dft Budget
Consolidated Fund		30,250,472	4,441,190	23,136,996
21	Wages and Salaries	9,680,873	2,846,848	7,136,996
211	Wages and Salaries	6,700,566	2,652,973	4,172,487
212	Incentives and Overtime	524,000	0	2,506,066
213	Pension Contributions	736,532	24,636	458,443
214	Social Benefits	1,719,775	169,239	0
22	Use of Goods and Services	20,569,599	1,594,342	16,000,000
221	Travel	3,919,998	428,208	4,400,000
222	Staff training and other staff costs	2,117,383	0	2,133,703
223	Contracted services	3,410,000	249,345	1,100,000
224	Repairs and Maintenance	2,062,000	29,370	1,966,400
225	Utilities and Communications	1,610,000	0	615,297
226	Supplies, Tools and Materials	4,561,166	254,810	2,550,000
227	Other operating expenses	2,889,052	632,609	3,234,600
Overall Total		30,250,472	4,441,190	23,136,996



Sector: Social & Humanitarian Affairs

Culture, Youth & Sport

Programme: Preserve and Protect Heritage**Programme Strategic Objective**

To preserve and protect South Sudan Heritage

Directorate: Archives & Antiquities

<i>Directorate Summary</i>	2014/15	2014/15	2015/16
	Enacted Budget	Jul - Dec Outturn	Drft Budget
Funding Source: Current Year Allocations	3,337,256	219,922	2,366,559
Activity: (MCYS) Archives & Antiquities	3,337,256	219,922	2,366,559
21 Wages and Salaries	1,080,145	64,072	400,159
22 Use of Goods and Services	2,257,111	155,850	1,966,400
Directorate Total	3,337,256	219,922	2,366,559

Description of Primary Directorate Activities

Preserve and protect South Sudan history through processes of sorting out, categorizing, cataloguing, boxing and digital cataloguing or scanning

Programme: Promote Culture**Programme Strategic Objective**

Improve access to cultural life for all South Sudanese, which values diversity, creativity, and knowledge of cultural heritage

Directorate: Culture

<i>Directorate Summary</i>	2014/15	2014/15	2015/16
	Enacted Budget	Jul - Dec Outturn	Drft Budget
Funding Source: Current Year Allocations	3,728,920	308,602	3,594,266
Activity: (MCYS) Culture	3,728,920	308,602	3,594,266
21 Wages and Salaries	1,563,638	177,776	1,223,066
22 Use of Goods and Services	2,165,282	130,826	2,371,200
Directorate Total	3,728,920	308,602	3,594,266

Description of Primary Directorate Activities

- Preserve, safeguard and promote the cultural heritage of south sudan
- promotion of music, dance, drama and mobile cinema activities
- preparation of laws to regulate different activities
- Preparing a book of photography on South Sudan Cultural Heritage

Programme: Sports Development**Programme Strategic Objective**

TO PROMOTE SPORTS DEVELOPMENT IN SOUTH SUDAN

TO TO INFLUENCE THE FORMATION OF STRATEGIES AND PROGRAMMES

TO FOSTER THE DEVELOPMENT OF HEALTHY LIFE STYLES AND MAXIMIZE THE ECONOMIC POTENTIALS



Sector: Social & Humanitarian Affairs

Culture, Youth & Sport

Programme: Sports Development**Directorate: Sports**

<i>Directorate Summary</i>	2014/15 Enacted Budget Jul - Dec	2014/15 Outturn	2015/16 Drft Budget
Funding Source: Current Year Allocations	8,628,305	919,451	4,910,469
Activity: (MCYS) Sports	8,628,305	919,451	4,910,469
21 Wages and Salaries	1,592,153	166,842	1,296,869
22 Use of Goods and Services	7,036,152	752,609	3,613,600
Directorate Total	8,628,305	919,451	4,910,469

Description of Primary Directorate Activities

- to plan, formulate laws, strategic plan review and give direction on sports and recreational matters in the country.
- to mobilize south Sudanese to participate in sports as a career through talent search, nurturing and development.
- Conduct training and research in sports.
- to prepare and facilitate team to participate in local and international events.
- to coordinate inter- sectoral collaborations programmes among stakeholders for sports development.
- to market sports as an industry.
- preparing employees in the directorate of sports for the directed changes in working style attitude and work ethic.
- lays policies and coordinate sports activities with the States.

Programme: Support Services**Programme Strategic Objective**

- to maintain the employees salaries
- to control ministry's properties
- to provide services to the ministry

Directorate: General Administration and Finance (Culture)

<i>Directorate Summary</i>	2014/15 Enacted Budget Jul - Dec	2014/15 Outturn	2015/16 Drft Budget
Funding Source: Current Year Allocations	7,534,056	2,485,641	7,031,772
Activity: (MCYS) General Administration	7,534,056	2,485,641	7,031,772
21 Wages and Salaries	3,905,775	2,294,296	2,983,172
22 Use of Goods and Services	3,628,281	191,345	4,048,600
Directorate Total	7,534,056	2,485,641	7,031,772

Description of Primary Directorate Activities

The directorate of Administration and finance is solely responsible for management of employees salaries and wages and the materials, supervision of vehicles movement and execution of the budget with consultation of the Undersecretary of the ministry.

Programme: Youth Empowerment**Programme Strategic Objective**

To contribute towards the attainment of a peaceful and prosperous South Sudan where all youngmen and women without any discrimination, violence and abuse fully develop their potentials wholly, freely and consciously participate in economic, social, political and spiritual life, and positively contribute and benefit from country's development.



Sector: Social & Humanitarian Affairs

Culture, Youth & Sport

Programme: Youth Empowerment**Directorate: Youth**

<i>Directorate Summary</i>	2014/15	2014/15	2015/16
	Enacted Budget Jul - Dec	Outturn	Drft Budget
Funding Source: Current Year Allocations	7,021,935	507,574	5,233,930
Activity: (MCYS) Youth	7,021,935	507,574	5,233,930
21 Wages and Salaries	1,539,162	143,862	1,233,730
22 Use of Goods and Services	5,482,773	363,712	4,000,200
Directorate Total	7,021,935	507,574	5,233,930

Description of Primary Directorate Activities

increase Youth participation (male & female) in voluntry service by organizing them and conduct training to empower them.





別添 2 : MoCYS 関係者準備会合報告書 (2016年9月)

Report for the MoCYS pre-meeting for the State Coordinating Meeting on the Second National Unity Day for Peace-building through Sports

1. Date: September 28th to 29th, 2016

2. Venue: Fairway Hotel in Kampala, Uganda

3. Participants

Name	Title	Affiliation
Mr. Edward Settimo Yugu lang	Director General,	Ministry of Culture, Youth and Sports (MoCYS)
Mr. Lemor William Joseph Lemor		MoCYS
Mr. Jphn Bosco Vitale Bender		MoCYS
Mr. Akwac Odong Ajang Fadit		MoCYS
Ms. Tomomi Uchikawa	Senior representative	JICA South Sudan Office
Ms. Nanaho Yamanaka	Representative	JICA South Sudan Office
Mr. Taban Geoffrey Koma Alfred	National staff	JICA South Sudan Office
Mr. Yasuo Ohno	JICA consultant	JIN Corporation

4. Programme of the meeting: please see Annex 1.

5. Contents of discussion

5-1. Evaluation of the first National Unity Day

- Many people recognized the importance of a sports event for peace building and unity for the nation. Also cabinet members recognized the importance and positive impact of the event for peace and unity.
- Participants could meet with players of other states and could make new friends during the event. Almost all participants expressed positive comments on the event.
- Since radio broadcasting was made widely, many citizens could enjoy the football matches.
- Some stakeholders would like to know reasons why some states could not participate in the National Unity Day. MoCYS explained some causes like insecurity of travel by car/bus in particular areas, and not enough financial capacities to provide transportation from states to Juba by some State Governments.
- Particularly for football, issues of over age players and not registered players were very serious. Some manipulations were made by some teams, so these issues should be addressed for the next event.
- MoCYS needs more close communications with Ministry of Education, South Sudan Football Association, and South Sudan Athletics Association for the next event.

5-2. Arrangements of the State Coordinating Meeting

(1) Schedule and programme for the State Coordinating Meeting

- The State Coordinating Meeting will be held from November 21st to 23rd at the Fairway hotel in Kampala, Uganda.
- Draft programme of the State Coordinating Meeting is attached as Annex 2.

(2) Logistics for the State Coordinating Meeting

- Target towns for the State Coordinating Meeting are twelve major towns, such as Juba Wau, Yambio, Torit, Aweil, Bor, Pibor, Malakal, Bentiu, Kwajok, Abyei, and Rumbek.
- From each major town one Director General and one Director of sports related State Ministry, one coach of athletics, one coach of football will be invited for the State Coordinating Meeting. In addition one expert representing Jubek State Athletic Association and one expert representing Juba Local Football Association will be invited. From MoCYS, two Director Generals and members of the project team will be invited.
- Regarding the logistical demarcation, JICA is responsible for the arrangements of transportation for participants from Juba to Kampala and their accommodation in Kampala. MoCYS is responsible for the arrangements of transportation for participants from respective towns to Juba, their accommodation in Juba, and obtaining Ugandan VISA.
- MoCYS has responsibilities to accomplish the following logistical arrangements for the State Coordinating Meeting by October 14^h, 2016.
 - ✓ Preparation of the list of state convention participants
 - ✓ Collection of necessary documents of participants (i.e. passport copies/travel document copies, office ID card copies, two passport photos for visa application, and information on Yellow Fever)
 - ✓ Confirmation of schedule for private flights.
- JICA will confirm the schedule of UNHAS flights and procedure.
- Each participant needs to have a vaccination card of Yellow Fever. The cost of vaccination is 210 SSP and will be shouldered by the participant. A participant who does not have a passport should obtain a travel document for foreign travel. The cost for obtaining the travel document is 70 SSP and will be shouldered by the participant. JICA will shoulder the cost of Ugandan VISA.
- JICA will also provide cost of transportation to the nearby airports in each town (only when travel over 30km), accommodation on the way to the nearby airport (1 night maximum for each participant), and daily allowance of 10 USD for travel inside the country. The expense for both ways will be reimbursed upon presenting the receipts in Juba after the workshop in Kampala.
- JICA will provide for participants the cost of flights or buses between each town and Juba, accommodation in Juba with the maximum 65 USD, flight between Juba and Kampala, and accommodation in Kampala with three meals.

(3) Necessary presentation materials and documents for the State Coordinating Meeting

- One representative of each town prepares a presentation material on evaluation of the first Unity Day and activities done after the Unity Day. Each presenter has 10 minutes for presentation and 5 minutes for Q&A.
- MoCYS will prepare draft rules and regulations of athletics and football for discussion.
- MoCYS will also prepare a list of necessary tasks to be done until the National Unity Day and an action plan format with support from the JICA consultant.

5-3. Arrangements of sports events for the second National Unity Day: technical aspects

(1) Selection processes of players

- The target sports for the second National Unity Day are men's and women's athletics and men's football. Age limit of players for both athletics and football is under 20 years old, so that new young stars can obtain more chances to participate in the national sports events.

- Track events of athletics for both men and women are 100M, 200M, 400M, 800M, 1,500M, 100Mx4, and 400Mx4. An event of 3,000M is only for men. Field events for both men and women are shot put, discus, javelin, and long jump.
- One player of athletics can register for two track events excluding relay events and one field event OR one track event excluding the relay and two field events.
- State ministry and local association of each town will decide selection methods under their circumstances (e.g. limited financial and human resources, insecurity, and inaccessibility).
- Due to insecurity and inaccessibility, selection processes of players (e.g. preliminary games/matches) might be conducted near or inside big towns. However, fairness of selection should be maintained throughout the processes. This should be emphasised during the State Coordinating Meeting.
- To avoid overage players, preparation of identification (ID) cards with photos is very crucial. Secretariat of MoCYS will prepare ID cards with photos for players, coaches and administrators.
- Definition of origin of players is that players stay in a place at least three months. Internally Displaced Persons (IDPs) should be given special considerations. If state ministries and local associations would like to register players who are IDPs and live in different towns, they need to communicate with secretariat of MoCYS during a pre-registration period.

(2) Registration of players and control of participants to games/matches

- MoCYS will work for pre-registration before the Unity Day (might be in December 2016 and early January 2017). MoCYS will collect necessary documents such as lists of registered players, their official certificates to prove ages (e.g. birth certificate or assessment of age issued by Ministry of Health), and their pictures.
- During the registration at the Rombur TTI, the MoCYS secretariat should confirm age and origin of players with birth certificate or assessment of age issued by Ministry of Health.
- Based on the information of the official documents, ID cards with photos will be issued by the MoCYS secretariat.
- Before games/matches, referees will check records of registration and players' IDs to avoid involving players not registered.

(3) Rules and regulations of games/matches for athletics and football

- Athletics will hold two heats for each track event. The first-three in each heat and the fastest two losers can forward to the final. If there are more than sixteen registered players for one event, three heats will be held and the sixteen will be chosen based on the time records and forward to the semi-final (two heats). For the field events each players will be allowed three trials. Twenty players (10 males and 10 females) per each town will be invited to the National Unity Day.
- Regarding football the teams will play in a group stage. Three groups will be formed. A winner of the each group and one best team among losers will forward to the semi-final. The best team among losers will be determined as follows:
 - ✓ Greatest number of points obtained in all group matches
 - ✓ If points are same, goal difference in all group matches
 - ✓ If goal difference is same, greatest number of goals scored in all group matches
 - ✓ If number of goals scored is same, drawing of lots by the organizing committee
- Generally, FIFA rules are applied. Twenty-two players will be invited. Up to maximum of five substitutes can be played during a match.

- Draft rules and regulations were prepared. Some modifications will be made by the staff of MoCYS based on the discussion during this meeting. Final version of these documents will be presented during the State Coordinating Meeting. Please see the details of rules and regulations in Annex 3 and 4.

(4) Resolution of disputes

- The highest body of disputes resolution is the organizing committee. Under the organizing committee, sub-committees for athletics and football are formed. The expected members are shown in the following table.

Committee	Expected members	
Organizing Committee (Six members)	<ul style="list-style-type: none"> • Undersecretary of MoCYS • Director General of MoCYS • Representative of South Sudan Athletic Association • Representative of South Sudan Football Association 	<ul style="list-style-type: none"> • Representative of Juba Local Athletic Association • Representative of Juba Local Football Association • One staff of MoCYS (secretariat)
Athletics Sub-committee (Seven members)	<ul style="list-style-type: none"> • Representative of Juba Local Athletic Association • Two senior referees 	<ul style="list-style-type: none"> • Three juries • One staff of MoCYS (secretariat)
Football Sub-committee (Five members)	<ul style="list-style-type: none"> • Representative of South Sudan Football Association • Representative of Juba Local Football Association 	<ul style="list-style-type: none"> • One senior referees • One expert (Mr. Sestilio Juba Lerib) • One staff of MoCYS (secretariat)

- Dispute resolution will be made by referees of a game/match, the head of referees, the sub-committees and the organizing committee. Proposed processes of dispute resolution are shown in the following table.
- MoCYS raised an issue of allowances for the committee members from other organizations. JICA recommends that effort is made by MoCYS to communicate with other support organizations (e.g. donors, NGOs, and private companies, and past funders for the South Sudanese delegate to the Olympics) to obtain funds for allowances.

Processes of dispute resolution	Athletics	Football
Technical matters	<ul style="list-style-type: none"> • Verbal protest shall be made to the referee at the playground within 30 minutes upon the announcement of the results of the event • If the referee decision is not acceptable, written protest shall be made to the head of referee within 30 minutes upon the announcement of the results of the event • If the decision of the head of referee is not acceptable, the protest shall be forwarded to the Athletic sub-committee and the three juries make a final decision 	<ul style="list-style-type: none"> • No protests may be made about the referees' decisions regarding the facts connected with the play • Protests regarding the match results shall be forwarded to the football sub-committee • The football sub-committee shall make a preliminary decision and forward the decision to the organizing committee • The organizing committees shall make a final decision
General matters	<ul style="list-style-type: none"> • General disputes will be solved by the organizing committee. The decision of the organizing committee shall be final. 	

(5) Qualification of referees

- Referees of athletics will be selected by the South Sudan Athletic Association and Some referees do not have official licences, so MoCYS needs to have close coordination or support with the athletic associations to maintain the quality of referees.
- Referees of football will be selected by the South Sudan Football Association and Juba Local Football Association. Since the referees of the first National Unity Day had international referee licences, there was no problem on the quality of referring in the last events.

(6) Facilities for games/matches

- The Bulk paly ground is used for the athletic event. Construction of fence will be made by using funds from Japanese Embassy in South Sudan and might be completed before the event. If the construction delays until the events (late January 2017), JICA South Sudan office needs to coordinate with Japanese Embassy in South Sudan to stop construction temporarily during the event.
- For football the National Football Stadium will be used for only opening, the final match of football, and closing. The Bulk, Zhara, Spiri, and Juba 1 playgrounds will be used for other matches.
- If conditions of surfaces of these football playgrounds are not good, MoCYS will coordinate with Ministry of Physical Infrastructure to repair the surfaces. Necessary cost (i.e. fuel of heavy duty equipment) will be provided by JICA.

(7) Sports gears

- For athletics some gears such as stop watches and javelins are necessary for the event. These gears shall be provided by South Sudan Athletic Association which obtained grassroots grant aid from the Japanese Government.
- For football enough number of balls and pumps, two sets of corner flags, two goal nets, and twenty sets of uniforms for referees should be purchased for the event.

(8) Medical support

- Medical support by the Red Cross for games/matches during the last event was good. The number of medical staff for games/matches might be increased to provide more effective medical support in the next event.
- Medical support at the Rombur TTI (accommodation of coaches and players) was very poor during the last event, since no doctor or nurse was assigned there. Thus, a doctor or nurse should be assigned at the accommodation during the next event.
- Also necessary medicines will be kept at the playgrounds and accommodation.

(9) Security of playgrounds and accommodation

- Security conditions of playgrounds were relatively OK during the last event, so MoCYS will continue making same arrangements for the next event.
- Security arrangements for the Rombur TTI were not satisfactory. MoCYS and JICA may consider hiring some security guards from a private security company, or to add such entrance management to the police mandate to strengthen functions of a reception at a main gate, since many strangers came into the TTI and ate some meals prepared for players during the last event. This caused shortage of meal amount for players.

5-4. Arrangements of sports events for the second National Unity Day: logistical aspects

(1) Accommodations

- A hotel for administrators was fair. JICA may provide the same level of accommodation for administrators in the next event.
- Facilities of the Robur TTI were relatively OK. Some repairs might be needed especially for electrical pumps for a water system. Necessary items, such as mattress, bed sheets, mosquito screens for windows and fire extinguishers, have to be procured.

(2) Food and drinks

- Quantity of food for players was diminishing day by day during the last event, since some people from outside ate meals of players. To prevent such situations, a function of reception to check strangers at the main gate should be strengthened.
- To avoid meal shortage of players, amount of food stuff for meals should be procured with a certain level of contingencies (maybe 5% or 10%).
- At least six liters of water per day per player should be provided in the next event. In addition some water servers will be set at the TTI especially at the each floor of accommodation building.

(3) Transport from accommodations to playgrounds

- Some players failed to take a bus to go back to the TTI, so MoCYS staff hired a car to send them to the TTI. At least one car should be kept for MoCYS staff to address such issues.
- Communications on transport arrangements should be made very closely between MoCYS and a local consultant for overall management.

(4) Local consultants

- .Mandate of consultants, list of procurement items, and the shortlist for candidate companies shall be listed by Oct. 14th.
- Staff of MoCYS feels the need for closer coordination with local consultants to be hired. Communication methods, a chain of command, and roles and responsibilities among MoCYS, local consultants, and JICA should be discussed and stipulated in a document upon contracting for smooth coordination during the event.

(5) Resource mobilization

- MoCYS should make serious efforts for obtaining additional financial and in-kind resources form donors, NGOs, and private companies to avoid relying on JICA support only. UNESCO and some telecommunication companies could be high potential partners. MoCYS will communicate these stakeholders to check the possibility of obtaining additional resources.

5-5. Maintenance of functions of the project office

- Necessary support to maintain office functions (e.g. provision of fuel for a generator and office supplies) will be listed up by MoCYS and be submitted to JICA. JICA will examine the contents of the list and decide items of necessary support.

END

Annex 1

MoCYS Pre-meeting for the State Coordinating Meeting on the Second National Unity Day for Peace-building through Sports

Programme

Date: September 28th to 29th, 2016

Venue: Fairway Hotel

Day 1 (September 28th)

Time	Activities	In-charge
9:30 - 9:40	Self-introduction	Mr. Lemor William Joseph
9:40 - 9:50	Opening	Mr. Edward Yugu
9:50 - 10:00	Introduction (purposes and flows of the meeting)	Ms. Nanaho Yamanaka and Mr. Yasuo Ohno
10:00 - 10:50	Evaluation of the first National Unity Day	Mr. Edward Yugu, and Mr. Yasuo Ohno
10:50 - 11:10	Tea break	
11:10 - 12:00	Evaluation of the first National Unity Day (cont.)	Mr. Edward Yugu, and Mr. Yasuo Ohno
12:00 - 12:30	Confirmation of the schedule and programme for the State Coordinating Meeting	Mr. Lemor William Joseph and Mr. Yasuo Ohno
12:30 - 13:30	Lunch	
13:30 - 14:30	Confirmation of logistics for the State Coordinating Meeting	Mr. Lemor William Joseph and Ms. Nanaho Yamanaka
14:30 - 14:50	Confirmation of necessary presentation materials and documents for the State Coordinating Meeting	Mr. Lemor William Joseph and Mr. Yasuo Ohno
14:50 - 15:10	Tea break	
15:10 - 16:50	Draft rules and regulations, and selection processes of participants for athletic games	Mr. Bosco Bender
16:50 - 17:00	Closing	MoCYS

Day 2 (September 29th)

Time	Activities	In-charge
9:30 - 10:50	Draft rules and regulations, and selection processes of participants for football matches	Mr. Akwac Fadit
10:50 - 11:10	Tea break	
11:00 - 11:30	Draft rules and regulations, and selection processes of participants for football matches (cont.)	Mr. Akwac Fadit
11:30 - 12:30	Establishment of technical committee on resolution of disputes (technical issues and ordinal problems)	Mr. Edward Yugu
12:30 - 13:30	Lunch	
13:30 - 14:00	Establishment of committee on procurement and management of local consultants	Mr. Edward Yugu
14:00 - 14:40	Confirmation of actions to be taken by the State Coordinating Meeting	Mr. Yasuo Ohno
14:40 - 15:00	Tea break	
15:00 - 15:30	AOB	
15:30 - 15:40	Closing	Mr. Edward Yugu

Annex 2

Coordinating Meeting on the Second National Unity Day for Peace-building through Sports

Programme (Tentative)

Date: November 21st to 23rd, 2016

Venue: Fairway Hotel, Kampala, Uganda

Day 1 (November 21st)

Time	Activities	In-charge
9:30 - 9:40	Welcome remarks	Director General, Ministry of Culture, Youth and Sports (MoCYS)
9:40 - 9:50	Remarks	Chief Representative, JICA South Sudan Office
9:50 - 10:00	Opening remarks	Minister, MoCYS
10:00 - 10:10	Introduction	MoCYS
10:10 - 10:30	Concept of the National Unity Day and its benefits	MoCYS
10:30 - 11:00	Evaluation of the first National Unity Day and activities done from Feb. to Nov. in each town	Representatives of each town
11:00 - 11:15	Tea break	
11:15 - 12:30	Evaluation of the first National Unity Day and activities done from Feb. to Nov. in each town	Representatives of each town
12:30 - 13:30	Lunch	
13:30 - 15:00	Evaluation of the first National Unity Day and activities done from Feb. to Nov. in each town	Representatives of each town
15:00 - 15:15	Tea break	
15:15 - 16:15	Introduction of the second National Unity Day	MoCYS
16:15 - 16:50	Q & A session	MoCYS
16:50 - 17:00	Closing	MoCYS

Day 2 (November 22nd)

Time	Activities	In-charge
9:30 - 9:40	Review of Day 1 activities	MoCYS

9:40 - 10:20	Presentation of rules and regulation, and selection processes of participants for athletic	MoCYS and resource persons
10:20 - 11:00	Presentation of rules and regulation, and selection processes of participants for football	MoCYS and resource persons
11:00 - 11:15	Tea break	
11:15 - 12:30	Discussion on rules and regulation, and selection processes of participants	Two groups: athletic and football
12:30 - 13:30	Lunch	
13:30 - 15:30	Discussion on rules and regulation, and selection processes of participants	Two groups: athletic and football
15:30 - 15:45	Tea break	
15:45 - 16:50	Minutes preparation	MoCYS
16:50 - 17:00	Closing	MoCYS

Day 3 (November 23rd)

Time	Activities	In-charge
9:30 - 9:40	Review of Day 2 activities	MoCYS
9:40 - 10:20	Presentation of Day 2 outputs by athletic group	Representatives of athletic group
10:20 - 11:00	Presentation of Day 2 outputs by football group	Representatives of football group
11:00 - 11:15	Tea break	
11:15 - 12:30	Explanation of general schedule and necessary tasks to be done until the National Unity Day	MoCYS
12:30 - 13:30	Lunch	
13:30 - 14:30	Drawing lots for football matches	Football coaches
14:30 - 15:30	Preparation of an action plan for the National Unity Day by each town	Representatives of each town
15:30 - 15:45	Tea break	
15:45 - 16:15	Preparation of an action plan for the National Unity Day by each town	Representatives of each town
16:15 - 16:30	Signing of minutes	MoCYS and representatives of each town
16:30 - 16:50	Way forward	
16:50 - 17:00	Closing remarks	Undersecretary, MoCYS

別添 3 : 州関係者準備会合討議議事録 (2016 年 11 月)

Minutes of Meeting on
State Convention on the 2nd National Unity Day
Agreed Upon Between
National Ministry of Culture, Youth and Sports (MOCYS)
and State Ministry of Information, Culture and Sports (MOICYS)
of the Republic of South Sudan

AND

Japan International Cooperation Agency (JICA)
South Sudan Office

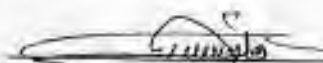
November 25th, 2016



Dr. Mitsuaki Furukawa
Executive Advisor to the Director General
Africa Department, JICA



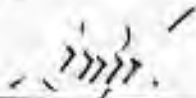
Mr. Daniel Gong Chiengkou
Director General of Bor
MoICYS



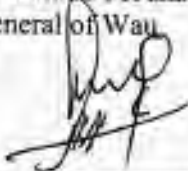
Mr. Victor Bol Daw
Director General of Abyei
MoICYS



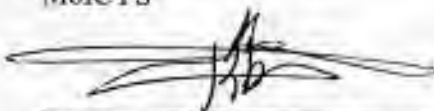
Mr. Nyuada Sabino Abroko
Director General of Aweil
MoICYS



Mr. Joseph Richard Mbuka
Director General of Wau
MoICYS



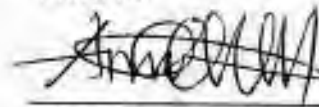
Mr. Yassir Babiker Gismalla
Director General of Pibor
MoICYS



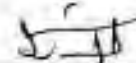
Mr. Ajak Khamis Mayom Deng
Acting Director General of Malakal
MoICYS



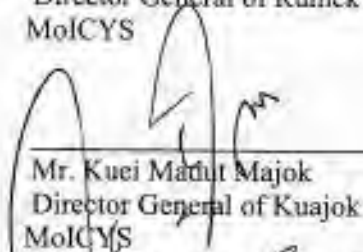
Hon. Agum Rin Mabeny
Undersecretary
MoICYS



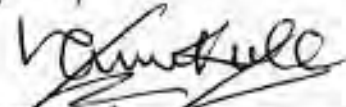
Mr. Victor James Ndukpo
Director General of Yambio
MoICYS



Ms. Agum Joseph Kuc
Director General of Rumek
MoICYS



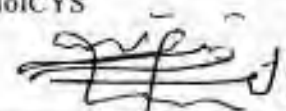
Mr. Kuei Madut Majok
Director General of Kuajok
MoICYS



Mr. Wani Kute Joseph
Director General of Torit
MoICYS



Mr. Malek Nyuak Riek
Director General of Bentiu
MoICYS



Mr. Alfred Sule Erasto
Director General of Juba
MoICYS

The National Ministry of Culture, Youth and Sports (hereinafter referred to as "MoCYS"), State Ministry of Information, Culture, Youth and Sports (hereinafter referred to as "MoICYS") and Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") made discussions on the contents and the arrangements for the "State Convention on the 2nd National Unity Day" (hereinafter referred to as the "Convention"),

I. Demarcation and responsibility

1.1 Responsibility of MoCYS

1.1.1 MoCYS shall take initiative in the preparation and implementation of the 2nd National Unity Day to be held in Juba, from January 28th to February 4th, 2017 by providing necessary instruction and coordination with MoCYS, MoICYS, and National Sports Association, and coaches.

1.1.2 The MoCYS and MoICYS observes the precautions regarding security situation in Juba, and proposes appropriate prevention measures as follows.

Committee	Expected members
Organizing Committee (Eight members)	<ul style="list-style-type: none"> • Undersecretary of MoCYS • Director General of MoCYS • Representative of South Sudan Athletic Association • Representative of South Sudan Football Association • Representative of Juba Local Athletic Association • Representative of Juba Local Football Association • One staff of MoCYS (secretariat) • JICA

1.2 MoICYS responsibility

MoICYS shall be responsible for the transportation (including accommodation in the process) of players, Director General, Director of Sports, and 2 head of coach each for soccer / athletics, and one reporter from each city to Juba. Furthermore, each MoICYS shall prepare uniforms and shoes for the players and coaches.

1.3 JICA responsibility

In consideration of the financial difficulty of Government of South Sudan, JICA will support initiatives of the MoCYS to prepare for the 2nd National Unity Day by financing and supporting following facilities until the completion of the event.

- Player, coaches and reporter accommodation
- Food
- Sports equipment
- Player and official's transportation during event in Juba
- Officials accommodation
- Security related cost
- PR related cost
- Medication
- Ceremony arrangement

II. Security Issues

2.1 Juba-based Sports Matches and Opening/Closing Ceremony

2.1.1 The MoCYS and MoICYS observe the precautions regarding security situation in Juba, and proposes appropriate prevention measures as follows.

Security precautions in Juba	Appropriate prevention measures
Movements after dawn shall be avoided to prevent general petty crimes.	Evening matches must be scheduled to finish before dawn. Security in Rombur TTI in evenings shall be increased.

- 2.1.2 MoCYS shall submit final security arrangement plan in Juba, including police deployment layout and schedule, with cost estimation to JICA by 1st week of December.

2.2 Inter-State Transportation

- 2.2.1 The MoCYS observes the security for transportation between each cities and Juba to require air transportation, and proposes appropriate prevention measures, as follows.

City Name	Security precautions during transport	Appropriate prevention measures
Abyei	Wau-Juba road security has some risks. (Abyei-Wau is safe)	Commercial flight shall be utilized for Wau-Juba travel.
Aweil	Aweil-Juba road security has some risks.	Commercial flight shall be utilized for Aweil-Juba travel.
Bentiu	Bentiu-Juba road security is highly risky. Players scattered in Bentiu and Rweng, but inter-county transport is risky.	Commercial flight shall be utilized for both Bentiu-Juba and Rweng-Juba. (12 person carrier)
Bor	Bor-Juba road security is highly risky.	Commercial flight shall be utilized for Bor-Juba travel.
Wau	Wau-Juba road security has some risks.	Commercial flight shall be utilized for Wau-Juba travel.
Kuajok	Wau-Juba road security has some risks.(Kuajok-Wau is safe)	Commercial flight shall be utilized for Wau-Juba travel.
Malakal	Malakal-Juba road security is highly risky.	Chartered flight shall be utilized for Malakal-Juba travel. Landing permission needs to be obtained.
Pibor	Pibor-Juba road security has some risks.	Chartered flight shall be utilized for Pibor-Juba travel. Landing permission needs to be obtained.
Rumbek	Rumbek-Juba road security is highly risky.	Commercial flight shall be utilized for Rumbek-Juba travel.
Torit	Torit-Juba is impassable after July 2017.	Commercial flight shall be utilized for Torit-Juba travel.
Yambio	Yambio-Juba is impassable after July 2017.	Commercial flight shall be utilized from Nzara. 18km travel between Yambio-Nzara is safe.

- 2.2.2 The MoCYS shall officially reply to MoCYS for financial availability for the above transportation means as mentioned in the Action Plan.

2.3 JICA arrangement and MoCYS arrangement for the National Unity Day

- 2.3.1 The MoCYS and MoICYS have agreed to make efforts for the necessary arrangements to take the security precaution measures in the 2.1 and 2.2.

2.4 Dispute resolution for general matters

The MoCYS and MoICYS agreed that the Organizing committee in Table 1 shall be responsible for resolution of general disputes during the usage of accommodation in Rombur TTI, and non-technical disputes regarding matches, and that all parties shall follow the resolution announced by the Organizing Committee.

Committee	Expected members
Organizing Committee (Seven members)	<ul style="list-style-type: none">• Undersecretary of MoCYS• Director General of MoCYS• Representative of South Sudan Athletic Association• Representative of South Sudan Football Association• Representative of Juba Local Athletic Association• Representative of Juba Local Football Association• One staff of MoCYS (secretariat)

Table 1

III. Arrangements of Selection and Registration

3.1 Age and number of Participants

MoCYS, MoICYS and JICA agreed that age limit for both athletics and football shall be under 20 years old (born on and after 1st January 1998) and the number of participants as follows;

- 10 males and 10 females, 2 coach for athletics / 1 female and 1 male
- 21 players, 2 coach for football

3.2 Process of Player selection process

- 3.2.1 MoCYS and MoICYS agreed that all players' age must be verified by either passport / national ID / birth certificate, or assessment of age issued by the Ministry of Health (1 of the 4), and photo data.
- 3.2.2 MoCYS and MoICYS agreed that State players must have stayed in the State of participation for longer than 3 months. Furthermore, both sides agreed that Internally Displaced Persons, if included in a team, need to communicate with secretariat.
- 3.2.3 State ministry and local association of each town shall decide selection methods under their circumstances.

3.3 Registration procedure

- 3.3.1 MoCYS shall prepare official National Unity Day Participants ID (hereinafter referred to as "official ID") with photos for all players, coaches and administrators. MoICYS agreed that participants without the official ID published by the MoCYS are not eligible for the National Unity Day.
- 3.3.2 MoCYS secretariat shall finally verify photos and birth certificate or assessment of age issued by Ministry of Health upon arrival in Rombur TTI. MoICYS have agreed that only players who have been registered and given IDs in the Rombur TTI reception are allowed entry into the facility.
- 3.3.3 MoICYS have agreed that players are eligible for matches only after referees check records of registration and players' IDs.

IV. Arrangements of Athletics

4.1 Athletics event and rules

4.1.1 MoCYS, MoICYS and JICA agreed to hold following events during the National Unity Day.

	Male	Female
100M	✓	✓
200M	✓	✓
400M	✓	✓
800M	✓	✓
1,500M	✓	✓
3,000M	✓	
100Mx4	✓	✓
400Mx4	✓	✓
Shot put	✓	✓
Discus	✓	✓
Javelin	✓	✓
Long Jump	✓	✓

4.1.2 MoCYS, MoICYS and JICA agreed on the rules and regulations in Attachment 1.

4.2 Dispute resolution committee

4.2.1 MoCYS, MoICYS and JICA agreed to form the dispute resolution committee for technical matters of athletics as in Table 2. MoICYS agreed to accept all results of the committee.

Committee	Expected members
Athletics Sub-committee (7 members)	<ul style="list-style-type: none">• Representative of Juba• Local Athletic Association• Two senior referees• Three juries• One staff of MoCYS (secretariat)

Table 2

4.2.2 MoCYS and MoICYS agreed that the verbal protest shall be made to the referee on ground within 30 minutes upon announcement of results. If the results are not acceptable, written protest shall be made to the head of referee within 30 minutes upon announcement of results.

V. Arrangements of Football

5.1 Football event and rules

5.1.1 MoCYS, MoICYS and JICA agreed to conduct the match through round-robin style.

5.1.2 MoCYS, MoICYS and JICA agreed on the rules and regulations in Attachment 2.

5.2 Dispute resolution committee

5.2.1 MoCYS and JICA agreed to form the dispute resolution committee for technical matters of football as in Table 3. The MoCYS and MoICYS agreed that protests regarding match results shall be forwarded to the football sub-committee, and the final organizing committee decision shall be accepted without exception.

THE SOUTH SUDAN ATHLETICS FEDERATION
COORDINATION MEETING OF STATE MOCYS AND ASSOCIATIONS
ON THE SECOND UNITY DAY FOR PEACE BUILDING THROUGH SPORTS
NOVEMBER 24th TO 25th, 2016
RULES AND REGULATIONS FOR ATHLETICS

- General provisions" of Rules and Regulations article:
- Under 20 years of age
- Each town must comply with the stipulated age limit i.e. under 20 years
- Assessment of age is a mandatory from the participants.

1. FIELDING

- a) Each States shall be expected to present 2 athletes per event. One player of athletics shall be registered for two track events excluding relay events and one field event OR one track event excluding the relay and two field events.
- b) Each town shall present a maximum of 10 athletes for junior women and maximum of 10 athletes for junior men.
- c) For the relay a maximum of 6 athletes shall be registered for the event.
- d) Team managers/Head coaches shall be expected to fill the official registration form to facilitate the preparation of the start list.

2. IMPLEMENTS

- a) All implements to be used shall be provided by the organizers.
- b) Those wishing to use their own implements must present them to the referee not later than 9:00 am on the day of the competition for inspection.
- c) Javelin Junior women (600 g), Javelin Junior men (800 g), Discus Junior women (1 kg), Discus Junior men (1.75 kg), Shot Put Junior women (4 kg), Shot Put Junior men (6 kg).

3. QUALIFYING ROUNDS

TRACK EVENTS

- a) Track events of the second Unity Day for both men's and women's are 100m, 200m 400m, 800m, 100mX4, 400mX4, and 1,500m. An event of 3,000m is only for men.

- b) In races from 100m, 200m 400m, 800m, 100MX4, and 400MX4, there shall be two heats, the first-three in each heat and the fastest two losers shall qualify for the finals.

FIELD EVENTS

- a) Field events of the second Unity Day for both men's and women's are long jump, shot put, discus, and javelin.
 - b) In all field events, each competitor will be allowed three trials
 - c) The best eight competitors shall be allowed an additional three trials
4. Only those competitors due to the events and officiating officials shall be allowed in the arena. Competitors or team managers/coaches found to be loitering in the arena will cause their team to be disqualified.
5. Warming up shall not be permitted in the arena and the surrounding area once the competition start.
Competitors or team managers/coaches will be required to leave the arena or field in an orderly manner after finishing their duties.
6. Certificates and medals shall be presented to the 1st, 2nd and 3rd positions at the victory ceremony. Stewards will escort the above winners to the presentation waiting area for the prize presentation.
7. **UNIFORMS**
All athletes must compete in their Town Official colours or colours provided by the sponsor.
8. **PROTESTS**
- a) Verbal protest shall be made to the referee at the stadium – within 30 minutes upon the announcement of the results of the event.
 - b) If the referee decision is not acceptable, written protest shall be made to the head of referee within 30 minutes upon the announcement of the results of the event.
 - c) If the decision of the head of referee is not acceptable, the protest shall be forwarded to the Athletic sub-committee and the three juries make a final decision.



REGULATIONS:

UNITY UNDER -20 SOUTH SUDAN CUP COMPETITIONS

GENERAL PROVISIONS

ARTICLE:-

1. The unity U-20 cities cup competition is a national competition
2. The cities competition consist preliminary and final competition
3. The SSFA statutes and regulations, FIFA statutes and regulations in force shall apply
4. Preliminary competitions is assigned to states ministry of Youth and Sports and the local Associations
5. On entering the preliminary competition, all participating members automatically undertake to:-
 - a. Observe the regulations
 - b. Accept all the administrative disciplinary and refereeing matters related to the competition
 - c. Observe the principle of fair play
6. The organizing committee for U-20 cities cup competition will be approved by the stakeholders and is responsible for organizing the final competition
7. The organizing committee may appoint a sub-committee to deal with the emergencies and any decision taken by the sub-committee shall come into effect immediately.
8. The organizing committee shall appoint a sub-committee to select talented players for U-17, U-20 National teams
9. The responsibilities of the organizing committee include but are not limited to:-
 - a. Supervising general preparations, deciding on the competition format, the draw and the formation of groups
 - b. Approving the dates and venues of the matches, stadiums, training sites with host Association
 - c. Appointing match commissioners
 - d. Deciding cases of abandoned matches, withdrawals, replacing and approving the official football
 - e. Judging protests concerning the eligibility of players
 - f. Rescheduling of matches due force majeure or extraordinary circumstances
10. The decision taken by the organizing committee is final and binding and not subject to appeal.
11. The organizing Association is responsible for the safety and order in and around the stadium, training sites and hostels.

12. The participating members agree to comply with and ensure that every delegation member (players, coaches, managers, officials, media officers, representatives and guests) complies with these regulations, the laws of the game, SSFA and FIFA statutes, regulations.
13. On entering the final competition, the participating members automatically undertakes to:-
 - a) Comply with the maximum number of players and officials as defined in the technical rules.
 - b) Observe the regulations not only by the players but all the delegation members.
 - c) Obey and accept all the decision taken by the organizing committee and sub-committee.
 - d) Participate in all matches of the final competition.
 - e) The conduct of its delegation members.
14. Any match which is not played or which is abandoned except in cases of force majeure recognized by the high organizing committee may lead to the imposition of sanction
15. Any participating member that withdraw or whose behavior is liable for a match not being played or being abandoned may be ordered by the organizing committee to leave the hostels within 24 hours.
16. In the case the match being abandoned as a result of force majeure after it has already kick off, the following principles will apply:-
 - a) The match shall recommence at the minute at which play was interrupted rather than being replayed in full, and with same score line.
 - b) The match recommence with the same players on the pitch and substitutes available as when the match was abandoned.
 - c) No additional substitutes, players sent off during the match cannot be replaced
 - d) The kick off time, date and location shall be decided by the organizing committee.
17. Protests related to eligibility of players shall be submitted in writing to the sub-committee within 24 hours of the end of the match in question, otherwise they will be disregarded.
18. The decision of the organizing committee shall be final in case match results
19. No protests may be made about the referee's decisions regarding the facts connected with the play,
20. Participating members shall comply with FIFA equipment regulations in force.
21. The organizing committee will inform the teams of the colours that they shall wear for each match.
22. Throughout the competition, each player shall wear the number assigned to him on the final list.

23. The official and reserve team kits and all Goal keepers' kits including the goalkeeper shirts shall be taken to every match.
24. The footballs used shall be selected and shall conform with provisions of the laws of the game (FIFA approved or inspected)
25. The participating members shall provide the organizing committee with their states flags that shall flown in the stadium.
26. The host Association and the organizing committee shall fixed dates and venues of the matches and training sites
27. Matches shall be played in day light and teams shall be allowed warm up on the pitch before the match.
28. The referees (match officials) shall be appointed by the sub- committee and shall receive their official refereeing kit and equipment from the sub- committee.
29. If the referee or one of the assistant referees is prevented from carrying out the duties the fourth official shall replace.
30. All matches shall be played in accordance to the laws of the game in force at the time of competition and as laid or drawn by the international football board. (Article 7 laws of the Game)

TECHNICAL RULES:

31. The stakeholders and the organizing committee determines the maximum number of teams to take part in the competition

The number of teams taking part in the 2017 cities cup has been fixed at 12 to be apportioned among the major towns,

1. Juba
2. Wau
3. Yambio
4. Torit
5. Aweil
6. Bor
7. Pibor
8. Malakal
9. Bentiu
10. Kwajok
11. Abyei
12. Rumbek

32. The draw for the final competition will take place in Juba by the organizing committee.

33. The organizing committee shall form group for the 12 teams and its decision shall be final in the event of any withdrawals the organizing committee may change the groups.
34. Each town will cover the cost of transport from the capital city of the participating member to the city of the hosting association, in addition to cost of the domestic transportation and accommodation.
35. Each team participating in groups final matches shall arrive in the venue of their group match at least before the opening ceremony.
36. Each participating member shall ensure the following when selecting its representative team.
 - a) All players shall hold passport / national ID / birth certificate or assessment of age produced before 1 year
 - b) Each participating member must ensure that all players of its representative team were born on or after 1st January 1998
37. Protest regarding the eligibility of players shall be decided by the organizing committee.
38. The participating members shall be responsible for fielding only eligible players. If the team fails to do so, the team will be eliminated from the competition.
39. Each participating member shall submit a provisional list of 21 players (including a minimum of 2-3 Goalkeepers) to the organizing committee accompanied by copies of the birth or assessment of age certificates and the deadline by which the list shall be submitted by the organizing committee.

Any change request to the provisional list must be submitted not later than (10) ten days before the start of competitions and are subject to the approval of the organizing committee.
40. Only the 21 players on the final list will be permitted to take part in the competitions only the numbers 1-21 may be allocated to these players, with number 1 being reserved exclusively for one of the Goalkeepers. The numbers on the back of the shirts shall correspond with the numbers indicated on the final list.
41. A player in the final list may be replaced only in the event of serious injury up until 24 hours before the kickoff of his team's/first match such replacement must be approved in writing by the organizing committee.
42. Before the start of the competition, every player on the final list must prove his identity, age assessment (stating day, month and year of birth)

START LIST:

43. All the 21 players shall be named on the start list for each match (11 selected players and 10 substitutes) up to a maximum of 5 five of the substitutes may take the place of the selected players at any time during the match.
44. The numbers on the players' shirts must correspond to the numbers indicated on the start list. The start list shall be signed by the head coach.
45. Each team is responsible for arriving at the playing pitch before 90 minutes before the kickoff.
46. Each team is responsible for ensuring that the start list is completed properly and submitted on time and only the selected players start the match.
47. If any of the 11 players submitted on the start list are not able to begin the match due to injury or illness, they may be replaced by any eligible substitutes and the sub-committee should be informed.

SUBSTITUTES' BENCH:

48. Not more than 13 people (three officials and ten substitutes) shall be allowed to sit on the substitutes' bench. The names must be indicated on the official form.
49. Before the start of the competition, every team official or the official delegation list proves his/her legal valid identity.
50. The organizing committee shall issue each player and team officials with an official accreditation bearing a photograph each participating member will receive a maximum of 25 accreditations (21 players and 4 officials).
51. Only players in possession of valid accreditation may play in the competitions and shall always be available for inspection.
52. The participating members shall furnish to ensure that the accreditation data required by the organizing committee is submitted by the deadline stipulated by the organizing committee.

COMPETITION FORMAT:

- 53/1. The competition shall be played in a group stage
- 53/2. In the group stage, the last matches in each group shall be played simultaneously.
- 53/3. The 12 participating cities teams will be divided into three groups of four teams.

TROPHY AWARDS AND MEDALS:

- 61/1. A representative from Ministry of Culture, youth and Sports RSS and JICA will present the winner of the cities' cup with the trophy.
- 61/2. Prizes and certificates will be presented to teams ranked first, second, third and fourth
- 61/3. Medals will be presented to the top of three teams
- 61/4. One medal will be presented to each of the match officials who take charge of the play-off for third place and final

ENFORCEMENT:

These regulations were approved and came into force as from November 25th, 2016

Action plan for the second National Unity Day

Activities	Person in-charge	Deadline
Financial plan and availability for financing flights	Director General and Director of Sports	Torit: 2 nd week of Dec. Wau: 1 st week of Dec. Abyei: 10 th Dec. Kwajok: In Dec. Malakal: 2 nd week of Dec. Bor: 15 th Dec. Yambio: 2 nd week of Dec. Rumbek: 2 nd week of Dec. Pibor: 1 st week of Dec. Bentieu: 3 rd week of Dec. Aweil: 15 th Dec. Juba:
Methods of selection process and its schedule	Director General and Director of Sports	Starting from 2 nd week of Dec. and ending 20 th Dec.
Consultation with MoCYS on players of IDPs	Director of Sports and coaches	15 th Dec. to 20 th Dec.
Submission of name lists of players, their photos, and copies of ID	Director of Sports and coaches	15 th Dec. to 20 th Dec. <u>Final deadline: 20th Dec.</u>

**別添 4 : MoCYS 関係者との第 2 回 National Unity Day
評価会報告書 (2017 年 3 月)**

Report for the Evaluation of the Second National Unity Day for Peace-building through Sports

1. Date: March 6th to 7th, 2017
2. Venue: Fairway Hotel in Kampala, Uganda
3. Participants

Name	Title	Affiliation
Hon. Agum Rin Mabenye,	Undersecretary	Ministry of Culture, Youth and Sports (MoCYS)
Mr. Edward Settimo Yugu lang	Director General	MoCYS
Mr. Lemor William Joseph Lemor		MoCYS
Mr. John Bosco Vitale Bender		MoCYS
Mr. Akwac Odong Ajang Fadit		MoCYS
Ms. Nanaho Yamanaka	Representative	JICA South Sudan Office
Ms. Junko Uchida	Project formulation advisor	JICA South Sudan Office
Mr. Taban Geoffrey Koma Alfred	National staff	JICA South Sudan Office
Mr. Yasuo Ohno	JICA consultant	JIN Corporation
Ms. Misa Abiko	JICA consultant	JIN Corporation

4. Contents of discussion

(1) Arrangements of the State Coordinating Meeting

1) Timing and duration

- Timing of the State Coordinating Meeting was not appropriate since it was held in November due to unrest in July 2016.
- Appropriate timing would be September, so the participants could secure enough time to prepare for the National Unity Day.
- Three-day meeting is suitable.

2) Topics discussed

- Topics discussed were appropriate. Preparation of regulations for football and athletics with consensus of the participants was a very good exercise. The participants had only a few complaints about rules and regulations during the National Unity Day since they discussed and agreed in advance.
- Preparation of minutes signed by the representative from each town was also effective. However, dissemination of information on the meeting was not so effective; thus, some participants of the National Unity Day did not know exact rules and regulations of two sports events.
- It was necessary for the participants to know the agenda of the meeting in advance. Thus, MoCYS will send the agenda to participants through e-mail or their coordination offices in Juba.

3) Arrangement of transportation (Kampala = Juba = Home town)

- UNHAS arrangements were made smoothly but there were two troubles. One was the case that a participant did not bring an ID of his working organisation, so UNHAS refused to accept the passenger. Since the passengers quarrelled with UNHAS staff at

the airport, UNHAS has not allowed JICA to use their flights until now. UNHAS has requested an official apology from JICA and MoCYS.

- Another case was that MoCYS staff forgot to give an e-ticket to a passenger, so the passenger could not take his flight. To prevent this kind of mistake, JICA national staffs needs to check the distribution process of e-ticket.

4) Others

- Some participants got sick during the meeting. They used the insurance JICA provided to pay for their medical fee. However, due to the regulation of the insurance company, firstly, the participants have to pay the fee by themselves and later they need to request for reimbursement. However, some participants did not have enough money for advance payment. This issue needs to be discussed during the next National Unity Day arrangements.

(2) Selection processes of players

1) Target areas (from entire state or near state capital)

- Selection processes were relatively fair although the stakeholders in each town did not have enough time.
- Some towns, such as Rumbek and Torit, selected participants not only from their town areas but also from their former state territories. This kind of selection arrangement would be recommended for the next national Unity Day.
- Some towns made preliminary matches for athletics to select talented players.
- To cover whole areas of the nation, 32-state stakeholders come together to discuss how to select players for the National Unity Day.

2) Identification documents with photo

- All participants submitted their birth certificate or assessment of age, and their photos to prepare identification (ID) cards.
- Each player was given his/her ID card at the arrival of the airport. The ID cards were used when the participants entered the Rombur TTI and attended to play matches/games.

3) Age of players (especially for players who do not have birth certificate)

- Identification of age of players was a critical aspect to keep the rules and regulations set by the Organising Committee. Although official documents, such as birth certificate and assessment of age, were submitted by each town, MoCYS carefully investigated those papers. Since MoCYS found some doubtful cases, MoCYS consulted with representatives of towns and requested them to submit appropriate documents again.
- Compared to the last National Unity Day, control of players' age was successfully done.

4) Origin of players

- Some players were invited from Protection of Civilians (POC) sites in Juba. Particularly, there were very few players in Bentiu and Malakal due to unstable security conditions, so these two towns invited their players who have lived in Juba town and POC in Juba. This arrangement was consulted with MoCYS during the selection process.

5) Selection of players

- Athletic players were selected through matches in their areas or by referring records of players.
- Football players were selected by organising committees including head coaches in their areas.

- MoCYS recognised that relatives, sons and daughters of influential persons were not chosen.
- Some states which were not invited to the second National Unity Day were complaining about the selection process. Thus, MoCYS would like to improve the selection process for the next National Unity Day.
- One idea for improvement of selection process is to organise a dialogue forum with representatives from 32 states. All 32 states' stakeholders participate in the forum to discuss how to select talented players from former 10 states territories and 2 administrative areas. If they reach to consensus on the selection process, more transparency and fairness of the process would be materialised.

(3) Registration of players and control of participants to matches

1) Registration with photo IDs

- A registration process was smoothly done at the Rombur TTI. Only five participants were reconfirmed their ages.
- Registered players were not changed during the National Unity Day according to the rules and regulations.

2) Monitoring system for players who do not register

- ID cards were checked before starting the matches/games to confirm whether the participants were registered players or not.
- Confirmation of registered players before matches/games were done by referees but sometimes the referees did not check precisely. So MoCYS staffs reconfirmed the players by checking their ID cards' photos and their faces.

3) Rules and regulations of games/matches

- There was no big issue on the rules and regulations decided during the State Coordinating Meeting.
- Some of coaches who did not attend the State Coordinating Meeting did not know the rules and regulations very well. It seems that some participants of the State Coordinating Meeting did not disseminate the results of the meeting precisely.

4) Resolution of disputes

- During the second National Unity Day there was no big dispute related to judgements of matches and games. There was only one case for the athletic event but the issue was solved smoothly.
- Methods of dispute resolution were clearly stipulated in the minutes of the State Coordinating Meeting, so nobody argued about the methods.

5) Quality of referees

- Quality of football referees was very satisfactory since some of them have international licences.
- Quality of athletic referees needs to be improved. Many of them were amateurs. Their arrangements of athletic games were not done smoothly. The Athletic Federation requested more referees to organise the games appropriately. MoCYS is considering increasing number of referees from 20 persons to 30 persons. Also to avoid having many events in one day, MoCYS is planning to extend programme of the athletic event from 3 days to 4 days.

6) Facilities for games/matches

- The Buluk athletic field needs some repairs. Especially, the surface of the field is very rough (there are many small rocks), so some players got injured when they did not use the shoes. MoCYS would like to improve the surface by putting fine soil and compacting it OR by establishing a fabricated ground.
- Some football grounds' surfaces were levelled by graders but the surfaces were very soft. After levelling, watering by water tankers and compacting the surfaces by compactors are necessary to have appropriate surfaces for football games.
- Some maintenance is necessary for the ground of the Rombur TTI since players were exercising at the ground before the competitions.

7) Sports gears

- There were not enough stop watches for the athletic event. Also gears for shotput, javelin and discus were not owned by both National Athletic Federation and Juba Local Athletic Association. Thus, MoCYS borrowed the gears from other local athletic associations for the event.
- Gears related football matches were appropriate (e.g., balls, corner flags and nets). Some players got shoes from their clubs or supporters such as business persons.

8) Medical support

- Three participants got malaria at the Rombur TTI and were admitted to a hospital. The nurses assigned at the Rombur TTI were effective to take care of the patients.
- For play grounds, 15 staffs from the Red Cross were deployed but number was not enough. More staffs are needed for the next National Unity Day.

(4) Security

1) Security of play grounds

- For the second National Unity Day number of policemen for security control at play grounds increased. Forty two (42) policemen (10 policemen per play ground) were deployed. However, number of spectators was very large, so 42 policemen were not enough for appropriate security control.
- Some policemen were so old. They were changed to young ones due to a request from MoCYS. For the next National Unity Day about 80 policemen (20 policemen per play ground) need to be deployed.
- Forty (40) officers from the National Security also helped to control security at play grounds in corroboration with the policemen. They were so effective.

2) Security of accommodation (Rombur TTI)

- The National Security officers were assigned at the Rombur TTI to maintain security of the compound. They kept their arms in a room not to show arms to the participants.

3) Security of transport from accommodation to play grounds

- Forty (40) armed officers were assigned to escort the convoy of buses which were used to transport players between the Rombur TTI and play ground. Escorts were done safely and there was no issue related to transportation in Juba.
- Security officers from a private security company were also assigned at the Rombur TTI to control the main gate and check participants' IDs. This arrangement was also good to maintain the security of the Rombur TTI.

(5) Peace building workshop

- Five (5) facilitators made lectures on peace building through sports, HIV/AIDS, gender, fair-play, and peace building activities in a half-day session. Time was not enough for five lectures/activities, so the next workshop has to be one-day session. Some more professional resource persons for peace building (e.g., staff of Peace Centre of University of Juba) might be invited.
- Materials of the workshop have to be distributed in advance so that the participants can read and understand the contents before the workshop.
- Impact of the workshop was very remarkable. The players understood the meaning of fair-play and practiced it during the games/matches. In terms of football there was no red card throughout the National Unity Day.
- The team from Abyei got a fair-play award.

(6) Peace games

- Peace games were done successfully. Tug of war, sack race, and spoon race were conducted by peace building teams which were composed of mixed participants from different areas. The team members came together to practice for the peace games at the Rombur TTI and this contributed to the participants playing together and understanding each other.

(7) Public relations

- Some radio stations made live broadcasting of football games and SSTV broadcasted some news on the National Unity Day. An international TV network, such as Al Jazeera, also broadcasted the news.
- Major newspapers in South Sudan also prepared articles on the National Unity Day.
- Reporters from 12 towns played important roles for public relations. They reported to their towns the news of the National Unity Day.
- Fluflu, a promotion and information dissemination by cars with a sound system, disseminated messages and schedules of the National Unity Day effectively.
- Posters were prepared by the local consultant company but an arrangement of putting posters on walls and electric poles was not included in the contract. So MoCYS staffs should put posters in Juba town by themselves. This arrangement should be included in a contract next time.
- Banners were also prepared by MoCYS but this arrangement should also be included in a contract to reduce workload of MoCYS.

(8) Arrangements of logistical aspects

- 1) Accommodations (beds, toilets, shower rooms, prevention of insects (mosquitoes), play grounds, etc.)
 - There was no big issue on facilities of the accommodation. However, after utilisation of the facilities, some broken facilities such as doors, desks, and chairs, were identified. Careful inspections should be made by MoCYS and a local consultant before and after the utilisation of facilities for the next National Unity Day.
 - Many bed sheets were not found after the utilisation. Some participants might take them to their home. To prevent this situation MoCYS will assign a focal person by each town during the next National Unity Day and the focal persons will collect bed sheets to be given to participants from their home town. Also MoCYS will inform administrators from towns to check number of bed sheets when the participants check out from the Rombur TTI.
 - Some mattresses were not found, so MoCYS and JICA will check the situation.

- The mattresses JICA purchased might be used for regular activities of the Rombur TTI. Ways of utilisation of donated materials need to be discussed and agreed among Ministry of Education, MoCYS and JICA.
- More security lights are necessary for the night time (just replace light bulbs).
- MoCYS and a local consultant need to conduct joint facility assessments and make necessary repairs before starting the third Notational Unity Day.

2) Food and drinks

- Food amounts were not enough for first two days due to misunderstand of cooks but this issue was solved immediately after the instructions from MoCYS and the local consultant company.
- There was no issue on timing of serving. Meals were served appropriate timing.
- Quality of meals was good but cooks did not serve the meals according to the meal menu which the local consultant company submitted during the bidding. The company needed to cut some costs due to the request from JICA. Thus the company changed the menu but forgot to submit the new menu to MoCYS. This was explained by the consultant company when MoCYS staff checked the actual food served at the Rombur TTI. To avoid this situation, a menu should be attached to a contract for the next National Unity Day.

3) Transport from accommodations to play grounds

- More than 10 buses were used for transport. Transport arrangements were fairly good.
- When the participants moved to the airport, some participants had to wait their flights for a long time. So lunch and drink might be necessary for those who have to wait at airport until lunch time.

4) Local consultants

- Selection processes of local consultant companies were very transparent. MoCYS could join the selection processes handled by JICA, so that MoCYS could clearly understand the bidding processes.
- Good relationships were maintained among the local consultant company, MoCYS, and JICA throughout the second National Unity Day. Three stakeholders had better to hold more frequent meetings for the next National Unity Day.

5) Payment arrangements

- Payment arrangements were not done appropriately. JICA used the Equity bank in Juba for payment. However, due to sever economic situations, the Equity bank cannot complete money transfer to contractors' accounts even though JICA requested the arrangements appropriately. Deficit of US dollar cash in the bank has been a serious issue to complete the payments. This matter should be discussed seriously.

(9) Way forward

1) Ideas for the third National Unity Day

- To materialise more transparent selection process of players and more involvement of other states, MoCYS proposed 32-state forum in Juba before holding the State Coordinating Meeting. Participants of the forum could discuss how to select best players from previous 10-state territories and two administrative areas.
- MoCYS proposed that one more sports event for women need to be added by considering gender balance since football is only for men. Women's volleyball could be an appropriate event since many women play volleyball.

- MoCYS suggested that more cultural activities, such as traditional dances, need to be conducted to accelerate unity among public people. Nyakuron cultural centre is one of the appropriate places to show the activities to public people.
- MoCYS will organise a committee to secure some funds for the third National Unity Day and plans to hold the first meeting at the end of April.
- MoCYS will also try to involve other potential supporters such as USAID, UNDP, UNFPA, UNICEF and UNESCO.

2) Tentative schedule of the third National Unity Day and its preparation

- MoCYS proposed the following processes and schedule for the third National Unity Day.

Schedule	Activities
Early June 2017	• Pre-arrangement meeting in Kampala
Late July 2017	• 32-state forum in Juba
Aug. to early Sept. 2017	• State Coordinating meeting in Juba
Late Sept. 2017	• Completion of selection of local consultant companies
Late Jan. to early Feb. 2018	• The third National Unity Day

End

別添 5 : 第 1 回現地調査議事録

第 1 回現地調査 打合せ議事録

- (1) 文化・青年・スポーツ省（第 1 回打合せ）
- (2) 文化・青年・スポーツ省（第 2 回打合せ）
- (3) 南スーダンサッカー協会（第 1 回打合せ）
- (4) 南スーダンオリンピック委員会
- (5) UNESCO
- (6) 教育省
- (7) Catholic Relief Services (NGO)
- (8) 南スーダン陸上協会
- (9) 南スーダンテレビ
- (10) 南スーダンバスケットボール連盟
- (11) 南スーダンハンドボール協会
- (12) 文化・青年・スポーツ省（第 3 回打合せ）
- (13) 南スーダンサッカー協会（第 2 回打合せ）

(1) 文化・青年・スポーツ省（第 1 回打合せ）

日時	2015 年 8 月 3 日 14 時 15 分から 16 時 30 分まで
場所	Meeting room at Ministry of Culture, Youth and Sports (MoCYS)
参加者	<p>Mr. Edward Settimo Yugu, Director General, Directorate of Sports</p> <p>Ms. Joseline Samson Apaya, Director, Department of Sports Activities</p> <p>Mr. Lemw William, Director, Department of Youth, training and Empowerment</p> <p>JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員</p> <p>JICA アフリカ部 伊藤職員</p> <p>株式会社 JIN 大野</p>
<p>MoCYS での聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ関連ポリシーについては、現在素案を作成しているので、ソフトコピーを共有する。コメントがあるようなら是非、インプットしてほしい。中期戦略計画（5 か年）は以前作成したものの、2013 年の内乱等の影響により、実施には至っていない。現在は 3 年バージョンの中期計画に修正中で、以前の 5 か年計画はソフトコピーが共有可能。予算に関しては、財務省作成の予算書から計画値は確認可能だが、実績値は良く分からない。南スーダンの省庁全体の中では MoCYS 優先順位は低く、全省庁中、最下位に位置する。 ● 2011 年の独立後、すぐに緊縮財政政策が敷かれたため、十分な活動が出来ていない。予算支出は、ほぼ人件費のみとなっている。各州のスポーツ関係省庁との全体会合も、これまで 1 回しか実施できておらず、連携体制は弱い。ただし、全州にユース・スポーツ関連省庁が設置されている。 ● CPA から独立までの期間は、CPA Celebration ということで、全国規模の運動大会を何回か実施した。2006 年・2007 年には Juba で、2008 年には Malakal、2009 年は Wau、2010 年は Yambio で総合運動大会を実施した。実施競技は、サッカー、バレーボール、ハンドボール、バスケットボール、陸上の 5 種で、男女ともに各州からチームが参加した（チームが組めないところは参加を見合わせ）。財源は Independent Celebration Budget という大統領直轄のものが用意 	

され、High Technical Committee が財源管理を行った。競技に必要な簡易なインフラの建設は、この Committee が直轄で入札などを行い、MoCYS はその進捗をモニタリングした。大会開催に必要な細かなアレンジに必要なお金は、Committee から MoCYS に配賦され、MoCYS から開催州の担当省庁に送金した。

- 2010 年に実施されたヤンビオの大会の詳細は以下の通り。
 - ✓ 全州より総計 2,000 人程度の参加者があった。予算は 3 百万 South Sudan Pound (SSP) で、競技場のフェンスや VIP 用施設の建設により費用が高くなったが、建設費が無ければ百万 SSP 程度のコストで賄える。
 - ✓ 2010 年 1 月上旬から約 10 日間の日程で行った。この時期を選んだのは、学校が休みの時期であり、学校施設を宿泊施設として利用できるためである。また乾期のため、陸路での参加が可能となることから、この時期が適切であった。
 - ✓ 大会の準備は MoCYS と州の担当省庁が中心となって行った。まず 9 月に、各州に招待状を送付し、各競技に何名の選手の参加が必要かを連絡した。参加人数は国際的な取り決め（例えばバスケットであれば、選手 12 名、コーチなどの管理者 3 名）に従って決定した。参加者の年齢は基本的には 17 歳以上としたが、実際はそれ以下の年齢の参加者もいた。審判も各州から招へいた。
 - ✓ 開催準備にあたっては、受け入れ州の担当省庁の中で、Catering（食事）、Transport、Accommodation、などの各委員会を設置し、その準備にあたった。移動手段は主に借り上げバスを使い、2010 年大会では Malakal の参加者にのみ、航空機をチャーターした。宿泊施設は、休み中の学校を利用した。各州から開催地に移動する際に利用した長距離移動用のバスは、宿泊施設から競技場までの移動にも利用された。
 - ✓ ユニフォームについては MoCYS には予算がなかったため、各州の予算で対応した。
 - ✓ 大会の開会式と閉会式では、カーニバルショーが実施され、その練習講師としてヤンビオ周辺の 60 人の先生方が従事した。子供たちの訓練には朝食が提供され、約 1 か月間、練習が続いた。
 - ✓ 大会の実施にあたっては、当時は Association がまだ創設されていない競技がほとんどであったため、中央・州の関係省庁が対応したが、今後もし同様の競技会を行う場合は、関連 Association の支援が期待できる。
- 2010 年以後はこのような全国規模の大会は実施されていない。現在は、Association が個別に活動を行っている。サッカー Association は活発で、2011 年にはウガンダのプロチームを招へいし、南スーダンのナショナルチームとの対戦を実現した。
- Association は中央のみならず、各州にも支部があり、中央で決定された方針を州レベルで実行するトップダウンの形となっている。Association は独立した NPO であり、政府のコントロール下にはない。政府は予算に余裕があれば、Association に補助金を拠出している。Association は自身の所掌する一競技に集中するため、スポーツ全体の方向性については、MoCYS や州の省庁が整理していく必要がある。
- 大会に必要な競技施設の所有権は州のものとなっており、中央政府は自前の施設を持っていない。各州は使用料を取るなどして、施設の維持管理費を捻出している。

- UNESCO や UNICEF もスポーツを通じた平和構築に貢献している。UNICEF は NGO の Right to Play を通じて、スポーツ振興による平和構築を支援してきた。しかしながら、予算の制約から、継続的には実施できていない。
- オリンピックに参加するための選手強化戦略はまだ策定されていない。South Sudan National Olympic Committee (NOC) が International Olympic Committee (IOC) の正式メンバーになったため、NOC と協力して策定していきたい。オリンピック参加に有望な競技は、陸上とバスケットボールと考えている。陸上は、最低でも 2 名の参加枠があり、絶対に参加が可能であることに加え、南スーダン内にも有望な選手がいて、IOC の支援によりケニアでトレーニングを受けている。この 9 月に実施される All African Game で優勝すれば、リオオリンピックの参加資格が与えられる。バスケットボールも有望だと考えていて、NBA のスター選手により、ジュバ大学の構内にバスケットコートが建設された。
- 2020 年に開催される東京オリンピックに向けての戦略については、NOC と協力して策定していく予定。NOC の委員長には Army General が選ばれた。2017 年に改選予定。
- 今後、NOC は IOC からの支援が受けられる予定で、NOC の事務所の建設や短期的なコーチ・事務局運営にかかる専門家の派遣などが想定されている。ただし、IOC は長期的（例えば 2・3 年）のコーチ派遣は実施しておらず、JICA には長期支援を期待している。

備考：

収集資料：特になし

(2) 文化・青年・スポーツ省（第 2 回打合せ）

日時	2015 年 8 月 4 日 10 時 10 分から 12 時 00 分まで
場所	Meeting room at Ministry of Culture, Youth and Sports (MoCYS)
参加者	Mr. Edward Settimo Yugu, Director General, Directorate of Sports Mr. Pinyjwok Akol Ajawin, Director General, Directorate of Youth Ms. Joseline Samson Apaya, Director, Department of Sports Activities Mr. Mario Velvur Gunola, Director, Department of Youth Mr. Lemw William, Director, Department of Youth, training and Empowerment Mr. Felix Lako Gadum, Deputy Director, Sports Mr. John Aban Nyijok, Senior Inspector Mr. Gordon Martin Sebit, Senior Inspector Mr. Tako Peter Bngele, Inspector Mr. Eluzei Manasseh Rume, Acting Director Mr. Saliles Bor, JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員、田口職員 JICA アフリカ部 伊藤職員 大阪大学 岡田准教授

MoCYS での聞き取り内容は以下の通り

- 現在、MoCYS では、ポリシーを作成中。以前作成した中期計画もある（ソフトコピーを取得済み）。
- スポーツには競技スポーツ（competitive sports）とレクリエーションスポーツ（recreation sports）がある。後者はレジャーのような形で実施され、ルールを設定しない形でのバレーなどが行われることがある。このようなレクリエーションスポーツは、平和構築や社会的な一体性を持たせることに大きな効果がある。レクリエーションスポーツを促進するためには、それに特化したコーチの育成が必要である（レクリエーションの側面をきちんと伝えることができ、競技ではなく、みんなで楽しむ要素を強調するという意味で訓練が必要）。ターゲットは若年層が中心になる。
- 南スーダンには Youth Training Centre が 3 か所（Juba、Wau、Malakal）あり、そのうち Malakal のものは今回の内乱で活用されていないが、他の 2 か所は修繕され、活用されている。そこでは、若い人たちが夕方にスポーツなどを行っている。
- レクリエーションスポーツは、南スーダンではあまり行われていない。小学校・高校では体育のカリキュラムはない。体育を教えることができる教師もいない。大学でさえ体育の授業は行われていない。
- 南スーダンで男性に人気のあるスポーツはサッカーで、女性の場合はバスケットボールとサッカーである。働いている人々の間では、エアロビックなども行われている。ただし、施設不足は深刻で、公共施設でスポーツを行える場所がほとんどない。
- バスケットボールはポテンシャルがあるように思う。特に、Kuwajok（Warrap 州）は長身の人が多く、バスケットに向いている。
- また大衆に人気があるスポーツに伝統的なレスリングがある。サッカーよりも人気が高い。4 州（EES、CES、Jonglei、Lakes）の選手が集まって大会を行ったことがあったが、その際のチケットは高く売れ、多くの観戦者がいたため、会場のセキュリティー確保が大変だった。異なる部族がレスリングに参加し、長期間、寝食を共にした選手たちの友好関係は深まった。
- 小さな子供たちが、レジャーとしてローカルホッケー（ホッケーのようなもの）を楽しんでいるところもある。
- ボクシングは軍や警察で実践されている。柔道やテコンドーも行われている。テコンドー協会は、国際連盟に加盟している。
- MoCYS が戦略的なスポーツとして位置付けているのが、サッカー、バレーボール、ハンドボール、バスケットボール、卓球（言及はされなかったが他の情報から陸上）である。ただ、施設や用具が不足していて、スポーツ普及の課題となっている。特に学校での普及が課題である。
- 施設整備をする際の土地確保の方法は、購入ではなく、コミュニティからの貸与となる。南スーダンでは、土地はコミュニティに属しているため、このようなアレンジになる。内戦中、ジュバではスポーツに活用できるような空き地がたくさんあったが、今は宅地になっ

てしまい、空き地がほとんどなくなったしまった。

- 以前（独立以前の内戦時）は **Unity Day** を祝うため、運動大会を行っていた。
- MoCYS はスポーツ全般を支援しており、学校スポーツだけでなく、クラブチームの活動も支援対象となっている。教育省（MoE）が学校でスポーツを教育的視点から普及させるのに対し、MoCYS はスポーツの技術面（コーチやレフリーの育成）を支援している。学校でのスポーツについては、**School Sports Association** が結成されている。
- クラブチームのメンバーはプロではなく、コーチや審判もボランティアベースとなっている。給与が支払われているのは、サッカーのナショナルチームのコーチのみである。サッカーのナショナルチームコーチは韓国人であるが、給与額は少ない。ハンドボール、バスケットボール、陸上にもナショナルチームのコーチがいる。

備考：

収集資料：

South Sudan Sports Policy

Strategic Plan 2013-18, Ministry of Culture, Youth and Sports

(3) 南スーダンサッカー協会（第1回打合せ）

日時	2015年8月4日 14時50分から16時00分まで
場所	South Sudan Football Association (SSFA) Office
参加者	Mr. Chabur G. Alei, President, SSFA 大阪大学 岡田准教授 JICA アフリカ部 伊藤職員 JICA 南スーダン事務所 山中職員 株式会社 JIN 大野
SSFA での聞き取り内容は以下の通り	
<ul style="list-style-type: none">● 南スーダンは、2012年の5月に、FIFAの209番目のメンバーになった。● 現在は、32のローカルサッカー協会があり、都市部だけでなく、郡の方でもサッカーは行われている。1つのローカルサッカー協会当たり、約30のクラブチームが所属している。全国で計約800のクラブチームがある。異なる部族の選手がプレーしていて、平和構築に貢献している。● South Sudan Cup という、全クラブチームが参加できる選手権がある。それ以外に、16クラブチームが参加する South Sudan League があり、16チームはローカルリーグの優勝チームから構成されている。● 現在（調査当日）、MTN Cup（携帯電話会社主催の選手権）が実施されており、8チームが参加している。この参加チームは予選を戦って選ばれたのではなく、South Sudan League の16チームの中から、携帯電話のSMSを使った人投票を実施し（1投票すると、1 South Sudan Pond (SSP) が MTN に寄付される仕組み）、5万票の投票があった（予想は200万票だったので、大	

幅に下回ったが、南スーダンで5万票=5万 SSP 集めたのは大きな成果)。Malakal からもチームが招集され、Malakal の UNMISS コンパウンドにいる人たちも選手として参加している。Malakal の参加者には、ジュバまで飛行機で来てもらった。

- サッカーを普及していく際の課題は3つある。まずは施設の不足で、スタジアム建設などに必要な資金をアフリカサッカー連盟 (CAF) に申請している。2つ目は、クラブチームの用具不足で、サッカーゴール、ボール、スパイク、ジャージなどが不足している。最後は、リーグやカップを行う際にスポンサーがつきにくいことで、携帯電話会社 (Vivacell、Zain、Telcom、Gemtell など) に打診している。South Sudan League の試合実施の際には、スポンサーの協賛金の一部を審判への謝金として払っている。
- FIFA も支援してくれているが、事務所の賃貸料、SSFA スタッフの給与、その他少額の運営費などの支給とコーチのトレーニングなどである。FIFA が専門家を派遣し、35名のコーチに対して、2週間の研修を実施した実績がある。約800人のコーチがボランティアベースで選手の指導にあたっている。審判の技能向上や事務局運営の能力強化に関係した訓練も必要。
- ナショナルチームの育成・指導については、Ministry of Culture, Youth Sports (MoCYS) に責任がある。ナショナルチームのコーチは韓国人で、英語でのコミュニケーションが難しい。MoCYS は、コーチに月給 USD 4,000 を支払っており、もうすぐ契約が切れる予定である。
- 現在のコーチはユースのコーチ経験のみで、トップレベルの選手の指導経験が少ないため、出来れば違うコーチを招きたいと考えているが、予算が十分に確保できていない。現在、大手企業 (電力・投資・石油関連) とコンタクトを取り、CSR の一環でコーチを備上するための資金援助をお願いしており、Minutes of Understanding (MOU) を取り交わすための準備に入っている。既に新コーチの募集を開始しており、6つの履歴書が集まっている (その一つはセリエ A で元有名選手だったバティストウータ選手のものだとのこと：真偽は不明)。コーチを選ぶ際には、選手としての実績よりは、コーチとしての実績や経験を重視する。良い選手が、良いコーチになれるとは限らない。コーチには給与以外に、住居と車を提供する必要がある。

時間に限りがあり、再度聞き取り調査の機会を設定した。

備考：

収集資料：特になし

(4) 南スーダンオリンピック委員会

日時	2015年8月4日 16時30分から17時まで
場所	National Olympic Committee (NOC) Meeting room at Ministry of Culture, Youth and Sports (MoCYS)
参加者	Mr. Amin Akasha Mohammed Hon. Robert Ladu Lwoki, Vice President Mr. Andrea Abdalla Dimbiti, Vice President Mr. Shengiti Both Diu

	<p>Mr. Eunice Philip Jada, Executive officer Mr. Paul Puk Kun, Member Mr. Marjon Gismalla, Member Mr. Gabriel Geng Geng, Member Ms. Tereza Athian Atilro, Member Mr. Edward Settimo Yugu, Director General, Directorate of Sports Mr. Chau Deal Dut JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員 大阪大学 岡田准教授 JICA アフリカ部 伊藤職員 株式会社 JIN 大野</p>
<p>NOC に対する聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● クアラルンプールで開かれたオリンピックの総会で、南スーダンが正式に International Olympic Committee のメンバーになった。 ● 今後、マスタープランを作成し、2020 年に向けての活動を整理する。ポリシーやガイドライン、戦略計画も策定する予定である。 ● 現在の最も大きな課題は、スポーツインフラが整っていないことである。また関係者の能力強化の必要性が高い。IOC が提供する Solidarity Fund などを活用していきたい。 <p>あまり時間が十分に取れなかったため、夕食会を設定し、追加の聞き取りを実施した。その際の情報は以下の通り。</p> <p>【夕食会での情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● NOC の構成は、President、Vice President 1・2、Secretary General、会計係、4 人の委員の計 9 人。2015 年 6 月 9 日に結成したため、まだ全く予算が付いていない。IOC に正式メンバーとして承認されたので、IOC からの支援金が入ることを期待している。また、正式メンバーになったことを大統領に報告する予定で、その際に、何らかの予算面での政府のコミットメントが明確になると予想している。Association of National Olympic Committee of Africa (ANOCA) からの支援は明確ではない。 ● 今後の計画を集約したマスタープランは、今年中に作成予定である。 ● オリンピック出場に向けて、次の 7 つのスポーツ協会との連携調整に重点を置く。①サッカー、②バスケットボール、③ハンドボール、④柔道、⑤テコンドー、⑥卓球、⑦陸上。 ● 民間セクターからの支援は今のところない。 ● 現在 NOC には 2 名のボランティアがいて、事務局機能を支援している。ボランティアには交通費と出張旅費が支払われており、必要な資金は、今のところ NOC 委員のポケットマネーを使っている。毎週木曜日に、週例会議を実施している。 	

備考：
収集資料：特になし

(5) UNESCO

日時	2015年8月5日 10時から11時20分まで
場所	UNESCO Office
参加者	<p>Dr. Awol Endris, Education Programme Specialist</p> <p>Ms. Lydia Gachungi, Communication and Information Specialist</p> <p>Mr. Salwen Sanya Yoasa, National Programme Officer (Education)</p> <p>Ms. Castarina Lado, National Programme Officer (HIV/Education)</p> <p>Mr. David Justin Dagu, Program Manager, Whitaker Peace & Development Initiative (WPDI)</p> <p>Mr. Moro Alex Peter, Programme Sport Facilitator, WPDI</p> <p>JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員</p> <p>大阪大学 岡田准教授</p> <p>JICA アフリカ部 伊藤職員</p> <p>株式会社 JIN 大野</p>
<p>UNESCO での聞き取り内容は以下の通り</p> <p>【South Sudan International Day of Sport for Development and Peace について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2014年4月6日には、South Sudan International Day of Sport for Development and Peace が実施され、そこではスポーツ大会や平和に関するスピーチなどが行われた。毎年、継続的に実施する予定であったが、2015年度は予算がなく、今年は実施できていない。 South Sudan International Day of Sport for Development and Peace の実施に当たっては、約3週間前の3月中旬から準備を開始し、MoCYS と協議しながら内容を詰めていった。ただ、MoCYS には十分なキャパシティがなく（財務的にも弱いし、アイデアも出てこない）、ロジのアレンジもほとんど全て UNESCO 側で行った。MoCYS、UN 関係機関、civil society がワーキンググループを設置して実施準備を行った。 イベントでは、女子 (girls) バスケット、子供サッカー、シニアバスケット、ジュバ孤児サッカーの4つスポーツが実施された。競技の選定に当たっては、利用可能な競技施設というポイントを重視した。また、イベント時には UNESCO から T シャツやバナーを提供した。 <p>【Whitaker Peace & Development Initiative について】</p> <ul style="list-style-type: none"> UNESCO の支援の一つに、Whitaker Peace & Development Initiative (WPDI) があり、米国映画俳優のフォレスト・ウィテカー氏からの支援によって、諸々の活動が実施されている。 南スーダンでは、WPDI を通じて、Peace through Sports の活動を行っている。2013年以前は Jonglei 州で活動を実施していたが、内乱による治安悪化により、現在は Eastern Equatoria 州 	

Nimule と Juba の UN House が対象サイトとなっている。このプログラムでは、2つの UNMISS の POC (Protection of Civilians) サイトにいる国内避難民 (IDPs) を対象に実施している。POC サイトにいる IDPs に対し、避難 CAMP 外の人達とサッカーをし、交流をする機会を提供している。また Nimule のケースは、女子サッカーを支援している。

- ジュバの UN House では、バスケットコート (マルチプレイグラウンド) を建設した。総額 USD42,000 の建設コストがかかった。
- Peace through Sports の対象者には、平和構築のためのトレーニングが実施された。また年齢別にサッカーチームを編成し、競技を行った。19歳から35歳までは20チーム、14歳から18歳までは15チーム、8歳から13歳までは10チーム、計45チームが編成された。毎週火曜日と木曜日に試合を行った。
- 1,328名の選手が登録し、104名の若者が平和構築などの研修を受けた。また、コーチや審判に対しても研修を実施した。

【学校体育について】

- スポーツに関しては、学校での体育教育も重要となっている。南スーダンでは体育は学校教育のカリキュラムの中に入っていない。現在、Ministry of Education (MoE) と UNICEF が協力して、小学校、高校のカリキュラムの見直しを行っており、2017年には体育のカリキュラムとシラバスが作成される予定である。また、MoE では平和構築委員会を設置し、平和教育、ジェンダーなどを教える、life skill & peace building のカリキュラムを作成している。Life skill & peace building では、HIV や人との関係性、職業訓練、精神世界的なことを教えることで、現在の暴力的な考え方を変化させる狙いがある。

【その他】

- Warrap 州の Community Based Organisation (CBO) がローカルオリンピックを実施し、部族間の衝突を緩和したケースがある。その際は World Food Programme (WFP) が食事を支援した。
- UNICEF と UNESCO が共同し、障害を持つ子供に関する教師のプレサービス訓練を実施した。その際は、英国国際開発庁がプールファンドを立ち上げ、財政的にプロジェクト実施を支援した。

備考：

収集資料：

- South Sudan International Day of Sport for Development and Peace, 2014 Concept Note
- South Sudan International Day of Sport for Development and Peace, Programme
- Activities proposed by UNESCO for the November JICA Event on Sport and Peace
- Presentation material, Peace through Sports, Whitaker Peace & Development Initiative

(6) 教育省

日時	2015年8月5日 11時40分から13時まで
場所	Ministry of Education (MoE)
参加者	Mr. Sokivi Charles Thomas, Deputy Director of Co-curricular Mr. Wudu David Moses, Senior Inspector of Co-curricular Mr. Daffalla Deng Tiel Deng Dr. Thelma K. Majela, Manager, Life Skills and Peace Building, UNICEF-Education Mr. Musiwguzi Patrick, Sports for Hope (NGO) JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員 大阪大学 岡田准教授 JICA アフリカ部 伊藤職員 株式会社 JIN 大野
<p>MoE での聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none">• Peace Building & Life Skill は生活の質の向上に関連した活動で、その中に体育も入ってくる。Peace Building & Life Skill は Co-curricular (正規のカリキュラムと並行して行われる教育活動) であり、その中には体育、音楽、ダンス、ディベート、環境教育、クラブ活動などがある。• 現在の教育現場では、体育教育を行っているところもあれば、そうでないところもある。対応が一貫していない。新カリキュラムでは、すべての学校が体育教育を実施する予定となっている。• 現在は、小学校・高校の全国統一カリキュラムが策定されており、MoE と Ministry of Culture, Youth and Sports (MoCYS) が協働して、Yei や Kajokeji で平和のアセスメントを行った。• カリキュラム策定には UNICEF が全面的に協力しており、curricular と co-curricular の二つのコンセプト整理を行っている。この作業には、コンサルタントが備上されており、2015年9月にコンセプトが最終化され、2016年から2017年にかけて全体カリキュラムが作成される予定。また、co-curricular は選択制になる予定。新カリキュラム策定後は、全ての教員に対して、新カリキュラムの理解を深めるための訓練を実施する必要がある。• 体育は子供たちの学習プロセスには重要で、特に平和構築には重要な要素となっている。小学校・高校・over school (学校教育が終了していない割と年をとった学生が通う学校か?) や Youth Centre に Peace Building & Life Skill のガイドライン4万部を配布した。• MoE が支援して、National Inter-School Competition (インターハイ) を実施してきた。2015/16年度は8月～9月に実施を予定していたが、予算不足のため、今年開催することは難しそうである。2014年も Yambio で行う予定であったが、予算不足と同時に、道路や治安状況の悪化から、陸路で行くことが難しくなったため、中止となった。2013年には Wau で実施されている。• アフリカ地域の大会にも参加してきた。East African Secondary School Sports Association に加入しており、サッカーやバスケットボール、バレーボール、ハンドボール、陸上について毎年チームを送りだしてきた。ホスト国は輪番制となっており、2012年は南スーダンがホスト国になる予定であったが、5,000人分の宿泊施設を必要とされることや、多くの競技場が必要に	

なること、また、ラグビーやバドミントン、水泳、ホッケー、テニスに関する競技施設の整備も必要となることから、ホストを断念した。

- 東アフリカ地域の大会では、ハンドボールやバスケットボールなどが比較的良い成績を残している。ハンドボール男子は 2013 年ウガンダで行われた大会でケニア、ウガンダに次ぐ 3 位となった。
- スポーツを通じた平和構築を促進するために、UNICEF が Sports for Hope という NGO に委託し、デモンストレーション的にスポーツを通じた平和構築に関連する活動を行っている。対象は若年の子供たちで、ワークショップなどで、サッカーを通じて平和が重要であることのメッセージを伝えている。また、国内避難民 (IDPs) を対象にサッカーを実施し、平和構築の鍵となる考え方を試合前後に議論したり、負けた時の悔しさをどのように相手を称える方向に変えていくのかなど、実際の試合の実施を通じてマインドセットの変化を促進している。
- 大きな課題は施設不足である。
- UNICEF が支援している NGO には Right to Play もある。ただし、今は活動を行っていない。

備考：

収集資料：特になし

(7) Catholic Relief Services (CRS)

日時	2015 年 8 月 5 日 13 時 50 分から 14 時 50 分まで
場所	Catholic Relief Services (CRS)
参加者	Mr. John Ashworth, Sudan/South Sudan Advisor JICA 南スーダン事務所 古川所長 JICA アフリカ部 伊藤職員 株式会社 JIN 大野
<p>Mr. John Ashworth からの聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Ashworth 氏は、32 年間、南スーダンと関わってきており、この 15 年間は Peace & Reconciliation 関連の取り組みを行っている。その知見から判断すると、スポーツを通じた取り組みは良いアプローチと感じている。 ● Ashworth 氏自身は、スポーツを通じた平和構築の取り組みを行ってはいないため、以下の 2 つのコンタクト先の推薦があった。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ PAX という団体で、スポーツを通じた平和構築をウガンダ、ケニア、南スーダン国境 (南スーダン南東部) で生活する遊牧民を対象に行った経験がある。牛の強奪が頻発していたこの地域の若者に、何か他に熱中できるものを提供するというので、サッカーを導入した。若い女性は、男性が牛の強奪に向かう際に、歌を歌って送り出す習慣があったが、これをサッカーの応援歌に変えて、若者の意識改革 (暴力から平和) を行った。 	

✓ Mr. Acuil Banggol という方で、Warrap 州の Twic 郡で Twic Olympic を実施してきた経験を持つ。この活動を通じて、民族融和を図ってきた。Twic は南スーダンの北部に位置するため、上記の南部の経験と違ったモデルになり得る。

- 以前は土地問題や牛の強奪については、ある程度のレベルに達すると、チーフが介入し解決するという方法が機能していた。しかしながら、現在ではその伝統的な調停機能がうまく働いていない。このため、報復のサイクルが止まらず、多くの死傷者を出す結果となっている。
- もしスポーツを通じた平和構築を実施するのであれば、都市部（タウン）で行うのではなく、地方で実施することが重要。地方部での暴力の方が、酷い状況である。Cattle camp にいる遊牧民を対象とした方が良い。ただ、多くの NGO が試みたものの、失敗している。ローカルの人材を使って、しっかり時間をかけて信頼関係を構築していくことが重要。他民族が守られている Malakal や Bentiu の POC サイトで活動することも良いと思う（Juba は民族数が少ない）。
- 教会系のネットワークに関しては、South Sudan Council of Churches という組織があり、そこには大きな教会は全て所属している（田舎の小さな教会は、この組織に加盟していない場合もある）。South Sudan Council of Churches のなかには 7 つの大きな denomination（宗派）がある（例えばカソリックやアングリカンなど）。
- 地域住民の教会への信頼は厚く、また、異教徒となるモスLEMからの信頼も厚い。イスラム教関係者と協働して、平和活動に取り組むことは問題ない。
- South Sudan Council of Churches は 3 つの活動、①アドボカシー（国内外、国外は Kenya, Uganda での取り組みや、IGAD の支援など）、②Neutral Forum（プライベートな会議を設定し、中立的な立場で議論する。軍の司令官を呼んだりするコネクションも持っている。2002 年には南スーダンの全ての軍司令官をカンパラに集結させ、議論した経験もある。Civil Society に対してもコネクションがある。）、③Reconciliation（マルチ世代に対するトラウマヒーリング）を行っている。
- 現地で平和構築活動を行う場合は、長い時間が必要になる。リニアなプロセスでは進まず、成功や失敗を繰り返し、少しずつ進んでいくことになる。パヤムレベルまで入り込んでいって、しっかりその住民と話し、人々を mobilise していく必要がある。プロセス重視の活動になる。
- South Sudan Council of Churches は、政府機関と連携した経験があまりない。教会は独立した形で動いている。教会が信頼されているのは、治安が悪くなって他の援助関係者が国外に避難している際にも、この国に残り、活動を続けてきたからである。現場との結びつきが強いことも信頼されている要因である。特に郡やパヤムレベルでの Inter-church Committee は South Sudan Council of Churches がカバーしていないローカルの教会とのネットワークも強い。このネットワークを活用し、公平性の高いスポーツ選手の選定を支援することなどで、JICA 活動に協力することは可能である。その際は、必要経費を提供してくれればよく、特にそれ以外のフィーなどは求めない。
- 南スーダンには、強い自国の象徴になるものがない。国旗や国歌、John Galang という象徴はあるものの、メモリアルデーや独立記念日、SPLA デイは、本来の前向きな意味が、この状況で逆のイメージに捉えられるようになってきている。何かシンボルになるものが必要である。

そのためには、International day for youth and peace などの機会を捉え、スポーツ大会をするのは良いのではないかと。ただ、文化的なイベントについては、十分注意を払う必要がある。2009年にマラカルで競技会を行った際には、シルク、ヌエル、ディンカ族が参加したが、どの民族が先頭で競技場に入るかで揉め事になり、銃撃戦が始まった例もある。またビールの銘柄で White Bull が販売された際には、エクアトリア地域の人のの中では、遊牧民系の他民族の象徴をビールの銘柄にされたこと、不快に感じた人もいたようである。

- 何度も繰り返すが、時間をじっくりかけて、プロセス重視で活動を行うことが重要である。大きなイベントを行う場合には、十分なセキュリティー対策も必要となる。
- スポーツを通じた平和構築の具体例としては、エチオピア国境（Kapoeta の近く）の地域で実践された Peace Village が挙げられる。遊牧を営む争い事が絶えない3~4種族を融和させるために、スポーツイベントを開催して、衝突を緩和した。
- Cattle camp にアプローチするのであれば、まずは十分に信頼関係を構築して、そこに住む人々について深く理解する必要がある。対象地域出身のローカルスタッフを雇用し、じっくり進めていくこと、また、Cattle camp の若者たち（多くは文盲）にトレーニングを実施し、疑念や攻撃的な態度を徐々に無くしていくようにしていくことが重要である。
- 活動を実施する場合には、草の根レベル（最低でも郡レベル）に入ることが重要で、その際はローカル NGO の活用が有効である。中央省庁レベルでやるのは簡単であるものの、そこだけでは本当の成果は得られにくい。このため、トップ・草の根の両方からのアプローチが必要である。パイロットサイトを選定してやるのも一案。またニーズの高い POC サイトを対象に、活動を実施することも良いのではないかと。
- 今、実際に州や郡レベルで行われているスポーツ活動を調べて、その活動を強化する方向が良い。全く新しいものを導入するよりは、既存のイベントの足りない部分を補うことが効果的だと感じている。

備考：

収集資料：特になし

(8) 南スーダン陸上協会

日時	2015年8月6日 9時30分から10時50分まで
場所	南スーダン陸上協会（South Sudan Athletic Association） at Buluk Athletic field
参加者	Mr. Kamal John Akol, Secretary General 及びその他メンバー JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員 大阪大学 岡田准教授 JICA アフリカ部 伊藤職員 株式会社 JIN 大野
陸上協会からの聞き取り内容は以下の通り	

- Buluk Athletic field は、1971年に創設された陸上競技場で、1年間を通して利用されている。
- 陸上競技に関しては、現在、全州から選ばれた男女各19名のナショナルメンバーがいる。強化合宿のため7人がナイロビに、5人がスーダンに行っており、他のものは国内で練習している。
- 陸上協会の執行部は選挙によって選ばれている。10州の代表により構成される General Assembly とその中から選出された12名の Director で構成される Board of Directors がある。また事務局として6名のスタッフが雇用されている。協会長は SPLA のナンバー2 (Malek Reuben Riak RENGU) で、副協会長は警察関係者。
- 南スーダン陸上協会は、International Association of Athletic Federation のメンバーであり、協会の銀行口座も保有している。
- 今年の独立記念日にはマラソン大会を開催し、日本大使にも参加いただいた。全部で約700人の参加者があった。
- 陸上競技を通じた平和構築に関する取り組みは行っていない。
- 課題としては、競技用の器具やユニフォーム、正式な資格を持ったコーチや審判の育成、選手の強化訓練実施のための財源確保、競技場の整備などが挙げられる。特に競技場については、周りにフェンスも無く、人やバイクが入り放題で、トラックのコンディションも悪い（実際に石ころだらけで、ただの空き地のような感じであった）。競技場の周りにフェンスを設置し、人やバイクが簡単に中に入れないようにすることや、競技上の横に事務所施設・用具倉庫の建設が望まれている。また、たくさん選手がいるものの、コーチの数が不足している。そのためコーチの育成が急務となっている。
- 選手の選抜については、公平に行われている。まず州レベルの競技大会を開き（参加可能な郡の選手が参加）、各州より男女10人ずつが選抜される。その際には各州の陸上協会のメンバーが立ち会うとともに、必要に応じて南スーダン陸上協会の技術委員会のメンバーも地方出張し、選定プロセスに立ち会う。このことで、選定プロセスの透明性を担保している。
- 各州の協会には、President、Vice President、Secretary General、Treasurer が配置されている。しかしながら、全員がボランティアベースで、協会関係者に支払う謝金などの予算は確保されておらず、全てが自己負担となっている。コーチや審判も同様である。
- 去年は Eastern Equatoria 州で大会があったが、中央の協会関係者が出向いた際に確保できた予算は交通費のみで、宿泊費や食事代は全て自己負担であった。
- 50人の公認コーチと50人の公認審判がいる（各州5名ずつ）。これらは旧スーダン時代に公認された人達で、独立後は新たに公認コーチ・審判になった人はいない。
- 陸上競技は16カテゴリーあるため、せめて各州32人が参加する全国大会を実施したい。
- やり投げの選手で、これまで槍投げ用の槍を使用せず、代替品で練習をしてきた選手が、ケニアの大会で初めて近代槍投げの槍を使って3位になった。南スーダンの選手の身体能力は高いが、用具が著しく不足している。高跳び用のマットレスに至っては、国内に一つしかない。Wau で実施した大会の際に、Juba から持って行ったマットレスがまだ戻って来ておらず、Juba では高跳びの練習が出来ていない。
- 牛追いをしながら毎日長距離を走っている子供たちがたくさんいて、長距離選手に適した選

手はたくさんいると感じている。特にケニア国境付近に住む民族は、長距離走に関して、高いポテンシャルを持っている。
備考：
収集資料：陸上協会からの支援要請レター

(9) 南スーダンラジオ・テレビ (South Sudan Radio and TV)

日時	2015年8月6日 11時15分から12時10分まで
場所	South Sudan Radio and TV (SSTV)
参加者	Mr. Martin Paul Baba, Acting Director General Mr. Moyiga Korokoto Nduru, Director, SSTV Ms. Suzan Alphonse Dume, Director, SS Radio JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員 大阪大学 岡田准教授 JICA アフリカ部 伊藤職員 株式会社 JIN 大野
<p>SSTV からの聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スポーツを通じて平和のコンセプトをテレビやラジオで放送するのは SSTV の義務である。Ministry of Culture, Youth and Sports (MoCYS) と協働してスポーツプログラムのスケジュールを確認し、テレビやラジオで放送する。違う民族同士のマッチも放送したが好評であったと感じている。ただし、視聴者からのフィードバックシステムは確立していない。 ● 現在は、スポーツの実況中継は難しい状況である。簡易な mini mobile studio (4つのカメラと小さなビデオ・オーディオミキサーが入っているもので、約 121,000 ユーロ) があれば、テレビでの実況中継が可能で、サテライト放送を活用すれば、全国にライブ中継が可能である。 ● テレビの場合は、サテライトシステムを活用し、リレー局を通じれば、10州に放映が可能である。5州は既にライブで放映が可能な状況にある。 ● ラジオについては、中波 (693Khz) の場合、2つの 100Kw トランスミッターの出力を最大限にすれば、全国をカバーできる。現在は 16時から 22時までの放送のみとなっている。FM については、ジュバから半径 80km 圏内はカバーできており、2015年7月1日から 24時間放送を開始した。 ● スポーツを通じた平和構築の場合、違う民族間で戦ったレスリングの試合は好事例だと思う。 ● 民族間の対立により大虐殺が起こったルワンダのケースを参考にしたい。現在までどのように民族融和を進めてきたかを、ルワンダのジャーナリストやコミュニティリーダーに取材して確認したい。 	
備考：	

収集資料：特になし

(10) 南スーダンバスケットボール連盟

日時	2015年8月6日 15時55分から16時50分まで																																								
場所	South Sudan Basketball Federation (SSBF) at Nimura Balata Basketball Court																																								
参加者	Mr. Acuil M. Banggol, Secretary General JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員 大阪大学 岡田准教授 JICA アフリカ部 伊藤職員 株式会社 JIN 大野																																								
<p>南スーダンバスケットボール連盟からの聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 南スーダンバスケットボール連盟は2009年に国内登録し、2013年に国際組織に登録した。同連盟は10州のバスケットボール協会の連盟組織となっている。 ● SSBFでは、2013年の内乱の影響で、4年もの間、役員改選の選挙が行われていない。また、2013年以降、国レベルのトーナメントは実施されていない。 ● International Basketball Federation (FIBA) からは、コーチの訓練などの支援を受けている。南スーダンはアフリカの第5ゾーン。(Webで確認したところ現在はFIBA ランキング83位)。 ● クラブチーム数は以下の通り。 <table border="1" data-bbox="202 1124 1402 1330"> <thead> <tr> <th>州名</th> <th>男子クラブ</th> <th>女子クラブ</th> <th>州名</th> <th>男子クラブ</th> <th>女子クラブ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央エクアトリア</td> <td>12</td> <td>なし</td> <td>北バハル・アルガザル</td> <td>活動中止</td> <td>活動中止</td> </tr> <tr> <td>東エクアトリア</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>上ナイル</td> <td>活動中止</td> <td>活動中止</td> </tr> <tr> <td>西エクアトリア</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>ユニティ</td> <td>活動中止</td> <td>活動中止</td> </tr> <tr> <td>ワラップ</td> <td>5</td> <td>なし</td> <td>レイクス</td> <td>8</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>西バハル・アルガザル</td> <td>7</td> <td>なし</td> <td>ジョングレイ</td> <td>活動中止</td> <td>活動中止</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ● クラブチームは軍や警察、学校、民間人のものはあるが、企業チームはない。コーチは全てボランティアでやっている。1クラブあたり20人から25人の選手がいて、試合に招待されるのは12人から15人。 ● ジュバのNimira Balataバスケットコートは、携帯電話会社のGemtellの支援により、緑色の塗装がなされ、とてもカラフルになった。政府からの支援は全くない。 ● 男子ナショナルチームは、ジュバの12クラブチーム(2シニアチームを含む)より選出されていて、主要メンバーは高校生である。女子は若いチーム(学生)より選抜されている。選抜に際しては、学校やクラブチームのコーチからの評価で判断している。近年アフリカ地域のトーナメントに出場できていない。 ● 膝等を壊す選手がいるため、きちんとした練習カリキュラムを組みたいと思っている。 ● 国際レベルの審判の育成が必要である。以前FIBAが支援してくれたことがあった。 ● 17人が米国NBAに招待されて、米国で活躍している。 						州名	男子クラブ	女子クラブ	州名	男子クラブ	女子クラブ	中央エクアトリア	12	なし	北バハル・アルガザル	活動中止	活動中止	東エクアトリア	なし	なし	上ナイル	活動中止	活動中止	西エクアトリア	なし	なし	ユニティ	活動中止	活動中止	ワラップ	5	なし	レイクス	8	なし	西バハル・アルガザル	7	なし	ジョングレイ	活動中止	活動中止
州名	男子クラブ	女子クラブ	州名	男子クラブ	女子クラブ																																				
中央エクアトリア	12	なし	北バハル・アルガザル	活動中止	活動中止																																				
東エクアトリア	なし	なし	上ナイル	活動中止	活動中止																																				
西エクアトリア	なし	なし	ユニティ	活動中止	活動中止																																				
ワラップ	5	なし	レイクス	8	なし																																				
西バハル・アルガザル	7	なし	ジョングレイ	活動中止	活動中止																																				
備考：																																									

収集資料：特になし

(11) 南スーダンハンドボール協会

日時	2015年8月6日 17時から18時15分まで
場所	南スーダンハンドボール協会 (South Sudan Handball Association)
参加者	Mr. Abdulla Philip Augustino, Secretary General Mr. Gordon Martin, Head Coach Mr. Noel Zakaria, Head referee Mr. Rahama Said F. JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員 大阪大学 岡田准教授 JICA アフリカ部 伊藤職員 株式会社 JIN 大野
<p>ハンドボール協会からの聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none">• 2010年に協会を結成した。独立前の内戦中は、ハンドボールはやっていた。• ジュバにはハンドボールコートがいくつかある。Nimura Balata Basketball Courtの横にあるハンドボールコートは、ブルドーザーで整地した。コートは中央エクアトリア州の所有で、使用料は取られていない。• ハンドボール協会の技術委員 (Technical Committee) が2012年にToritを訪問し、28名の教師に対し、コーチ・審判技術の指導を行った。同様にジョングレイ州のBorで28人、西エクアトリア州で32人の指導を行った。• 州レベルのハンドボール協会の設立を支援している。先月(2015年7月)、Inter-state トーナメントを実施した。• 韓国の国会議員がジュバを訪問し、韓国オリンピック委員会からの支援として、ボールやネット、スコアボードを贈呈してくれた。サッカーボールが400個、バスケットボールが300個、ハンドボールが80個(訪問時に視察した、ハンドボールの試合でも使用されていた)。• International Handball Federation (IHF) のフルメンバーになった。一度だけ、試合出場のための航空券を支援してもらったことがある。東アフリカ U20 選手権に出場したが、他国の選手は年齢を偽ってシニアの選手をメンバーとして登用しており、そのため南スーダンチームは良い結果が残せなかった。それでもタンザニアには勝利した。• IHF の支援により、4人の公認コーチと2人の公認審判が育成された。現在、合計16人の公認コーチと8人の公認審判がいる。• 1970年代から90年代にかけては、ハンドボールは強かった。スーダン代表として南部スーダンの選手が試合に出ることも多かった。2010年にはジブチで実施されたIGADの加盟国の試合で、2位になった実績もある。• 現在のクラブチームは、Jubaに男女各4チーム、Yambio男女各4チーム、Torit男女各4チーム、Wau男女各5チームで、残りの州ではハンドボールを行っているチームはない。	

備考：
収集資料：特になし

(12) MoCYS 青年スポーツ局 (第3回打合せ)

日時	2015年8月7日 10時から11時30分まで
場所	Directorate of Youth and Sports (MoCYS)
参加者	Mr. Edward Settimo Yugu, Director General, Directorate of Sports JICA 南スーダン事務所 古川所長、山中職員 JICA アフリカ部 伊藤職員 株式会社 JIN 大野
<p>Mr. Edward Settimo Yugu との協議の内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後、JICA に対してどのような支援を期待するか。→MoCYS の行政能力強化は必須で、オリンピックに出場出来るようなトップレベルの選手育成と、草の根でのスポーツ普及の2つが重要となっている。トップレベルの選手育成は、National Olympic Committee (NOC) と各スポーツの協会と連携して実施する。強化スポーツの優先順位としては、①陸上、②バスケットボール、③サッカー、④バレーボール、⑤ハンドボール、⑥柔道 (しかしながら施設はない)、⑦卓球 (卓球台が4台しかない) となっている。草の根レベルのスポーツ普及では National Sports Day (国体のような全国大会) の復活が期待されている。 ● インドアゲームができるよう、屋根つきの競技施設 (体育館) が必要で、上記の強化スポーツにかかる用具も必要。 ● 可能であれば、有望な陸上選手2・3人を日本に送って強化してほしい (実際、ケニアには強化合宿で2・3人の選手が滞在中)。また、コーチや審判の研修も必須である。更に、スポーツ協会の事務局関係者の能力強化も必要である。 ● この調査の一環として予定していた、スポーツイベントの実施時期はいつが適切か。→1月の上旬が適切ではないか。乾期ということで道の状態が良くアクセスしやすいのと、学校が休みなので、学校施設を宿泊所として活用でき、経費が節減できる。2016年の1月18日の週が適切ではないか。対象スポーツはサッカーと陸上が有力。予算との関係で、1つのスポーツしか実施できないことも想定する。サッカーの場合、1チーム最低22人は呼ばないといけない。陸上の場合、男女10人ずつ計20人とコーチ2名で、サッカー同様、最低22人を呼ぶ必要がある。予算に限りがあるため、ジュバまでの交通費は州が負担するというアレンジで招待状を各州に送り、反応を見てみたい。9月に入ったら、MoCYS 内部に実施事務局を設置し、準備を進めていきたい。 ● この調査中に実施する日本招へいプログラムで招へいする候補は誰か。→MoCYS では次官、スポーツ局の Director General、Director、William 氏。NOC とバスケットボール協会、アスレチック協会の Secretary General、ハンドボール協会の President、あとサッカー協会から1名が望ましい。計9人。 	

<ul style="list-style-type: none"> ● 調査後に実施が想定されている、JICA 協力に関する要請書については、まず 8 月中に第 1 案を作成し、JICA と内容につき相談したい。9 月にはほぼ案が固まるようにしたい。 ● サッカーに対する支援の場合、MoCYS の立場からは、多くのコーチを育成することが重要と考えており、Training of Trainers (ToT) ができる指導者の派遣を望んでいる。他方、ナショナルチームや U23 の強化のニーズも高い。日本側のリソースも見ながら調整が必要になると考えている。
備考：
収集資料：特になし

(13) 南スーダンサッカー協会 (第 2 回打合せ)

日時	2015 年 8 月 7 日 14 時 30 分から 15 時 30 分まで
場所	JICA South Sudan Office
参加者	Mr. Andrea Abdalla Dimbiti, Vice-president of South Sudan Football Association (SSFA) JICA 南スーダン事務所 古川所長 JICA アフリカ部 伊藤職員 株式会社 JIN 大野
<p>前回の SSFA President への聞き取り時間が十分確保できなかったことから、Vice-president の Mr. Andrea Abdalla Dimbiti からの聞き取りを行った。その内容は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現在のサッカーのナショナルチームのコーチ (韓国人) の雇用契約書は、MoCYS が保有しており、契約内容を見たことがない。現在のコーチはユースを教えた経験が多い。後任コーチの履歴書はいくつか集まっていて、エジプト人やヨーロッパ人が候補者の中にいる。女子のナショナルチームもあるため、女子にもコーチが必要である。 ● アフリカ地域の大会の一つに African Cup があり、南スーダンはマリ、赤道ギニア、ガボンと同じグループになっている。予選を勝ち抜けば、2017 年にガボンで開催される決勝大会に出場できる。その他にも数多くゲームがあり、2015 年の年間計画に全て工程表に記載してある (その資料をいただけるようお願いした)。また国内の試合も South Sudan Cup (ノックアウト方式：8 月から 9 月にかけて実施) や South Sudan League (リーグ戦：10 月から 11 月にかけて実施) もある。 ● 現在、男子は FIFA192 位である。ナショナルチームの育成・強化は政府の責務となっている。ナショナルチームには 35 人から 40 人程度の選手がいて、そのうち U23 が 6 割程度を占めている。ナショナルチームのコーチの選定に当たっては、コーチ経験を重視する。 ● クラブチームの場合、試合地までの交通費はクラブチーム自身で捻出している。協会も政府も支援はしていない。スポンサーがつく場合は、クラブチームは少しだけ支援金をもらえる場合もある。 ● 通常、試合に参加した審判には、謝金が払われる。また、治安警備に当たってくれる警察や 	

軍、スタジアムの管理者（白線を引いたりする職員）にも謝金が支払われる。スタジアムの電気を起こすための発電機の燃料代も支払う必要がある。これらのお金は、1枚10～15 South Sudan Pound (SSP) のチケットを販売した収入から捻出している。

- 試合の際は、十分な人数の警察官を配備し、治安を維持することが重要である。また、審判の訓練が重要で、審判の判定の質が悪いと、観客が荒れる可能性が高くなる。万が一のことを想定して、医者を配置したり、医療施設に運べるようにしておくことも必要。
- FIFAの支援は、①SSFAの事務所の賃貸料やスタッフの給与、少額の運営コストの支援、②職員や審判のトレーニングなどで、これらとは他に、Goal Projectと呼ばれる申請ベースのプロジェクトファンドがある。通常、Goal Projectは一案件USD500,000までであるが、南スーダンはまだFIFAに加盟したばかりの国なので、1回に限り、特別措置として倍額のUSD1,000,000まで申請が可能となった。このお金を申請して、現在SSFAの事務所を建設中である。1回目のプロジェクトが終了した後に、次のプロジェクトの実施を計画しているが、その内容はサッカーアカデミーの建設である。アカデミーには事務所や教室、会議場、宿泊施設、サッカー場、必要な機材を申請したいと考えている。Goal Projectはプールファンドのようにして使用することもでき、他の支援者のお金とGoal Projectファンドを合算して、計画額を満たすことができれば、プロジェクトの開始が認められる（もちろんGoal ProjectファンドのUSD500,000の中で納まるプロジェクトも実施可能）。
- CAFの支援は一度だけだった。ただし監査が非常に厳しかった。日本からの支援でコーチを送ったりする場合、CAFは感謝することはあっても、不愉快に感じることは無いと思う。実際にヨーロッパからも個別に支援が入る場合もあるようだが、トラブルにはなっていない。
- アフリカ地域の大会に参加する場合には、CAFが航空券と宿泊施設を提供してくれる。

備考：

収集資料：特になし

別添 6 : 第 2 回現地調査議事録

第 2 回現地調査 打合せ議事録

- (1) ジュバ市青年連合
- (2) 教育省
- (3) 南スーダン陸上協会・中央エクアトリア州陸上協会
- (4) 中央エクアトリア州青年連合
- (5) Wonduruba 青年連合
- (6) Sports for Hope (NGO)
- (7) ジュバ郡青年連合ならびにラジャフパヤム青年連合
- (8) ジュバ市内の教会
- (9) Dr. John Garang Memorial National Secondary School

(1) ジュバ市青年連合

日時	2016 年 1 月 26 日 10 時 20 分から 11 時 15 分まで
場所	Juba City Council
参加者	<p>Mr. Samuel Amule Elikau, Chairperson, Juba City Council Youth Union Mobile: 0955388980, 0954808927</p> <p>Mr. Henry Kenyi Eliakima, Deputy chairperson, Juba City Council Youth Union Mobile: 0954742761 E-mail: kenyistion@yahoo.com</p> <p>Mr. John Selim Lado, Director of Youth and Sports, Juba City Mobile: 0955405755, 0911260064</p> <p>JICA 南スーダン事務所 内田企画調査員 株式会社 JIN 大野</p>
<p>Juba City Council Youth Union からの聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同ユニオンには 18 名のスタッフがいて、全員がボランティアベースで仕事を行っている。役職としては Chairperson、Deputy chairperson、Secretary の他、6 つの Department (財務、保健衛生、スポーツ、情報、ジェンダー、平和と融和) の Head が任命されている。 ● Juba City Council Youth Union の下には 3 つのブロック (Katr、Munuki、Juba) があり、各ブロックの代表者が 6 名ずつ選出され、Juba City Council Youth Union の 18 名のメンバーとなっている。ブロックは、行政単位の Payam と同じ地域をカバーしている。各ブロックには Block head、Deputy block head、Secretary、Deputy secretary が任命されている。 ● 各ブロックの下には、Quarter Council Union と呼ばれる個々の Association があり、Katr ブロックでは 18、Munuki で 23、Juba で 16 のアソシエーションがある。1 アソシエーションあたり、約 50 名程度のメンバーがおり、ユニオン全体で約 3,000 人近くの規模となる。その中で女性のメンバーは約 145 人程度で、読み書きできる女性メンバーが約 80 名、読み書きできない女性メンバーが 65 名程度いる。ユニオンには男性メンバーが多いが、それは男性の方が教育を受ける機会が多いのと、女性は家事などを行わないといけないためとのこと。 ● Youth の定義は年齢で規定され、18 歳から 45 歳まで。したがって、小学校や高校との共同事業は行っていない。メンバーになるためには、年間 10 SSP の登録料を支払う必要がある。 ● 同ユニオンでは、2015 年に市長から配賦された予算を活用し、3 ブロック対抗のスポーツ大 	

会を2回実施した。競技種目はサッカー、バスケットボール、バレーボール、ネットボール、陸上であった。スポーツ大会実施に当たっては、CESのMoCYSのDirector of Youth and Sportsや、各スポーツ協会、Juba City Councilの職員などの協力を得た。2週間程度の準備で実施した。

- 同様の大会の予算申請書の内容を確認したが、サッカー1チーム当たり約53,000 SSPが必要とのこと（なお見積り時は、変動側制導入以前なので、価格はさらに上がっていると予想される）。主な支出項目は、ボールなどの用具、交通費、食事代で、用具の中にはユニフォームや靴の購入代なども含まれており、全体額削減の余地はある。インタビューでは、大会を実施すれば、通常ユニフォーム（Tシャツ）や靴を配るのは当たり前との感覚であった。

【所感】

- Juba City Council Youth Unionは実際にスポーツ大会を実施・運営したということで、草の根のスポーツ普及を行っていく際には、一つの普及ラインと考えられる（他のYouth Unionでスポーツイベントを行ったところは無かった）。
- スポーツ大会実施には、比較的高いコストがかかっているが、ユニフォームなどの支給をしなければ、予算は削減できる。

備考：

収集資料：見積書の写真

Proposed Budget of Juba City Council / TEGAT			
S/N	Description	Qty / Number of Items / Unit	Amount / USD
<u>Playing Items</u>			
1	Uniform (T-shirt)	2 dozens	3,500
2	Ball	10 Pcs	450
3	Playing shoes (Kardana)	18 Pcs	350
4	Uniform (Goal keeper)	2 pc	450
5	Gloves (keeper)	2 Pairs	200
6	Designing of Uniform (Logo)	26 Pcs	60
Sub total			4,910
<u>Trojan Kit</u>			
1	To the Training Ground	25 Hoops	25 x 20 x 5 day
2	To the Stadium	25 Hoops	20 x 20 x 5 day
Sub total			5,000
<u>Feeding of Players</u>			
1	Dining to City Soda, Water, Card Lead	25 Hoops	25 x 6 x 5 day
2	Dining to stadium Soda, Water, Card Lead	25 Hoops	25 x 6 x 5 day
Sub total			15,000
H/O & Bus			25 Hoops
Grand total			52,210 USD

(2) 教育省

日時	2016年1月26日 11時40分から12時20分まで
場所	Ministry of Education (MoE)
参加者	Mr. Sokivi Charles Thomas, Deputy Director of Co-curricular Mr. Wudu David Moses, Senior Inspector of Co-curricular JICA 南スーダン事務所 山中職員、内田企画調査員 株式会社 JIN 大野
MoE での聞き取りは十分できなかった。2015年8月に実施した第1回調査時に、MoE で行った聞き取りから更に追加での情報は以下のとおり。	

- Co-curricular（正規のカリキュラムと並行して行われる教育活動）には体育が含まれており、UNICEF からの支援を受け、その作成が完了した。しかしながら、印刷する費用は MoE で出さなければならない、まだ印刷は完了していない。
- Co-curricular の実施のためには、教員の訓練が必要となっているが、今のところそのめどは立っていない。今はパイロットステージで幾つかの学校でテストしている。
- 一般的な学校の体育担当は、以前、スポーツを行っていた先生が、ボランティアで行っている状況である。
- 放課後のスポーツ活動につき質問したが、全寮制の学校でないと、放課後のスポーツ活動を実施するのは難しいとのこと。

【所感】

- 2015 年 8 月に調査した時点と、状況は大きく変わっていない。予算状況も厳しそうで、実際の事業を行っているような雰囲気ではなかった。
- インタビュー時には、今回のスポーツイベントの招待状が届いていないとの不満が述べられた。招待状は大臣宛に出しているはずだが、その情報は下のレベルまで届いていない。もし、必ず来てほしい場合は、部局宛にも招待状を出す必要があると感じた。

備考：

収集資料：

(3) 南スーダン陸上協会・中央エクアトリア州陸上協会

日時	2016 年 1 月 26 日 13 時 10 分から 14 時 00 分まで
場所	旧 JICA 南スーダン事務所（現 MoCYS プロジェクト事務所）での南スーダン陸上協会（South Sudan athletic association）ならびに中央エクアトリア州（CES）陸上協会に対するインタビュー
参加者	Mr. Joseph Ramadan, coach, South Sudan athletic association Mobil: 0955450046 Ms. Agnes Elizaphana, Member of CES athletic association Mobile: 0954770722 JICA 南スーダン事務所 内田企画調査員 株式会社 JIN 大野
陸上協会からの聞き取り内容は以下の通り	
<ul style="list-style-type: none"> ● 州の陸上協会は 12 人のメンバーで構成されており、役職者は Chairperson、Deputy chairperson、Secretary、Finance secretary、Head of technical coach、Head of referee、Women representative である。 ● 州陸上協会の活動を確認したが、2014 年、2015 年共に、独自の活動は行っていなかった。州レベルの学校対抗戦を行いたいと希望しているが、実現できていない。 	

- 2012年、2013年ともに中央政府の教育省が主導し、全国学校対抗戦（Inter-school competition）を実施したが、2014年は予算不足のため実施されなかった。このため、2014年は、中央エクアトリア州教育省が近隣州を集めて、学校対抗戦を行った。競技種目は陸上、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ハンドボールで、参加州は中央エクアトリア州、西エクアトリア州、東エクアトリア州、レイクス州、西バハルアルガザル州の5州であった。陸上に関しては、各州より男女各10名が参加した。この対抗戦は2014年8月に7日間の日程で開催された。
- 2014年の大会実施の際は、食事や移動手段の確保、ユニフォームなどの提供が大変であった。宿泊所は、今回のUnity Dayイベントと同様にロンブールTTIを利用し、バレーボールはロンブールTTIのコートで、陸上はブルック競技場、サッカーはザハラサッカー場、バスケットとハンドボールは、ジュバ市内のコート（バスケットボールスタジアム近くの広場で、よく駐車場として使用しているところ）で行った。
- 今回のUnity Dayイベントと比較し、学校対抗戦は予算が少ないため、運営上の問題が多発した。特に宿泊施設から競技場までの移動手段については多くの問題が発生した（歩いて競技場まで行く子供たちもいた）。
- 中央エクアトリア州については、カウンティレベルの陸上協会は創設されていない。州レベルまでの組織となっている。
- 陸上協会としては、小学校にいる素質を持った子供たちの発掘が重要と考えている。高校生だと既に出来上がっているので、小学校の生徒たちをターゲットにしたい様子。
- 2週間程度のコーチトレーニングのコースを実施している（頻度は要確認）。
- 他州の事例では、2015年に東エクアトリア州において、州スポーツ省主導でカウンティ対抗戦を実施したと聞いている。競技種目は陸上とサッカーだった。（中央政府の文化・青年・スポーツ省のボスコさんが参加したとのこと。ボスコさんには内容確認は出来ていない）。
- 他のコメントとして、今回のUnity DayイベントにCESの州知事が招待されていなかったことは不満であったようで、CESで大会を実施する場合は、ちゃんと声をかけるべきとの意見が出された。

【所感】

- 中央の陸上協会は、これまで何度か大会を運営したことがあるようで、それらの経験が、今回のUnity Dayのマネジメントに活かされたと考えられる。Unity Dayの陸上競技の運営は大変しっかりしており、記録の取り方、競技の運営、表彰など、基本的な大会運営は十分に実践できた。
- 他方、州レベルの協会の能力は未知数である。他州に比べて、中央の陸上協会の支援が受けやすいロケーションであるため、自らが仕切って事業を実施する機会が少ないことが予想される。

備考：

収集資料：

(4) 中央エクアトリア州青年連合

日時	2016年1月26日 14時から15時10分まで
場所	JICA 南スーダン事務所での Central Equatoria State youth union に対するインタビュー
参加者	Mr. Simon Lado Yuggu, Deputy chairperson, Central Equatoria State youth union (本業は CES 政府のインフラ省のエンジニア) Mobil: 0956380855 Mr. Lodu Philip Jembuce, Secretary general, Central Equatoria State youth union (本業はジュバ大学の学生) 株式会社 JIN 大野
<p>Central Equatoria State youth union からの聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none">• CES は、6つのカウンティ、Juba city council、Yei Municipality、Wonduruba administrative area があり、CES youth union はそれらをすべてカバーしている。同 union は 2015 年の 3 月に創設された新しい組織である。• CES youth union は平和構築、人的資源開発（能力強化、スポーツ、レスリング）、農業などを支援している。• Youth の定義は 18 歳以上 45 歳以下で、CES youth union への個人登録料は一人当たり年間 50 SSP となっている。下部団体（例えば JCC youth union など）は、一団体当たり年間 150 SSP の登録料を支払っている。• 最近実施した大きな活動の一つに、平和構築活動が挙げられる。テレケカのチーフと協力し、同地域の遊牧民がジュバ周辺に遊牧していた牛を、テレケカまで帰還させることを支援した。この時には、警察や軍隊を介入させず、CES youth union が仲介役となった。警察や軍隊が関与すると、中立性を欠く可能性もあり、敢えて武器を持たない CES youth union がファシリテートした。• 2015 年には、テレケカで 2 つの部族の衝突があり、8 人が殺害されたが、この部族間の融和を図るために、NGO である Community Empowerment Organization と協力し、平和構築ワークショップを実施した。• 2016 年はサッカーの試合を実施するよう計画しているが、まだ予算のめどは立っていない。Peace Premier League と称し、州の文化・青年・スポーツ省と協力して、Yei Zone と Juba Zone から合計 9 チームをジュバに招へいし、ノックアウト方式で決勝を行いたいとのこと。2 日間での実施を計画しており、必要経費は全体で 484,000 SSP（うち T-shirts 代に 100,000 SSP を計上）となっている。宿泊施設は学校を活用したいとのこと。• 農業分野の支援も視野に入れている。政府からトラクターを借り上げ、農民に貸し出すことを計画している。	

- カウンティレベルには、Assistant Commissioner of Youth がいて、Youth の支援活動の担当となっている。

【所感】

- CES youth union はスポーツイベントなどの開催は実現していないものの、遊牧民と定着民の紛争を解決するなど、大変重要な活動を行っている。インタビューを行った両名とも、質問に対して非常に的確に答えていた。
- 創設されて1年未満であるが、2つの大きな活動を実施しており、スポーツイベントなどの開催能力が比較的高い可能性もある。
- 州レベル youth union とカウンティレベルのものがどのように連携しているのかは未知数。

備考：

収集資料：JICA 南スーダン事務所収集の資料

- テレケカでの2部族間の平和調停にかかる報告書
- 遊牧民の牛の帰還支援にかかる報告書
- CES youth union の規約

(5) Wonduruba 青年連合

日時	2016年1月26日 17時から18時まで
場所	JICA 南スーダン事務所での Wonduruba youth union に対するインタビュー
参加者	Mr. Lufas Juka Samuel, Chairperson, Wonduruba youth union JICA 南スーダン事務所 内田企画調査員 株式会社 JIN 大野
<p>Wonduruba youth union からの聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Wonduruba は Juba と Yei River カウンティに挟まれた特別地域 (administrative area)。1つのパヤム程度の大きさで、人口は1.5~2万人程度。 ● Wonduruba youth union には18名 (男性12名、女性6名) の executive member がいて、そのうち役職者は Chairperson、Deputy Chairperson、Secretary general、Secretary of sports and culture, finance, religious affairs, external relations, education, agriculture and health となっている。また Technical advisor が7名 (男性5名、女性2名)。Youth union には全部で52名のメンバー (男性40名、女性12名) が登録している。女性メンバーが少ないのは、一般的に女性の就学の機会が少なく、教育のレベルが比較的低いため、Youth union の活動に興味を示さないためとのこと。 ● Youth union の登録料は一人当たり25 SSP/月で、比較的高い。収入源がこの登録料のみであるため、このくらいの価格に設定しないと、Union を運営していけない。現在の物価上昇を勘案すれば、さらに高い登録料を設定する必要が生じてきている。 	

- Youth union の傘下には Cultural association と Sports association の 2 つがあり、前者は 50～60 名程度のメンバー（うち女性は 20～30 名）で、後者は 50～55 名程度（うち女性は 7～10 名）。両 association とも、月例会議などを行っている。
- Sports association は、競技種目としてはサッカーを推進していて、association からサッカーボール 2 個を寄贈した。大きな大会はクリスマスシーズンに行い、今年は 1 月 1 日に実施した。サッカーの試合のみならず、cultural dance も披露した。
- 現場での活動にはプロテスタント系の教会も関係していて、監督（Bishop）の教区（Diocese）ごとに活動を行っている（聞き取り不十分のため、要確認）
- Paramount chief や Local authority が支援した、サッカーのカウンティ対抗戦が行われたこともある。そういう大会の開会式では、スポーツ振興や平和についてのスピーチが行われる。
- 地方のサッカー協会によって、イエイで審判やコーチの研修を実施したことがあった。またウガンダに派遣されたこともあった。
- Wonduruba administrative area には、州の文化・青年・スポーツ省から Assistant inspector が配置されている。その他に教育・農業・林業・保健の assistant inspectors が配置されている。
- 地元のサッカー場は、学校に併設されている場合が多く、9 つのサッカー場がある。ゴールは竹製の枠で、設備としては十分ではない。学校の生徒もプレーすることがあり、学校の体育担当（sports master）が教える場合もあるが、その機会は非常に限られている。

【所感】

- Wonduruba は特別地域となっていて、特殊な状況である。このため、このユニオンをパヤムレベルのものとして見た場合、パヤムレベルでも細々と活動が続いていることが確認できた。ただ、毎年と言った感じではなく、アドホックベースで行われている。
- 現場では教会系のグループとも接点があり、この点については、更に情報収集が必要。

備考：

収集資料：

(6) Sports for Hope (NGO)

日時	2016 年 1 月 27 日 15 時 30 分から 16 時 45 分まで
場所	Sports for Hope (NGO) の事務所
参加者	Mr. Patric M. Roceds, Program manager Mobile: 0955058318 Mr. Kayanga Augustine Loma, Sports officer Mobile: 0955320003 Mr. Onen Denish Roy, Finance manager Mobile: 0956939207 JICA 南スーダン事務所 内田企画調査員 株式会社 JIN 大野

Sports for Hope からの聞き取り内容は以下の通り

- Sports for Hope は 2007 年に創設された主に平和構築活動を行う NGO で、現在 6 名のスタッフを有している。スタッフ全員がボランティアベースで活動しており、外部者からの委託事業を受けた場合のみ、給与が払われるシステムとなっている。スタッフの役職は Director、Program manager、Sports officer、Finance manager、Peace building officer、Administration で、スタッフ以外に President の役職がある（名誉職のようなものか）。
- NGO 自身が開発した「ゲーム」（アイスブレイキングテクニックのようなもの）を活用し、ゲーム内容を体験することにより、スポーツ振興、平和教育、HIV/AIDS 教育、保健・衛生教育、環境教育などを行っている。これらのゲームは 2007 年以降、時間をかけて開発され、その数を増やしてきた。全部で 100 種類くらいある。
- スポーツ振興にかかる活動としては、グラウンドの整備や、サッカーコーチに対する技術指導を行っている。また、スポーツ大会（サッカーとバレーボール）の実施を支援し、NGO が推進する活動に関連したメッセージの入った T シャツを配布したり、優勝トロフィーや景品などを供与した。試合はトーナメント方式で行った。大会には Payam chief や州の担当大臣、TV 局なども参加した。
- NGO のスポーツ担当は、スーダンのサッカープレミアリーグで監督の証明書を得ており、British Council の支援により、草の根レベルのサッカーコーチを指導した経験を持つ。
- これまで NGO として行った大きな活動は、HIV/AIDS・人権にかかる啓発活動（Linya）、公正な選挙プロセスを確保するための活動（Torit）、サッカーのコーチや審判の指導（Yambio）、難民 CAMP 内での異なる部族によるサッカーの試合（Juba）などである。UNICEF の支援を受け、学校の生徒に対し、Gender based violence についての啓発活動を行った経験もある。

【所感】

- インタビューを通じて、この団体がきちんとした活動を行っているのかどうか、大きな疑問を感じた。
- 子供が自筆では書けないし、意味も理解できないようなメッセージを紙に書いて持たせ、その写真を撮っているが、彼らの説明では、「子供たちが自らメッセージを書いて、みんなに示している。」という事実とは思えないものであった。いろいろ質問して、最後になってやっと、自分たちが書いたメッセージを持たせたという説明ぶりとなった。財政的に支援してくれたドナーの意向に沿い、活動の内容を良く見せようとして、やらせの部分が多いように感じた。
- ゲームと呼ばれるアイスブレイキング手法はたくさん持っているようなので、これらを活用することは出来るが、活用方法を十分に練らないと、非常に表面的なものになってしまうことが懸念される。

備考：

収集資料：

(7) Juba 郡 青年連合ならびに Rajaf パヤム青年連合

日時	2016 年 1 月 28 日 10 時 15 分から 11 時 20 分まで
場所	JICA 南スーダン事務所での Juba county youth union ならびに Rajaf payam youth union に対するインタビュー
参加者	Mr. Kulawa Richard Jo, Chairperson, Juba county youth union Mobile: 0955707937、0922707937 Mr. David Morbe Aquelino, Chairperson, Rajaf payam youth union JICA 南スーダン事務所 内田企画調査員 株式会社 JIN 大野
<p>両 youth union からの聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none">● Juba county youth union は 2014 年に設立され、現在はまだ規約が完成していないため、オフィシャルには登録されていない。14 人のメンバーからなり、役職者は Chairperson、Vice chairperson、Secretary、Vice secretary、Secretary of finance & vice finance, information & vice information, Sports, Payam affairs & vice payam affairs and Gender & vice gender となっている。参加には 12 の associations がある。青年の定義は 18 歳から 45 歳までとなっている。● Rajaf payam youth union は 2015 年に設立され、Executive board には 17 名のメンバーがいる。役職者は President、Deputy president、Secretary、Heads of Finance, Information, Culture, Gender, Sports, Academic and Transport & Logistics となっている。ボードメンバーは、6 つある Boma より選出されている。Rajaf payam youth union の会員は全部で 5,000 名程度。● 両 youth union とも、スポーツに関連した活動は、これまで行っていない。サッカーやバレーボールクラブの支援をしたいと考えている。陸上は男女が参加でき、サッカーは男性、バレーボールは女性のスポーツと考えている。村では、何もすることが無くてブラブラしている青年がいて、昼間からお酒を飲んでいる。女性に関しては、伝統的な考え方が色濃く残っており、教育の機会が少なかったり、人前で意見を言うことをためらう女性が多い。このような状況を打破するためには、スポーツが有効と考える。● 州の youth union との連絡調整はあまりできていない。County 別対抗のサッカー競技大会を計画したが、予算不足のため実現していない。● Juba county の中では特にコンフリクトは起こっておらず、みんなを一緒に集めることはさほど大変ではない。● 【草の根レベルの教会関係のスポーツ活動についての質問】 Youth union の会員が、同時に Church union の会員でもあるというのはよくあることで、Rajaf 教区でもサッカー大会を行ったことがある。● 【小学校でのスポーツ活動についての質問】小学生をターゲットにスポーツ振興をする計画はあったが、予算が無いため実施できていない。	

<p>【所感】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特にこれまで具体的な活動を行ってきたようには感じられなかった。
備考：
収集資料：

(8) ジュバ市内の教会

日時	2016年1月28日 13時00分から14時15分まで
場所	Arch diocese of Juba (ジュバの教区) をカバーする教会 (名前不明のため要確認) でのインタビュー
参加者	Fr. Basilio Lykudu, Youth Chaplain, Archdiocese of Juba Mobile: 0955470873 Fr. Peter Loro Bambu, Catholic secretary, Archdiocese of Juba Mobile: 0956182883 JICA 南スーダン事務所 内田企画調査員 株式会社 JIN 大野
<p>教会関係者からの聞き取り内容は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> Archdiocese of Juba は、テレケカ、ジュベック、イエイの一部をカバーしている教区である。この教区の中には、15 のパリッシュ (サブ教区? サブ教区には司祭が1人いる。司祭がいなない場合はパリッシュを形成できない) があり、テレケカには2つのパリッシュ、ジュバには多くのパリッシュがある。テレケカの場合、1パリッシュに約100のCenter (教会やそれらを中心としたコミュニティ) がある。 各パリッシュには、Youth Chaplain (子供たちの担当) がいて、Youth committee を組織している。一つのパリッシュには800~2,000人のYouthがいて、その中でChaplain chairpersonが任命されている。 スポーツに関連した活動では、Inter-parish competition を行った実績があり、その際は政府機関からの支援を受けずに、独立して行っている。政府機関を交え、政治が絡んだりすることで、教会の考えとは違うメッセージが出る可能性があり、それを危惧して、協力関係を持っていない。スポーツ大会実施の際には、Youth Union との連携もほとんどない。 教会は平和にむけての発信を常に行っているし、スポーツ精神は平和に関連するとともに、人を引き寄せる力があるため、教会としてはスポーツ大会を実施する意義が高い。Youth は教会の教えを信じているため、スポーツを通じた平和構築を教会の枠組みで実施することは容易である。 教会が主体となってスポーツ大会を開く場合、予算は信者からの寄付などで賄っている。1年に1回くらいの頻度でやっている (聞き取り内容が曖昧。要確認)。場所は教会にある広場や公共の競技場を活用している。 スポーツ大会の時は、歌や議論、文化的なダンスなどを披露することもある。 	

【所感】

- 教会自体、常に平和のメッセージを出し続けて来ており、平和構築という観点から、スポーツを通じた平和構築を推進していくうえで、重要な組織の一つとなるように感じられた。
- 教会は組織的にしっかりしているため、スポーツの草の根普及を行い場合は、有望な普及ラインの一つになり得る。また、平和とスポーツを結びつける、強い信念とメッセージ性、中立性が担保できる可能性が高い。
- 教会の Youth 活動に参加している青年たちが、同時に Youth Union に加入している場合もあり、組織的な連携はあまり無いものの、ターゲット層は似通った形になっている。

備考：

収集資料：

(9) ジュバ市内の Secondary School (Dr. John Garang Memorial National Secondary School)

日時	2016年1月28日 15時から16時まで
場所	Dr. John Garang Memorial National Secondary School
参加者	Mr. Clement Ernest Obama, Deputy head teacher JICA 南スーダン事務所 内田企画調査員、タバンローカルスタッフ 株式会社 JIN 大野
学校関係者からの聞き取り内容は以下の通り	
<ul style="list-style-type: none">● Primary school は8年間の就学期間で、就学年齢は通常7歳から14歳となっている。Secondary school は4年間で、就学年齢は通常15歳から19歳、大学は20歳からとなっている。● 訪問した小学校では、クラス対抗のスポーツ大会を開催した経験があり、1・2年各2クラス、3・4年各1クラス、計6クラスで対抗戦を行った。6月から8月までの間に大会を開催して、開催前は6～8週間、放課後に週1・2回の練習を行った。男子はサッカーとバレーボール、女子はバレーボールを行った。大学で体育専攻であった、Sports master と呼ばれる先生が練習を指導した。● 学校の授業では、体育の講義は週2回ある。授業では、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ハンドボールなどを行っている。● 通常の授業は8時半から17時までで、週5日である（土日が休み）。終了が17時と遅いため、放課後にスポーツの練習を常に実施するのは難しい。● Sports master が調整して、近隣の学校と学校対抗戦を行ったこともある。● 中央政府の教育省が主催した、学校対抗戦が開催されているが、参加者の選抜方法には疑問がある。参加者はプロのような選手が選ばれ、一般の学校からフェアなプロセスで選ばれているかどうか分からない。少なくとも、この学校からは誰も選ばれたことが無いし、選定プロセスに参加したことも無かった。全国で1,000人くらいが参加する、大きな大会となっている。	

- CESにある National Secondary School は2つあり、これらの学校には全国から生徒が就学することができ、ジュバの親せきなどの家から通学している。State Secondary School は全体の 3/4 くらいあり、残りの 1/4 は Private school (ミッシヨナリー)。
- 本校の先生や生徒は、さまざまな部族出身となっている。特に問題が起こったことは無い。
- スポーツ振興に必要なもので、最も重要なのはスポーツ用具(ボールなど)である。次に競技場の整備が挙げられる。生徒からの寄付によってボールを購入したこともある。UNMISS からボールをもらったこともある。
- 子供たちはスポーツが好きで、女生徒はバレーボール・バスケットボールなどを行っている。女生徒は優秀で、妊娠などで中退する生徒もいるが、意志が強い子が多く、出産後、また学校に戻り、最後までやり切る(卒業する)生徒が多い。

【所感】

- Secondary school 主催のスポーツ大会(クラス対抗戦)が既に実施されているので、このような活動を強化することで、草の根のスポーツ振興になる可能性は高いと感じる。また教師に平和教育の重要性を認識してもらうことで、スポーツを通じた平和構築の具体的なアプローチになるとも感じている。
- 女性を多く巻き込むためには、家に帰宅後、家庭内労働に忙殺されることを避けるために、学校内での時間を使って、スポーツ活動に巻き込んでいくことが重要である。ただ、Secondary school では、授業が終わる時間が遅いので、放課後の活用が難しいという課題が残る。
- 今回は Primary school の聞き取り調査が出来なかったが、Primary schoolの方が、草の根スポーツの振興にはより適しているように感じている。Primary schoolであれば、授業の終了時間も比較的早いので、放課後1時間くらいのスポーツ活動を行うことができるのではないかと感じる。

備考：

収集資料：

別添 7 : 州関係者準備会合後の MoCYS 関係者
アクションポイント

Report for a follow-up meeting for the Coordinating Meeting on the Second National Unity Day for Peace-building through Sports

Date: 26th to 27th November, 2016

Venue: Fairway Hotel in Kampala, Uganda

1. Security

- In order to secure safety of participants, the number of security related personnel should be increased during the Second National Unity Day compared to the previous event (e.g. 24 police personnel were assigned during the first Unity Day). The necessary number of national security and national police personnel for opening, closing ceremony, four play grounds, transportation and accommodation will be consulted with relevant authorities, namely Office of the President for National Security Service and the Ministry of Interior.
- As for closing ceremony, starting time of the closing ceremony and the football final match should be considered very carefully. Since all players and coaches should go back to the Rombur TTI before 7:00 pm, the closing ceremony may start from 3:00 pm and the final football match may start 4:00 pm.
- As for accommodation in Rombur, armed national security and/or police personnel need to be deployed at the Rombur TTI to maintain security for 24 hours. MoCYS officers would stay Rombur TTI to supervise situations and address any issues to be raised during the Second National Unity Day.
- Escorts of armed national security and/or police personnel are needed for traveling from the Juba airport to the Rombur TTI by bus at arrival and departure of players and coaches. Also escorts of armed national security and/or police personnel are necessary for moving between play grounds and the Rombur TTI by bus.
- As for playground during match, national security and/or police personnel with sticks will be deployed at play grounds. MoCYS officers will be deployed at each play grounds. Morning match would start at 8:00 am and Afternoon match would start at 4:00 pm.
-
- Evacuation guidance should be prepared in case that something (e.g. fire) happens at the Rombur TTI.
- The participants should carry their ID at any time, which will be provided by MoCYS before check-in at the Rombur TTI.

Action point:

[MoCYS]

- ✓ Prepare request letters on deployment of national security personnel to the Office of President for National Security Service and national police personnel to the Ministry of Interior and prepare a request letter on cooperation of the Second National Unity Day to the Governor of Jubek State
- ✓ Prepare a rotation schedule of MoCYS members to be deployed at play grounds and the Rombur TTI

[JICA]

- ✓ Prepare an assignment schedule for national security and police personnel
- ✓ Prepare the evacuation guidance for the Rombur TTI and purchase or prepare fire extinguishers

2. Selection and confirmation of players

- Each city follow the selection and registration process discussed and agreed during the Coordinating Meeting
- The Second National Unity Day will be held if at least two towns can participate. If they cannot, it will be cancelled.
- A participant list with ID documents should be submitted to JICA, otherwise flights of chartered airplanes between towns and Juba cannot be booked.
- Copies of IDs are the most crucial documents for flight booking. JICA needs to obtain them as early as possible.
- If JICA is able to provide financial support for flights, MoCYS and JICA should consider how to handle the situations that some towns are able to secure budget for flights by themselves and others are not.

Action point:

[MoCYS]

- ✓ Monitor the selection and registration process in the towns, and instruct the State Ministry and the local associations to maintain fair selection processes
- ✓ Make sure that the State Ministry submit a participant list, copies of IDs to prove age of participants, and their photos before deadline (i.e. by December 20th)

[JICA]

- ✓ Check the availabilities of commercial and chartered flights, their prices, and requirements

3. Selection and confirmation of guests

- MoCYS and JICA will confirm who will be invited to the opening and closing

ceremony.

- Invitation letter to President and Vice President should be prepared as early as possible.

Action point:

[MoCYS]

- ✓ Confirm who will be invited to the opening and closing ceremony
- ✓ Prepare and deliver invitation letters to President, Vice President and other stakeholders

4. Programme of the National Unity day

- The schedule of the Second National Unity Day presented at the Coordinating Meeting was modified during the follow-up meeting due to the tight schedule of football matches.
- Speeches in the closing ceremony should be short since the participants need to return to the Rombur TTI before sunset.
- Some educational lectures, such as HIV and gender issues, need to be organised. An appropriate timing of these lectures is morning time of Day 1, before the opening ceremony.

Action point:

[MoCYS]

- ✓ Distribute the revised schedule to the participants with invitation letters
- ✓ Identify lecturers of educational lectures

[JICA]

- ✓ Prepare the revised schedule
- ✓ Identify lecturers of educational lectures

5. Arrangements of venues

- Four grounds are required for the Unity Day. Bulk athletic field will be used for athletic events, while Zhara, Supiri, and one more ground will be used for football matches. The ground conditions should be checked before reservation.

Action point:

[MoCYS]

- ✓ Check the ground conditions of some football grounds and select three grounds with preferable conditions for football matches
- ✓ Reserve the grounds and make arrangements for repairs if necessary

6. Arrangements of referees

- The required number of referees is 30 for athletics per day and 5 for one football match.
- Proposed allowance of referee is 10 USD for an athletic referee per day and 10 USD for a football referee per match. These unit prices will be discussed with the two associations for confirmation.

Action point:

[MoCYS]

- ✓ Discuss with the two associations and confirm the unit price of allowance for referees

[JICA]

- ✓ Prepare the assignment schedule for referees

7. PR/Media

- The designs of logo for banners, posters and flyers need to be prepared as soon as possible.
- A PR company (Mr. Kembe's company) will be hired for the Second National Unity Day. JICA PR team will also support MoCYS.
- MoCYS will communicate with the international and local medias, such as SSTV (SSBC), EBC (Equatoria Broad Casting), FM radio stations (e.g. Eye radio and Catholic Church radio network at State) and newspaper companies.

Action point:

[MoCYS]

- ✓ Find a designer to prepare a logo and then prepare banners, posters, and flyers
- ✓ Make contacts with the media mentioned above for the publicity and make arrangements for deployment of media personnel during the Unity Day

8. Accommodation for players and coaches

- A management consultant company with MoCYS will check the conditions of the Rombur TTI and identify necessities of repairs. Necessary items (e.g. beds, mosquito nets, and sheets) will be procured by the company.
- Fire extinguishers will be provided to the Rombur TTI.

Action point:

[MoCYS]

- ✓ Check the conditions of the Rombur TTI with the management consultants and identify necessities of repairs

9. Resource mobilisation

- The potential sponsors might be mobile phone companies such as Zain and Vivacell,

and UN organizations like UNMISS, UNICEF and UNESCO. MoCYS and JICA will communicate with them for seeking any assistance for the Unity Day.

Action point:

[MoCYS/JICA]

- ✓ Contact with abovementioned stakeholders to check the possibilities of supports

10. Local consultants

- The bidding processes of local consultants for overall management and food preparation are currently ongoing. JICA, however, will again instruct the necessary bidding processes for food preparation since all bidders of food management could not prepare appropriate documents.

Action point:

[JICA/MoCYS]

- ✓ Determine local consultants to be hired through the appropriate procedures

11. Procurement by MoCYS

- MoCYS should submit quotations for necessary sports items.
- Some items are supposed to be provided by the South Sudan Athletic Association since the association received the fund for procurement of supports gears from Japanese Embassy.

Action point:

[MoCYS]

- ✓ Submit the quotations for the necessary sports items to JICA
- ✓ Coordinate with South Sudan Athletics Association to assess fence maintenance progress and to procure sports gears

12. Others

- MoCYS needs transportation for the preparation of the Unity Day. JICA will discuss this issue and try to make internal arrangements to provide the transportation to MoCYS.
- South Sudan Football Cup was held in Juba and Aweil. There was no security issue during the Cup. Also Juba League for football and young stars football competition are being organised in Juba as usual. Although many spectators came to the matches, no security issue was observed.

[MoCYS]

Submit necessary items, such as transportation and office maintenance including compound cleaning

Table of action points

Items	Action points	
Security	MoCYS	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Prepare request letters on deployment of security personnel to Ministry of Security and Ministry of Interior and prepare a request letter on cooperation of the Unity Day to the Governor of Jubek State ✓ Prepare a rotation schedule of MoCYS members to be deployed at play grounds and the Rombur TTI
	JICA	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Prepare an assignment schedule for security personnel ✓ Prepare the evacuation guidance for the Rombur TTI and purchase or prepare fire extinguishers
Selection of players	MoCYS	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Monitor the selection and registration process in the towns, and instruct the State Ministry and the local associations to maintain fair selection processes ✓ Make sure that the State Ministry submit a participant list, copies of IDs to prove age of participants, and their photos before deadline (i.e. by December 20th)
	JICA	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Check the availabilities of commercial and chartered flights, their prices, and requirements
Selection of guests	MoCYS	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Confirm who will be invited to the opening and closing ceremony ✓ Prepare and deliver invitation letters to President, Vice President and other stakeholders
Programme of the Unity Day	MoCYS	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Distribute the revised schedule to the participants with invitation letters ✓ Identify lecturers of educational lectures
	JICA	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Prepare the revised schedule
Arrangements of venues	MoCYS	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Check the ground conditions of some football grounds and select three grounds with preferable conditions for football matches ✓ Reserve the grounds and make arrangements for repairs if necessary
Arrangements of referees	MoCYS	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Discuss with the two associations and confirm the unit price of allowance for referees
	JICA	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Prepare the assignment schedule for referees
PR/Media	MoCYS	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Find a designer to prepare a logo and then prepare banners, posters, and flyers ✓ Make contacts with the media mentioned above for the publicity and make arrangements for deployment of media personnel during the Unity Day
Accommodation for players and coaches	MoCYS	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Check the conditions of the Rombur TTI with the management consultants and identify necessities of repairs
Resource mobilisation	MoCYS/ JICA	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Contact with abovementioned stakeholders to check the possibilities of supports
Local consultant	MoCYS/ JICA	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Determine local consultants to be hired through the appropriate procedures ✓ Request local consultants to submit the quotations for the necessary items, and check if the quotations are appropriate
Procurement by MoCYS	MoCYS	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Submit the quotations for the necessary sports items to JICA

別添 8 : 第 2 回 National Unity Day プログラム

Overall Programme of the Second National Unity Day

Date	Time	Contents	In-charge	Venue		
Jan. 27th (Fri)	Peace building workshop					
	14:30 – 14:45	Concept of the Second National Unity Day	Mr. Lemor William Joseph, Ministry of Culture, Youth and Sports (MoCYS)	Rombur TTI		
	14:45 – 15:15	Fair play sprit	Dr. Sall Lolodu			
	15:15 – 15:45	HIV/AIDS sensitisation	Representative, South Sudan HIV/AIDS commission			
	15:45 – 16:15	Gender sensitisation	Ms. Margaret, Ministry of Gender and Social Welfare			
	16:15 – 16:45	Peace build and unity through sports	Mr. Pinyjwok Akol Ajawin, Director General of Youth, MoCYS			
	16:45 – 17:45	Peace building activities	Mr. Ziath Mayen Muorwel Mayom, Programme Director, Helping Hands (NGO)			
17:45 – 18:00	Closing	Mr. Yugu Edward Settimo, Director General of Culture, MoCYS				
28th (Sat)	9:00 – 10:00	Rehearsal of opening ceremony	South Connectica	Rombur TTI		
	10:00 – 11:00	Explanation of peace activities	Mr. Lemor William Joseph, MoCYS			
	11:00 – 12:00	Lunch				
	12:00	Departure to the Juba football stadium for opening ceremony				
	Opening ceremony				Juba football stadium	
	13:00 – 13:30	Arrival of the spectators to the venue				
	13:30 – 13:45	Arrival of invited guests				
	14:00	Arrival of H.E. 1st Vice President of Republic of South Sudan				
	14:00 – 14:20	Marching of participants accompany by Police Brass Band				
	14:20 – 14:30	Singing of South Sudan National Anthem				
	14:30 – 14:40	Opening Prayers by Christian Religious Leader and Muslim Leader				
	14:40 – 14:45	An introductory remarks by Organizing Committee	Ms. Agum Rin Mabeny, Undersecretary, MoCYS			
	14:45 – 15:05	Performance by UNMISS Japan Contingent				
	15:05 – 15:15	Remarks from President of JICA				
	15:15 – 15:25	Participants taking Oath				
	15:25 – 15:35	Remarks from H.E. Ambassador of Japan				
	15:35 – 15:45	Remarks from Hon. Governor of Jubek State	Hon. Augustino Jadalla Wani			
15:45 – 16:35	Performances					
16:35 – 16:45	Remarks from Hon. Minister of General Education - RSS	Hon. Deng Deng Hoc Yai				
16:45 – 17:05	Speech by H.E. 1st Vice President of Republic of South Sudan	H.E. Gen. Taban Deng Gai				
17:10	Closing and Departure					
29th (Sun)	8:30 – 10:30	Football, Group A, Match 1 (Team 1 vs Team 2)		Zahara		
		Football, Group B, Match 1 (Team 5 vs Team 6)		Juba one		
		Football, Group C, Match 1 (Team 9 vs Team 10)		Maric		
	11:30 – 12:15	Religious service		Rombur TTI		
	16:00 – 18:00	Football, Group A, Match 2 (Team 3 vs Team 4)		Zahara		
		Football, Group B, Match 2 (Team 7 vs Team 8)		Juba one		
		Football, Group C, Match 2 (Team 11 vs Team 12)		Maric		
30th (Mon)	8:00 – 12:00	Athletic, Day 1		Buluk		
31st (Tue)	8:00 – 12:00	Athletic, Day 2		Buluk		
	8:30 – 10:30	Football, Group A, Match 3 (Team 1 vs Team 3)		Zahara		
		Football, Group B, Match 3 (Team 5 vs Team 7)		Juba one		
		Football, Group C, Match 3 (Team 9 vs Team 11)		Maric		
	16:00 – 18:00	Football, Group A, Match 4 (Team 2 vs Team 4)		Zahara		
	Football, Group B, Match 4 (Team 6 vs Team 8)		Juba one			
	Football, Group C, Match 4 (Team 10 vs Team 12)		Maric			
Feb. 1st (Wed)	Peace activity					
	9:00 – 9:15	Opening remarks	Ms. Agum Rin Mabeny, Undersecretary, MoCYS	Buluk		
	9:15 – 9:30	Rules of games	Mr. Lemor William Joseph, MoCYS			
	9:30 – 10:30	Tug of war (1st round: 12 teams' tournament)				
	10:30 – 10:50	Performance				
	10:50 – 11:20	Tug of war (2nd round: 6 teams' tournament)				
	11:20 – 11:40	Tug of war (semi-final: tournament of 4 teams including officers' team)				
	11:40 – 12:00	Tug of war (final)				
	12:00 – 12:20	Performance				
	12:20 – 13:00	Sack race				
	13:00 – 13:15	Closing remarks	Mr. Yugu Edward Settimo, Director General of Culture, MoCYS			
	13:15 – 14:00	Lunch (pack lunch at the Buluk athletic field)				
	14:00	Departure to the Rombur TTI				
	2nd (Thr)	8:00 – 12:00	Athletic, Day 3			Buluk
		8:30 – 10:30	Football, Group A, Match 5 (Team 1 vs Team 4)			Zahara
			Football, Group B, Match 5 (Team 5 vs Team 8)			Juba one
			Football, Group C, Match 5 (Team 9 vs Team 12)			Maric
16:00 – 18:00		Football, Group A, Match 6 (Team 2 vs Team 3)			Zahara	
		Football, Group B, Match 6 (Team 6 vs Team 7)		Juba one		
	Football, Group C, Match 6 (Team 10 vs Team 11)		Maric			
3rd (Fri)	15:30 – 18:00	Football, Semi-final, Match A		Buluk		
	15:30 – 18:00	Football, Semi-final, Match B		Zahara		
4th (Sat)	15:30 – 18:00	Football, Third place match		Buluk		
5th (Sun)	Closing ceremony and football final match					
	13:00 – 13:30	Arrival of the spectators to the venue		Juba football stadium		
	13:30 – 13:45	Arrival of invited guests				
	14:00	Arrival of H.E. 1st Vice President of Republic of South Sudan				
	14:30 – 15:00	Marching of Players accompany by Police Brass Band				
	15:00 – 15:10	Singing of South Sudan National Anthem				
	15:10 – 15:20	Opening Prayers by Christian Religious Leader and Muslim Leader				
	15:30 – 16:15	Final football match, First half				
	16:15 – 16:20	Speech Hon. Minister of Information, Culture, Youth and Sports Jubek State				
	16:20 – 16:30	Performance				
	16:30 – 17:15	Final football match, Second half				
	17:15 – 17:30	Remarks by President of JICA				
	17:30 – 17:35	Speech by Hon. Minister of Culture, Youth and Sports RSS				
	17:35 – 17:45	Speech by H.E. 1st Vice President of Republic of South Sudan				
17:45 – 18:15	Awarding Ceremony					
18:30	Departure					

別添 9 : 第 7 回現地調査 技術交換プログラム議事録

第 7 回現地調査 打合せ議事録(技術交換プログラム)

- (1) Ministry of Education and Sports (MoES), Department of Physical Education and Sports (PES)
- (2) Federation of Uganda Football Associations (FUFA)
- (3) National Council of Sports (NCS)
- (4) Uganda Olympic Committee (UOC)
- (5) Uganda Athletics Federation (UAF)
- (6) Young African Refugees for Integral Development (YARID)
- (7) Youth Sport Uganda (YSU)
- (8) Uganda Volleyball Federation (UVF)

(1) Ministry of Education and Sports (MoES), Department of Physical Education and Sports (PES)

Date	2/March/2017 9:20 ~ 11:00
Organisation	Ministry of Education and Sports (MoES), Department of Physical Education and Sports (PES)
Participant	Assistant Commissioner Sports Mr. Sammy Odongo, Coordinator of Primary and Secondary Schools Sports Programme Mr. Opio, South Sudan delegation, Ms. Junko Uchida, Mr. Yasuo Ohno, Ms. Misa Abiko (note-taker)
<ul style="list-style-type: none"> • Department of Physical Education and Sports (PES) was established in 2005/6 under the Ministry of Education and Sports (MoES), and it is a technical department of sports. Mission: Creation of a healthy, united, democratic and productive nation through physical activity and excelling in sports Mandate: (1) improve planning, management and administration of provision of PES in the country, (2) improve quality of and access to PES to all citizens in the country, (3) develop a cadre of high performing national athletics on a sustainable basis. • Some key functions of PES department are to make law, policy and guidelines for PES and train teachers of PES as capacity development; to cooperate with NCS in the matter of Ugandan sports organisations; to make strategic planning and budgeting for PES. • PES department has cooperated with Germany, China and Japan and received sports equipment or training courses (though donors and stakeholders support only specific areas, e.g., JICA focuses on PE and child health). • PES department have some challenges: (1) The laws passed in 1964 should be revised. (2) Attitude toward PES in the country needs to change (little concern of national or local government, NCS and schools about PES). (3) PES department has financial problems, so that they are not able to provide human resource, materials and equipment to community and school. (4) Sports facility and equipment in the country are insufficient. Infrastructures such as playgrounds are poor. (5) The capacity of Ministry staff is not sufficient. They have little knowledge of technical matter of sports. 	

- As a benchmark of dissemination of PES, PES department aims to let all students at primary school have physical education classes and to make it become a part of their life.
- PES department thinks that NCS is considerably important. It is recommended that a country should have the same system to work together efficiently.
- Sports programme was implemented in Karamoja sub-region in North-eastern Uganda to ease stress of people due to conflict. Sports was utilised for cohesion and letting children back to school.
- In terms of gender issue, boys' team and girls' team are formed at schools to let both men and women play sports.

(2) Federation of Uganda Football Associations (FUFA)

Date	2/March/2017 11:50 ~ 13:15
Organisation	Federation of Uganda Football Associations (FUFA)
Participants	Finance Director Mr. Kiiza Decolas, South Sudan delegation, Ms. Junko Uchida, Mr. Yasuo Ohno, Ms. Misa Abiko (note-taker)
<ul style="list-style-type: none"> • FUFA was established in 1924 and was admitted to FIFA in 1960. Vision: To be the number one football nation in Africa on and off the field Mission: To develop, promote and protect football for all • FUFA is composed of associations which are 32 (thirty two) full members and 2 (two) associate members • Full members are 16 (sixteen) Elite League Club, FUFA Big League Clubs, 8 (eight) Reginal Football Associations, Uganda Coaches Football Association, Uganda Football Referees Association and Uganda Football Players Association, etc. • FUFA consists of 6 (six) bodies; General Assembly, Executive Committee, Standing Committee, Judicial Bodies, Secretariat and FUFA Ltd. General Assembly has 88 delegates elected from associations mentioned above. The members of Executive Committee are a president, 1st and 2nd vice president, 3rd vice president from the Elite League, 8 regional representatives and 1 woman member. • FUFA leagues are divided into 5 (five) divisions. 1st division is called the Super League, 2nd is the Big League, 3rd is the Reginal Leagues, and 4th and 5th are the District Leagues. In addition, competitions are organised by FUFA such as the Inter-Regions Competition, the Women Football Competition, and the FUFA Schools Competition. All football competitions need authorisation from FUFA or its delegated authority if players registered by FUFA or licensed coaches and referees participate in it. • Currently, FUFA are working on compiling the information of players on a database and making regulations for club ownership, player's contract, and hooliganism and violence. • For Youth training, FUFA provides technical and equipment support to schools. • Njeru technical centre was built to provide training courses of referees and coaches and to develop grass-root football. • NCS law has not been revised since 1964. It needs revision, since the contents of laws are not fitted to 	

the present situations.

- FUFA has challenges in insufficient resources and equipment such as human resource, uniform or ball.
- 70% of FUFA fund comes from foreign investment.
- FUFA Ltd. is a legal entity that transacts business on behalf of FUFA.
- FUFA hires full-time staffs for marketing and experienced staffs for PR. The marketing department takes a major role in attracting potential sponsors and obtaining funding from investors. FUFA owns a radio studio in their office building to broadcast news on football.
- In Uganda, there has been increase in the number of girls' and women's football players. In accordance with this situation, FUFA organises some training courses for women and run the national Women Elite Football league. They plan to send their staffs to FIFA Women Football Administration course and carry out competitions for women.
- Referees manual is prepared.

(3) National Council of Sports (NCS)

Date	2/March/2017 14:50 ~ 15:30
Organisation	National Council of Sports (NCS)
Participant	General Secretary Mr. Nicholas Muramagi, Assistant Procurement Officer Ms. Sidy Among, South Sudan delegation, Ms. Junko Uchida, Mr. Yasuo Ohno, Ms. Misa Abiko (note-taker)
<ul style="list-style-type: none"> • NCS was established in 1964 by instituting an Act of Parliament. Main mandate is to set up policy and implement the law under the Ministry of Education and Sports. Vision: To provide an enabling environment for the investment in and promotion of Sports in Uganda Mission: Maximizing opportunities for all Ugandans to participate and excel in Sports • Sports can improve country's image, and promote tourism and increase income. • Functions of NCS are; <ol style="list-style-type: none"> (1) To develop and promote all forms of sports with sports-related associations (2) To encourage and facilitate cooperation among the national sports organisations (3) To approve international/national sports competitions and festivals organised by national or other associations (4) To approve sports events and organise it with national associations (NCS does not implement sports events only for themselves) (5) To provide funding (scholarship) for the training of coaches and administrators (6) To promote facility development (7) To advise the Minister of Sports regarding external reactions • Giving a priority to associations (performance based) and supporting some sports are crucial for NCS. More budget could be allocated to high performance associations. • All sports-related associations and federations should register for NCS. Registration process is as follows; 	

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) Register with the Ministry of Lands (2) Incorporate any national associations or federations (3) Apply for registration with NCS (4) Issue a certificate of recognition for associations or federations |
|--|

(4) Uganda Olympic Committee (UOC)

Date	2/March/2017 16:00 ~ 17:00
Organisation	Uganda Olympic Committee (UOC)
Participants	Secretary General Dr. Donald Rukare, South Sudan delegation, Ms. Junko Uchida, Mr. Yasuo Ohno, Ms. Misa Abiko
<ul style="list-style-type: none"> • UOC was established in 1950 and was admitted to IOC in 1956. • UOC consists of five components; the General Assembly, the Executive Committee, the UOC Council, the Secretariat (five members) and the commissions (twelve) /committees. The Executive Committee holds a meeting every last Friday of the month. The UOC Council has a meeting every quarter to gather at one place, share the information and give or receive feedback. • Uganda participated in 23 events of the Olympic Games. Sports, however, is not regarded as an important matter in Uganda, but is considered for playing and enjoying. It is probably due to the conflict in 1980's and 90's. 56 national sports institutions in Uganda have received no specific advice. A half of national federations have the strategic plans, 25 have their own offices. • As capacity building, UOC implements training programmes and offers scholarship for sports courses such as diploma or master courses. Approximately 800 administrators have been trained by UOC. • UOC tries to maintain transparency of the election process of members since it tends to be political. • There will be always political constrains (ego wars). The relationship with government should remain favourable. • The policy or institutional framework should be revised at a regular interval. • The relationship with media is important. They criticise the organisations, but also help the organisation's activities somehow. • Sports needs to be extended to communities as social hope or to restore hope. It can be a platform for peace and unity. 	

(5) Uganda Athletics Federation (UAF)

Date	3/March/2017 9:45 ~ 11:00
Organisation	Uganda Athletics Federation (UAF)
Participants	Administrative Officer Mr. Masaba Timothy, South Sudan delegation, Ms. Junko Uchida, Mr. Yasuo Ohno, Ms. Misa Abiko (note-taker)
<ul style="list-style-type: none"> • UAF was established in 1925 and is the third oldest athletics federation in Africa. • UAF popularises and supports the activities of athletics, cross country, mountain running and marathon under National Council of Sport. 	

- Executive Committee consists of 11 members. Annual assembly is held each year.
- Organisations can learn professionalism from international bodies. The process to strengthen the organisation might be; international → Africa → regional → national → local.
- UAF provides training programmes for referees and coaches in Uganda or in Nairobi (regionally).
- To identify talented persons, UAF focuses on a grass-root level. For example, UAF establishes sports schools or organises competition events (Sports Day) at schools. After identifying talented students through competition, UAF provides scholarship to them. This motivates other children as well as sports players.
- UAF fundraises through government.
- Good players can be used as advertisement. It is necessary to appeal to sponsors with pictures of popular and talented players of the country.
- For commercialisation, organisations should buy data. For example, a popular club or a star of calendar can be used for advertisement and publicity. It can be sold and attract people.
- Store or shop need to pay for credit at the playground where competition is held. The credit is a part of fund of UAF.
- For peacebuilding after conflict especially in Northern Uganda, sports was brought into community or camp to gather people.
- World Cross Country Championship will be held in Kololo stadium in Kampala on 26th March and UAF is working as a host of this event.

(6) Young African Refugees for Integral Development (YARID)

Date and time	3/March/2017 11:45 ~ 12:30
Place	Young African Refugees for Integral Development (YARID)
Participants	Executive Director Mr. Robert Hakiza, Project Manager Mr. Stephen Windsor, South Sudan delegation, Ms. Junko Uchida, Mr. Yasuo Ohno, Ms. Misa Abiko (note-taker)
	<ul style="list-style-type: none"> • YARID is an NGO established in 2008. The majority of refugees in Kampala were from the Democratic Republic of Congo and the founders of YARD are also refugees from the DRC. They thought that refugees should be one and they need a peaceful place to gather. • The aim is to support refugees evacuated from the neighbouring nations such as the Democratic Republic of Congo, Rwanda and Burundi who are living in Kampala. The target is young people. With the increase of refugees from South Sudan, YARID also supports them. • The main activities are sports programme (Sports for Development), women's empowerment, educational programme. YARID thinks that Sports is a tool to let people gather. They organise a football programme every Saturday. YARID gives free English class and job placement programme to refugees. English class is for Congolese who are French speakers. Job placement programme helps refugees to learn how to write CV and apply for a job. As a women's programme, women can learn how to tailor and make craft.

- There are 4 important aspects of how they manage the organisation; close collaboration with community, securing space for discussion, utilisation of local resources and determination of members.
- Challenges are a lack of capacity to implement new activities, negative attitude from big organisations and difficulty in integration.
- Last year, YARID organised the football tournament called “soccer for peace” supported by UNHCR. Refugee teams participated in the event. There was a big distance between refugees of the Congolese, Burundian, Rwandan and South Sudanese. At the end, however, they became one. The workshops with ten topics were held during the event, such as peace-building, conflict resolution, HIV/AIDS, and nutrition and health.
- So far, there is no connection between refugees and the Uganda Olympic Committee. Since the refugee football teams are active and there are many talented players among refugees, YARID would like to give them the opportunity to play in a big match.
- Through activities, YARID realised the importance of community knowledge. They have the connection with church and refugee organisations in communities and work with other organisations for giving social support to refugees. South Sudan refugees gather in church on weekend.
- Girls’ sports teams are formed. Some parents oppose to the fact that girls play sports. YARID talks with parents and persuades them to let girls play sports.
- Some refugee football teams play at the football league at level 3 or 4. Football teams need to get licences from FUFA to participate in the league. FUFA provides training programmes.
- YARID offers sports programmes besides football, but it depends on the availability of trainers. For example, a Japanese coach taught baseball to youth a few years ago. He bridged between refugees and the national team.
- Dinka and Nuel evacuated from South Sudan are living in different places in Kampala on the tribal basis and make their own football teams. A football tournament was held only for South Sudanese. They played together and it helped them to gather and unite.

(7) Youth Sport Uganda (YSU)

Date	3/March/2017 14:20 ~ 15:30
Organisation	Youth Sport Uganda (YSU)
Participants	Executive Director Mr. Joshua Opolot, International Sales Director Ms. Ruth Hoffman, South Sudan delegation, Ms. Junko Uchida, Mr. Yasuo Ohno, Ms. Misa Abiko
	<ul style="list-style-type: none"> • YSU is a Ugandan NGO which was established in 2006 and supports youth through sports. Their targets include refugees from South Sudan. • YSU organises sports programmes such as football (Football for Life) and hockey, beads programme for girls, school sponsorships, sport camps, and equipment distribution. • The football programme is carried out every Saturday. Youth learn health and educational issues such

as HIV/AIDS through the sports programmes.

- Beads project is implemented in Acholi Quarter in Kampala. Through school sponsorships by beads project, girls are able to go to school. This project won East African innovation project award.
- Some boys and girls got scholarship through football and hockey programmes.
- In 2011, YSU collaborated with Liberty University (USA) and organised a sports camp together in Lugogo Stadium in Kampala. The university students were players of various sports, such as baseball, football, etc., and they taught sports to Ugandan children. To use Lugogo Stadium, the permission was required from NCS.
- As the equipment distribution programme, Chalene's Foundation (Ireland) and Liberty University donated a large number of sports gears to YSU.
- YSU collaborates with Uganda Youth Football Association (UYFA), Uganda Sports for Development Partnership and NCS. If they plan to organise a youth football programme, it is necessary to contact UYFA. Additionally, they have international networks such as International Council of Sport Science and Physical Education and International Sport and Culture Association etc.
- As parts of fundraising, YSU sells beads products, t-shirt and mug cups domestically and internationally (e.g. website, international sports clubs such as the international Softball Federation and Canadian Softball team). They utilise Paypal or Cloud Funding sites for fundraising. It is crucial to communicate with fundraiser closely.

(8) Uganda Volleyball Federation (UVF)

Date	3/March/2017 16:35 ~ 17:30
Organisation	Uganda Volleyball Federation : UVF)
Participants	President Ms. Hadija Namanda, Assistant General Secretary Ms. Eunice Nuwabigaba, Media Commission Mr. Daniel Okwee, South Sudan delegation, Ms. Junko Uchida, Mr. Yasuo Ohno, Ms. Misa Abiko (note-taker)
<ul style="list-style-type: none"> • Volleyball Federation is an institution to provide technical supports. It collaborates with the Uganda Olympic Committee (UOC), the African Volleyball Confederation (CAVB) and International Volleyball Federation (FIVB). • Ms. Hadija Namanda is a first female president of UVF and was a former volleyball player. The Second Vice President is determined to be female in terms of gender equality. • The players are divided into two categories; junior and senior. • Sports Organising Commission is in-charge of organising a volleyball tournament. • Uganda Volleyball Tribunal (UVT) was established and it observes all volleyball activities from a neutral perspective. • In terms of gender allocation, women are more likely to enjoy volleyball since they are interested in it compared to other sports. • As a part of capacity building, UVF offers scholarship for students such as the Master course. • UVF organises the training course of referees at national level in Uganda. It also implements the 	

training programme for coaches.

- Club teams pay registration fee to participate the tournament, which is one of the fund sources of UVF. The entrance fee of matched also become their fund.
- Capacity building of referees and coaches has three steps; level 3 at international level, level 2 at national level and level 1 at local level.
- To grow up players from grass-root or school level, three volleyball academies were established in Uganda.
- Uganda women team had a two-week training course in the Netherland in 2014.
- NSSF (National Social Security Fund) has been a sponsor for the national volleyball team and national league, which is now called the NSSF volleyball league. Strategic plan and monitoring and evaluation are crucial for sponsorship.
- Top two teams of national league are qualified as representatives of the Ugandan national team.
- Team needs exposure or participation in matches to gain its capacity.
- For referees' training, some should go to an international level training course. If the country raises national level referees, they leads to improve local level.
- Volleyball Cooperation Programme (VCP) offered by FIVB is a starting point for teacher training. It can be replicated in the country. It is important to make progress step by step.
- UVF supports beach volley, which is divided into U21, senior and international team.